

「防災教育」学校・地域連携事業 実施事例集

(平成 28 年度指定校)

平成 29 年 2 月

新潟市教育委員会

目 次

| | |
|-------------------------------------|-----|
| 1. 本事業の概要 | 1 |
| 2. 平成 28 年度指定校における防災教育 | |
| 1) 新潟市立松浜中学校区（北区） | 4 |
| 松浜中学校， 松浜小学校 | |
| 2) 新潟市立早通中学校区（北区） | 14 |
| 早通中学校， 早通南小学校 | |
| 3) 新潟市立山の下中学校区（東区） | 24 |
| 山の下中学校， 山の下小学校， 桃山小学校 | |
| 4) 新潟市立鳥屋野中学校区（中央区） | 38 |
| 鳥屋野中学校， 上所小学校， 女池小学校 | |
| 5) 新潟市立白新中学校区（中央区） | 52 |
| 白新中学校， 鏡淵小学校， 白山小学校 | |
| 6) 新潟市立大江山中学校区（江南区） | 66 |
| 大江山中学校， 丸山小学校， 大淵小学校 | |
| 7) 新潟市立新津第一中学校区（秋葉区） | 80 |
| 新津第一中学校， 新津第一小学校， 新津第三小学校 | |
| 8) 新潟市立白南中学校区（南区） | 94 |
| 白南中学校， 新飯田小学校， 茨曾根小学校， 庄瀬小学校 | |
| 9) 新潟市立臼井中学校区（南区） | 114 |
| 臼井中学校， 臼井小学校 | |
| 10) 新潟市立坂井輪中学校区（西区） | 124 |
| 坂井輪中学校， 新通小学校， 坂井東小学校 | |
| 11) 新潟市立内野中学校区（西区） | 138 |
| 内野中学校， 内野小学校， 西内野小学校， 内野小・中学校希望が丘分校 | |
| 12) 新潟市立岩室中学校区（西蒲区） | 158 |
| 岩室中学校， 岩室小学校， 和納小学校 | |

1. 本事業の概要

(1) 本事業の目的と実施方針

本事業の目的は、教育ビジョンで新潟市が目指す子どもの姿・市民の姿の実現に向け、市内各校が行う防災教育の内容が、家庭や地域と連携した実践的な取組となり、学校に定着し継続したものとなるよう支援することです。

実施方針としては、新潟市教育委員会が新潟県「ふるさと新潟防災教育推進支援事業（学校実践）」に申請し、その補助金を活用して事業を進めていきます。平成27年度から平成31年度の5年間で、市内全小・中・中等教育・特別支援学校を支援し、各校の新潟県「防災教育プログラム」必須項目を含む各学校の地域の特色に応じた防災教育の自校化にむけた、防災教育実践の専門的な支援、コミュニティ協議会等との地域連携のサポートを行います。

(2) 平成28年度の取組の概要

①「防災教育」学校・地域連携事業説明会・防災教育プログラム研修会

期 日 平成28年5月12日（木） 時 間 14:00～16:30

会 場 白山浦庁舎 7号棟 405会議室

参加者 平成28年度指定校担当者，地域教育コーディネーター

内 容 事業概要の説明，平成27年度先行実践校の発表，中学校区ごとのグループワーク（地域と連携した防災教育を推進する上での課題等）

②各中学校区での防災教育支援サポート

期 日 平成28年6月～平成29年1月 約3回程度 時 間 15:00～16:30頃

会 場 各中学校区小・中学校

参加者 各中学校区担当者，中学校区支援担当者（コンソーシアム）

内 容 地域連携の意義とその方法についての検討，学校ごとの取組についての情報共有
自校化プラン，年間指導計画，実践事例作成サポート

③「防災教育」学校・地域連携事業指定校報告会兼研修会

期 日 平成 29 年 2 月 23 日 (木) 時 間 14 : 00 ~ 16 : 30

会 場 白山浦庁舎 7 号棟 405 会議室

参加者 平成 28 年度指定校担当者・平成 29 年度指定校担当者

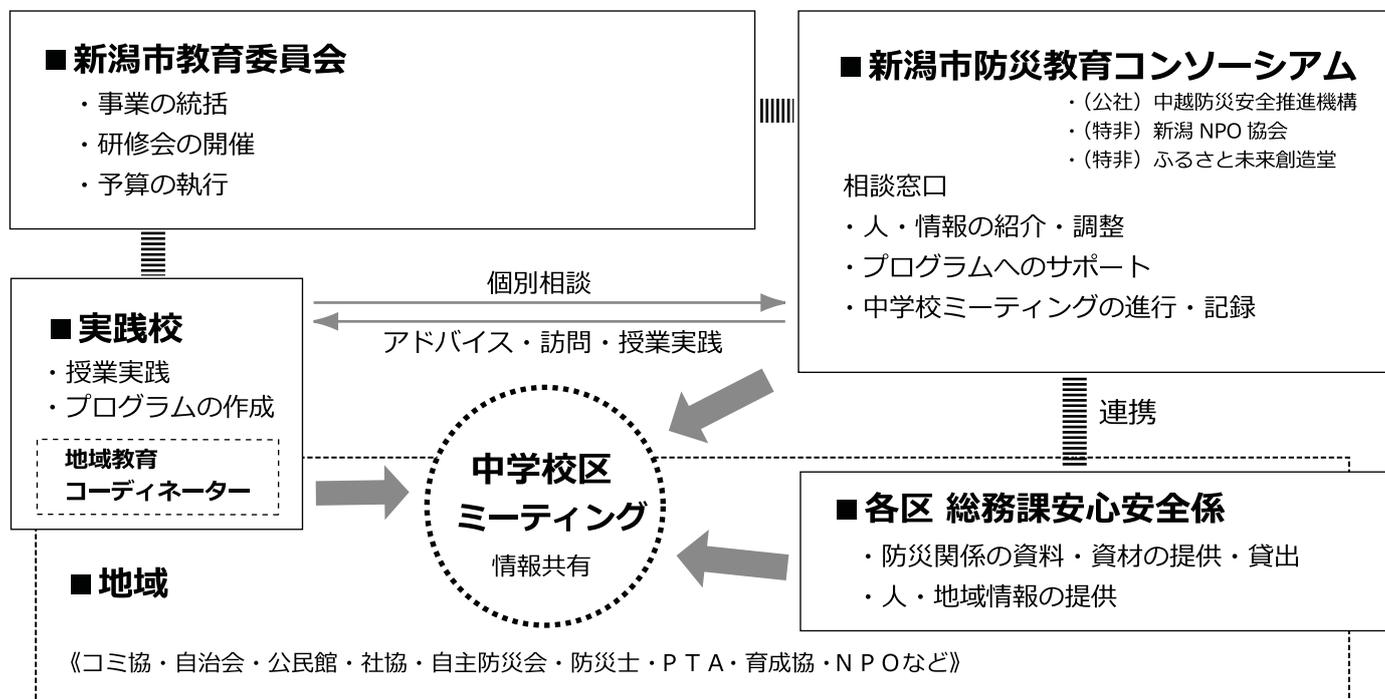
内 容 平成 28 年度指定校代表による「自校化プラン, 年間指導計画, 実践事例」報告発表, 平成 28 年度, 29 年度指定校合同グループワーク (地域と連携した防災教育の意義とその課題等)

(3) 平成 28 年度「防災教育」学校・地域連携事業指定校

| 区 | 学校名 | 区 | 学校名 | 区 | 学校名 |
|-----|--------|-----|---------|-------------------|--------|
| 北区 | 松浜小学校 | 江南区 | 丸山小学校 | 西区 | 新通小学校 |
| | 早通南小学校 | | 大淵小学校 | | 坂井東小学校 |
| | 松浜中学校 | | 大江山中学校 | | 内野小学校 |
| | 早通中学校 | | 新津第一小学校 | | 西内野小学校 |
| 東区 | 山の下小学校 | 秋葉区 | 新津第三小学校 | | 坂井輪中学校 |
| | 桃山小学校 | | 新津第一中学校 | | 内野中学校 |
| | 山の下中学校 | 南区 | 新飯田小学校 | 内野小・中学校 希望が丘分校 | |
| 中央区 | 上所小学校 | | 茨曾根小学校 | 岩室小学校 | |
| | 女池小学校 | | 庄瀬小学校 | 和納小学校 | |
| | 鏡淵小学校 | | 臼井小学校 | 岩室中学校 | |
| | 白山小学校 | | 白南中学校 | | |
| | 鳥屋野中学校 | | 臼井中学校 | | |
| | 白新中学校 | | | | |

(4) 本事業全体イメージと新潟市防災教育コンソーシアムの役割

本事業では、市内各校で行なわれる防災教育の内容が実践的な取組となるように、様々な団体・組織が支援をしています。



この事業を進めるにあたって、学校や地域の特性、実態に合わせた防災教育が実施されるように、公益社団法人中越防災安全推進機構・認定特定非営利活動法人新潟 NPO 協会・特定非営利活動法人ふるさと未来創造堂の3者で「新潟市防災教育コンソーシアム（連合体）」を組織し、事業全体のサポートを担っています。

新潟市防災教育コンソーシアムの主なサポート内容は以下の通りです。

- ・年3回の中学校区ミーティング日程の調整，案内，当日の進行，記録
- ・学習プログラムの企画立案のサポート
- ・講師としての授業実践または個別相談（※各校1回程度）
- ・講師（専門家・語り部等）の紹介・コーディネート
- ・地域や外部団体との連携サポート
- ・教材資料の貸出・提供
- ・事業説明会および報告会の研修内容の企画・立案・当日運営（年2回）等

各種サポートを通じて、学校と家庭・地域との連携を深め、各学校での防災教育の取組が定着・継続したものとなるよう、支援をいたします。

2. 平成 28 年度指定校における防災教育

1) 松浜中学校区（北区）

対象校：松浜中学校・松浜小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

| | 実施日・会場 | 検討内容 |
|-----|---|---|
| 第1回 | 平成 28 年 6 月 28 日 16:00 ~ 17:00 会場：松浜小学校 | 1. 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業について (事業目的・概要・自校化の定義等に関する再確認) 2. 年間指導計画について 3. 需用費，講師謝金について |
| 第2回 | 平成 28 年 8 月 9 日 16:00 ~ 17:00 会場：松浜中学校 | 1. 各校の進捗状況について (情報共有) 2. 防災士の活用について (情報共有) 3. 各校のプログラムについて (意見交換) |
| 第3回 | 平成 28 年 12 月 6 日 16:00 ~ 17:00 会場：松浜中学校 | 1. 各校の進捗状況について (情報共有) 2. 各校のプログラムについて (意見交換) 3. 報告書の作成について (意見交換) |

② 各学校へのサポート事例

| 対象校 | 実施日 | サポート種別 | サポート内容 |
|-------|----------------------|---------------|--|
| 松浜中学校 | 平成 28 年 6 月 16 日 | 講座実施 ヒアリング | 地域との連携による防災訓練時に「避難所の実態と避難所における中学生の役割」をテーマに，全校生徒を対象とした 30 分程度の講座を実施。 講座終了後，防災教育担当の教諭，校長より学校の方針に関するヒアリングを行った。 |
| 松浜中学校 | 平成 28 年 9 月 28 日 | 講座実施 資料提供 | 松浜中学校 1 年生を対象とし，災害発生時の避難行動及び避難所に関する講座を実施。 防災士が参観。資料提供を行った。 |
| 松浜中学校 | 平成 28 年 9 月 28 日 | 参観 | 松浜中学校 2 年生を対象とし，避難所運営に関する授業を実施。想定される役割について，ワークショップ形式で意見交換。コンソーシアムより実際の事例等を元にアドバイスを行った。 |
| 松浜中学校 | 平成 28 年 11 月 25 日 | 参観 | 松浜中学校 2 年生を対象とし，避難所の役割に関する授業を実施。ワークショップ形式で意見交換。 |
| 松浜中学校 | 平成 28 年 11 月 30 日 | 参観 | 松浜中学校 2 年生を対象とし，避難所運営に関する授業を実施。実際の具体的な動きを想定したシミュレーション形式。各グループの動きについてコンソーシアムよりコメントを入れながら進めた。 |
| 松浜小学校 | 平成 28 年 12 月 15 日 | 講座実施 資料提供 | 松浜小学校 5～6 年生を対象とし，新潟市防災教育プログラムの動画閲覧と，災害発生時の避難行動に関する講座を実施。学校に資料提供を行った。 |
| 松浜小学校 | 平成 28 年 12 月 16 日 | 打ち合わせ | 防災士と小学校による，今後の防災教育に関する打ち合わせに同席。 |

【6/16 松浜中学校 地域連携防災訓練】



【6/16 松浜中学校 地域連携防災訓練】



【8/9 松浜中学校区ミーティング】



【12/15 松浜小学校 防災講座】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

松浜中学校区は、1小学校1中学校の中学校区ということもあり、学校間での話し合いや情報共有がスムーズであった。

地震による液状化や、津波による浸水が広い範囲で想定されている地域であり、地震・津波に重点を置き、地域特性に配慮した内容で構成し、小中学校ともに、いざという時に子どもたちが主体的に判断できる力が育まれるよう工夫していた。例えば、避難所運営の方法や避難行動について、子どもたち自身が考え意見交換するプロセスを経て、教員とコンソーシアムのコーディネーターからアドバイスを行う等、より具体的で実感を伴った学習になったのではないかと考えられる。また、地域教育コーディネーターと積極的に関わり、防災を1つの切り口として地域住民の参加を促し、日常的な交流につなげていた。

<松浜中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|---|--|
| <p>学校・児童 生徒・地域 等の実態 ※地域の優 先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・海岸沿いで、低地と砂丘部からなる。また、阿賀野川、新井郷川に挟まれている。 ・松浜地区の低地は地盤が軟らかく、大地震時は強い揺れや液状化の可能性がある。 ・砂丘縁辺部では、がけ崩れの危険がある。 ・津波発生時や大雨による洪水では広い浸水が想定される。 |
| <p>保護者・地 域・教職員 等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事や資源回収等、中学生が地域と関わる機会はあるが、有事のときを考え、中学生とのさらなる交流を望んでいる。（特に地域の防災訓練等） ・自助・共助の意識を持ち、地域に貢献できる中学生であってほしい。 |
| <p>防災教育に おいて、目 指す児童生 徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・将来にわたって自分の身は自分で守れる生徒 ・地域の一員としての自覚を持ち、有事には進んで協力することができる生徒 |
| <p>補助交付期 間に実施し た主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・6月の避難訓練を地域との協働防災訓練と位置づけ、以下の活動を行った。（全校） <ul style="list-style-type: none"> ①起震車による地震体験 ②アルファ化米の試食 ③新聞紙スリッパの作成 ④地域の自治会長を交えての中学生と地域の交流についての話し合い ・防災教育コンソーシアムの方の協力を仰ぎ、防災に対する関心・知識を深めるための講話をしていただいた。（全校） ・本校が避難所になった時を想定し、想定される諸問題に対してどのような対策がとれるか話し合う活動を行った。 また、この様子を防災士さんに見ていただき、助言をいただいた。（2年） |
| <p>自校プラン の内容</p> | <p>3年間を見据えた指導計画の作成・実践</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次 地域の防災を知る （自助） 2年次 避難所について考える （共助） 3年次 中学生ができることを考える（実践・発信） |
| <p>自校プラン を継続する ための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間のカリキュラムの1つとして位置づけ、学習時間の確保に努める。 ・地域の消防団、防災士、自治会の方々と連携して活動を組む。 |

2. 松浜中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----|----|------------------------------------|--|----|----|-----|-----------|-----|----|----|----|
| 第1学年 | | | 協働防災訓練 起震車体験 アルファ化米試食 自治会との話し合い | ○地域の防災を知る ・災害の知識を身に付ける ・ハザードマップの作成 ・自治会との話し合い | | | | | | | | |
| 第2学年 | | | | ○避難所について考える ・避難所での生活を知る ・HUG ゲーム ○避難所運営を想定した話し合い | | | | 避難訓練 (火災) | | | | |
| 第3学年 | | | | ○中学生ができることを考える ・HUG ゲーム ・ジュニアレスキュー ・防災をテーマにした動画の作成 (情報発信) | | | | | | | | |

3.松浜中学校 防災教育指導例

中学校2年

(学習のねらい)「災害発生時における避難所の役割がわかる」

・具体的な場面を想定することで防災への意識を高める

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|-------|--|--|
| 【導入】 | <p>1. 場面設定の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>日 時：11月26日(土) 夕方6時 災害の種類：地震 マグニチュード7.5 災害発生の場所：新潟県粟島南方沖 40km 震源の深さ 34km 津波の危険性：あり 阿賀野川氾濫の可能性：あり 避難所：松浜中学校 立 場：避難所運営スタッフ</p> </div> <p>各グループの場面設定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>グループ1(赤) 災害発生当日。避難所へ来た初日の対応。 グループ2(青) 災害発生から3日。より快適な避難所生活の運営。 グループ3(黄) 災害発生から1ヶ月。学校再開と避難所のあり方。</p> </div> | <p>○4人1組班を編成し、班ごとに円をつくる。 ○各班に「班長」「記録」「集配」「庶務」の係を置く。</p> <p>○32班を3つのグループに分け、それぞれで学習課題を用意する。 ○グループを色分けする。 ○各グループで「総務」「情報」「救護」「環境」「食料物資」のうち、1つをそれぞれの班が担当する。 ○グループに封筒を渡し、場面、係を伝える。</p> |
| 【展開】 | <p>2. よりよい避難所運営のためにイベント対応を考えよう</p> <p>各班で、どのようにイベントに対応するかを考える。対応のねらいや理由、配慮事項についてまとめ、説明できる準備を行う。</p> <p>3. 係が対応を紹介し合い、避難所全体の運営について考えよう</p> <p>班員がそれぞれ自分たちの対応について紹介し合う。紹介後、避難所としての対応で無理なところがないか、より効率的な対応がないか等について話し合う。</p> | <p>○タイマーで時間を表示する。 ■各設定での避難所の役割に気づけたか。 ■各設定における役割分担に気づけたか。</p> <p>○タイマーで時間を表示する。 ■具体的な場面を想定し、よりよい避難所運営を考えることができたか。</p> |
| 【おとぎ】 | <p>4. 学習の振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>松浜中学校は地域の避難所になっている。身近な学校が避難所になった場合に求められる行動をとることができるだろうか。また、将来自分がどこで生活をするのかはまだわからない。どこにいても災害に備えること、災害に対応することができる人になってほしい。</p> </div> | |
| 【評価】 | <p>○災害発生時における避難所の役割がわかったか。 ○具体的な場面を想定することで防災への意識を高めることができたか。</p> | |

【授業実践の様子】

6月16日 協働防災訓練



起震車体験



アルファ化米試食



自治会との話し合い

11月25日 避難所運営を想定した話し合い



各グループのイベント一覧

| | グループ1 | グループ2 | グループ3 |
|-------|-----------------|--------------------------|--|
| 総務班 | 日本語がわからない家族が来た。 | 申し出なく避難者が退去した | 交流イベントの企画・運営 |
| 情報班 | 避難所利用者数を知りたい | 避難所掲示板を役立てるために、どんな配慮が必要か | 県知事や大臣が視察に来る |
| 救護班 | トイレの利用について | 赤ん坊の泣き声がうるさい | 不安や心配事が解消されず、不眠を訴える人がいる。 |
| 環境班 | ペットの受け入れ | プライバシーの確保 | 避難所で窃盗事件があった。 |
| 食料物資班 | 夕食の提供と配慮事項 | 支援物資の置き場所と管理方法 | 周辺の商店が営業を再開したが、食糧支援の要望がある。支援物品が不足している。 |

<松浜小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <p>海岸に面し、水位と変わらぬ標高地域のため、洪水や津波の危険がある。避難訓練への消防団の参加等、学校に協力して防災に取り組もうという意識は高い。</p> <p>地震やそれに伴う津波のことを知っている児童は多いが、津波からの避難等、具体的な方法を知っている児童は少ない。学校外での災害時の避難場所、一人で避難する方法、家族との連絡の取り方等に不安が残る児童も多い。</p> |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <p>P T Aを中心に、防災に対する意識と対策への要望は高い。昨年度から引き渡し訓練を行っているが、改善のためのアンケートに積極的に答え、要望も多い。</p> <p>避難訓練や学級指導等で災害に対する意識や避難の方法は身に付いてきているが、それらは学校にいる時を想定したものが多く、学校外（登下校時や家にいる時等）でも、災害から身を守る方法を学ばせたいと考える。</p> |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の命は自分で守れる子ども ・防災についての基礎的、基本的事項を理解できる子ども ・災害発生時には集団や地域の安全に役立つことができる子ども |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 4月（火災） 6月（地震・津波、引き渡し訓練） 11月（休憩時における地震） ・各教科・総合的な学習と関連づけた防災学習の実施 ・ゲストティーチャーによる講演会（5・6年） |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の消防団に避難訓練の様子を見ていただきアドバイスをもらった。引き渡し訓練のあと、保護者アンケートを実施して次年度の計画の参考にした。 ・各教科や総合的な学習と「新潟県防災教育プログラム」を関連づけて防災学習を実施した。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・引き渡し訓練を含む避難訓練計画の見直し ・各教科・総合的な学習と関連づけた防災学習の実施 ・学校外での災害時の安全な行動を身に付けるための家庭・地域への働き掛け ・地域教育コーディネーターとの連携による地域の方を講師とした学習 |

2. 松浜小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
|------|-----------------------------|------------------------|------------|---------|------------------|------------------|-----------|------|---------------------------|----|----|------|--|
| 第1学年 | 避難訓練 | | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | 通学路確認 生活 学校探検 (教室確認) | 避難訓練 | 地震津波対応 | 引き渡し訓練 | 町内子ども会 | 生活 町探検 (町の様子) | 松浜地区 防災訓練 | | | | | 学級活動 | |
| 第3学年 | 生活 町探検 (通学路) | 地震津波対応 | 引き渡し訓練 | 地域の安全確認 | 生活 町探検 (町の様子) | 避難訓練 | 休憩時 | 地震対応 | | | | | |
| 第4学年 | 社会 わたしたちのまち (町の様子・海拔) | 社会 安全な暮らしと まちづくり | 社会 新井郷川 | 津波訓練 | 社会 新井郷川 | 津波訓練 | 津波訓練 | 雪害 | | | | | |
| 第5学年 | 社会 わたしたちのまち (町の様子・海拔) | 社会 安全な暮らしと まちづくり | 社会 新井郷川 | 津波訓練 | 社会 新井郷川 | 津波訓練 | 津波訓練 | 雪害 | | | | | |
| 第6学年 | 社会 わたしたちのまち (町の様子・海拔) | 社会 安全な暮らしと まちづくり | 社会 新井郷川 | 津波訓練 | 社会 新井郷川 | 津波訓練 | 津波訓練 | 雪害 | 社会 わたしたちの 暮らしを支える政治 | | | | |

3.松浜小学校 防災教育指導例

| B-2・3 小学校高学年 ※地-必須-5 対応 ※地-選択-2 対応 | | (学習のねらい)「地震等の災害に備えて、私たちが日頃から備えておくことの必要性を知る」 ・私たちが行う防災対策について知る。 | |
|---|---|--|-------------|
| | | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
| 【導入】 | <p>1. 地震や津波の恐ろしさを知り、学校管理下以外の時間帯の多さを認識することで、「自分のこととして避難について考えることの必要性」に着目させる。</p> <p>① 中越大震災での家屋倒壊の写真や新潟地震での津波の写真を提示し、地震や津波の恐ろしさをおさえる。</p> <p>② 児童が学校にいる時間帯は2割程度に過ぎないことを確かめ、</p> <p style="padding-left: 20px;">・いつ、どこで、どのような災害に遭遇するかわからないこと</p> <p style="padding-left: 20px;">・学校外での避難の仕方をおさえること</p> | <p style="background-color: #cccccc;">【資料】 新潟県防災教育プログラム</p> <p style="background-color: #cccccc;">【地震災害編】【津波災害編】より写真資料</p> <p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは何の写真でしょうか？どこの写真でしょうか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震の時の写真 ・長岡？ 新潟？ <p>【ポイント】</p> <p>○新潟での地震や津波による被害の写真を見せることにより、自分が災害にあう可能性も十分であることを意識させる。</p> | |
| 【展開】 | <p>2. 学校管理下以外の時間帯において地震災害に遭遇した時に、どのような行動をとるべきか考える。</p> <p>① 下校中に地震に遭遇し帰宅した後の行動の選択</p> <p>② 避難所に行っても家族と会えなかった時の行動の選択</p> <p>③ 避難所での行動の選択</p> | <p style="background-color: #cccccc;">【資料】 新潟市防災教育コンソーシアム</p> <p style="background-color: #cccccc;">防災教育教材 クロスロード</p> <p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下校中に大きな地震が発生。家に帰ると誰もいません。停電・断水し余震も続いています。一人で避難所に行きますか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YES 家にいると余震で被害にあう。待っていても会えるか分からない。物資や情報が手に入らない。 ・NO 家族と会えなくなる。 <p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所に行くことにし、着いてみると家族や知っている人はいません。いったん、自宅に戻りますか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YES 頼れる人がいない。家族が家にいるかも。 ・NO 余震が心配。家族と会えるか分からない。 <p>【問い掛けの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所で家族と再会できました。非常持ち出し袋には水や食料が3日分ありますが、避難所には水も食料も持っていない人がたくさんいます。人前で非常持ち出し袋を開けますか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YES みんなで助け合う。 ・NO みんなに分けるだけではない。 <p>【ポイント】</p> <p>○問いに対しYESかNOを選択し、その理由を考慮することで適切な行動を考える。</p> | |

| | | |
|-------|--|---|
| 【めやす】 | <p>3. 学習してわかったことを確認する。</p> <p>① ワークシートに、「授業の感想」等を書かせて、発表させる。</p> | <p>ワークシート</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>自分のこととして避難について考えることが大切であることを意識させる。</u> ○ <u>避難場所・待ち合わせ場所の確認や非常持ち出し品の準備等、日頃の備えが大切であることを確かめる。</u> |
| 【学習】 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校にいない時に地震が起きたら、どんな行動をとればいいかを理解することができたか。 ・日頃から災害に備えて、家族で話し合いをしておくことや必要な品を準備しておくことが大切だということを理解することができたか。 | |

【授業実践の様子】



【スライド資料】

災害編①

下校中に大きな地震が発生。
家に帰ったところ、家族は誰もいませんでした。
停電・断水し、大きな余震が続いています。
あなたは一人で避難所に行きますか？

Yes(行く) OR No(行かない)

Yesを選択したときに想定される事態

- ・家族と離れ離れになる。
- ・避難したあと、家族に会えるかわからない。
- ・避難所は知らない人ばかりかもしれない。

Point!

どこに避難するか、あらかじめ家族と相談して決めておきましょう。連絡メモや災害時の連絡方法を定めておくことも大切です。

Noを選択したときに想定される事態

- ・余震で被害に合う可能性が高くなる。
- ・情報や物資が入ってこない。
- ・家にいることで、安否確認が取りにくくなる。

Point!

緊急時の持ち出し物品(ラジオ・水・食料等)を用意しておきましょう。眼鏡や常備薬等、個別に必要な物品も確認しましょう。

2) 早通中学校区（北区）

対象校：早通中学校・早通南小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

| | 実施日・会場 | 検討内容 |
|-----|--|---|
| 第1回 | 平成28年6月24日 15:00～16:45 会場：早通南小学校 | 1. 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2. 各校における防災教育の進捗確認／情報共有 3. その他（次回の日程調整等） |
| 第2回 | 平成28年9月12日 15:00～16:45 会場：早通南小学校 | 1. 第1回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2. 各校における防災教育の進捗確認／情報共有 3. その他（次回の日程調整等） |
| 第3回 | 平成29年1月20日 15:00～16:30 会場：早通南小学校 | 1. 第2回防災教育中学校区ミーティングの振り返り 2. 各校における防災教育の進捗確認／情報共有 3. その他（来年度以降の防災教育の取組や相談等） |

② 各学校へのサポート事例

| 対象校 | 実施日 | サポート種別 | サポート内容 |
|--------|-----------------|--------|---|
| 早通南小学校 | 平成28年 5月20日 | 打ち合わせ | 防災士予算の活用方法及び単価の照会。 授業日程に関する相談。 |
| 早通中学校 | 平成28年 6月1日 | ヒアリング | これまでの地域連携の取組，平成28年度の防災教育取組方針に関するヒアリングを実施。 |
| 早通南小学校 | 平成28年 6月1日 | ヒアリング | これまでの地域連携の取組，平成28年度の防災教育取組方針に関するヒアリングを実施。 |
| 早通中学校 | 平成28年 6月16日 | 講座実施 | 地震想定避難訓練後，全校生徒322人を対象として「熊本地震の避難所の様子を学び，避難所での中学生の役割を考える」をテーマに講座を実施。 |
| 早通南小学校 | 平成28年 6月21日 | 打ち合わせ | 7月3日実施の防災講座に関する担当教員との打ち合わせ。 |
| 早通南小学校 | 平成28年 6月28日 | 打ち合わせ | 7月3日実施の防災講座に関する北区在住の防災士との打ち合わせ。 |
| 早通南小学校 | 平成28年 7月3日 | 講座実施 | 3,5,6年生と保護者を対象に，防災クロスロードを通して災害を自分のこととして捉えるための講座を実施。 5年生の1クラスは防災士が担当。 |
| 早通南小学校 | 平成28年 9月13日 | 講座実施 | 火災想定避難訓練後，全校児童対象に，防災士より火災に関する講話を実施。 |
| 早通中学校 | 平成28年 10月28日 | 参観 | 中学校2年生を対象に，避難所シミュレーションゲームHUG（避難所運営ゲーム）を通じて自助と共助について考える講座を実施。 |

【7/3 早通南小学校5年生防災士講座】



【7/3 早通南小学校6年生講座】



【9/12 第2回防災教育中学校区ミーティング】



【9/13 早通南小学校防災士講話】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

地域との連携事例の一つとし、地域にお住まいの防災士を活用した防災学習を行った学校があった。担任の先生が、子どもたちへの導入として分かりやすく授業の趣旨を説明した後、専門知識のある防災士からのお話があり、その後グループワークの進行やまとめを先生が丁寧に行う等、教員と防災士が協力をし、お互いの得意なところを活かしあった授業づくりになっていた。

また、災害時要援護者の避難についてシミュレーションをし実際に、ハンディキャップを抱える方の擬似体験をし実状を知ること、他を思いやる気持ち、自分にできることを考える学習を取り入れた学校もあった。そこに地域住民も参加して子どもたちと一緒に学習を行うことで、子どもたち自身に地域の一員であることを自覚させるような工夫も見られ、素晴らしい内容であった。

<早通中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <p>○地区の大部分が軟らかい地盤の上に分布するため、大地震の際には強いゆれや液状化の可能性がある。津波による浸水は新井郷川沿いの低地で想定される。また、阿賀野川の洪水では地区の全域で浸水の可能性がある。</p> <p>○地区内には6か所の避難所があり、うち、2階以上の施設は4か所である。また、4～5階建ての県営団地が51棟あり、周囲に一戸建て住宅が建ち並んでいる。昼間人口は夜間の52.6%で、地域内に事業所が少ないため、地域外で就業している人が多い。また、5～14歳人口は10.2%、65歳以上人口は22.6%である。</p> |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <p>○いざというとき、地域の若い力を発揮してくれる生徒</p> <p>地域で行われる清掃・緑化活動等のボランティア活動や祭り等のイベント、毎年行われる早通地区防災訓練等地域行事に積極的に参加する生徒が多い。平常時だけでなく災害時にも周囲を助けられる力強い存在になってほしいと考えている。</p> |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <p>○適切な判断をもとに、自分の命を自分で守ることができる生徒</p> <p>○地域に目を向け、災害時に周囲と協力して活動できる生徒</p> |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <p>○地域防災マップ作成（4月、2年生）</p> <p>○早通地区防災訓練参加（7月、中学生約80名参加。2年生学年委員が防災マップの取組を、2年生生徒会総務が6月の防災学習について発表）</p> <p>○避難訓練（全校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月…地震対応の避難訓練後、新潟市防災教育コンソーシアムの方を講師に講話と防災教育「避難所について考える」を実施 ・10月…地震・火災対応の訓練後、新潟北消防署員による防災講話を実施 <p>○避難所運営HUGゲームの実施（8月、生徒会総務・JRC委員・濁川地域コーディネーターが参加）</p> <p>○地域防災マップをもとに地域の方と地域内巡検（10月、2年生）</p> <p>○避難シミュレーションゲームの実施（10月、2年生と地域老人クラブ約40名が参加）</p> <p>○防災教育「避難できない人間の心理を理解する」（10月、全校）</p> |
| <p>自校プランの内容</p> | <p>○地域防災マップをもとに地域巡検（4月、2年生）</p> <p>○避難訓練（6月、10月）</p> <p>○早通地区防災訓練参加（7月）</p> <p>○避難所運営HUGゲーム（各学年、総合的な学習の時間）</p> |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <p>○学活、総合的な学習の時間の年間指導計画への位置づけ</p> <p>○地域コーディネーター、地域の諸団体との協力・連携</p> |

2. 早通中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|---------|----|-----------------------|------------|-------------|----|---|-----|-----|----|----|----|
| 第1学年 | | | 第1回避難訓練（地震対応） 防災学習 | 早通地域防災訓練参加 | | | | | | | | |
| 第2学年 | 防災マップ作成 | | | | 避難所運営HUGゲーム | | 第2回避難訓練（地震・火災対応）・防災講話 避難シミュレーションゲーム（2年生） 防災学習 | | | | | |
| 第3学年 | | | | | | | | | | | | |

3.早通中学校 防災教育指導例

| | |
|----------------------------------|---|
| 中学校 ※地一必須一5 対応 2 時間 | (学習のねらい) 「避難シミュレーションゲームを通して、ハンディキャップを負った人と一緒に避難することの難しさを知り、「自助」「共助」の重要性を認識する」 |
|----------------------------------|---|

| | 学習内容 | 資料や学習のポイント等 |
|------|--|---|
| 事前準備 | ○昼休みに各クラスで避難コースをつくる。 | ※転倒やけがが予想されるような極端に難しいコース設営をしないように留意する。 |
| 導入 | 1. 学習課題を知る(5分) ①前時の復習をする。 ②学習のねらい「 <u>避難シミュレーションゲームを通して、「自助」と「共助」について考えよう</u> 」をおさえる。 2. 避難シミュレーションゲームのルールを知る。(5分) ①自分の命を自分で守る(「自助」が基本)。 ②制限時間内にゴールできない場合は、避難失敗 ③コース外には出ない。 ④グループはあるが、行動は各自の判断で決める。 ⑤けがにつながるような無理な行動はしない、させない。 | 【といかけの例】 ・防災の3つの基本は何だっただろう。 【想定される答え】 ・「自助」「共助」「公助」 (1)各クラス男女混合6人一組のグループを作り、一人一人にハンディキャップ(手足に負傷等)を与える。 ※ハンディキャップは、コースごとに交代してもよい。 (2)グループごとにタイマーを見て、制限時間を計る。 (3)他クラスの避難コースもまわる。 (4)危険を感じたら、いつでもハンディキャップを解いてもよい |
| 展開1 | 3. 避難にあたり、気をつけなければならない点を各グループで話し合う(10分) ①ワークシートに記入後、グループ内で発表する。 ②数人にインタビューして意見を全体に紹介する。 4. 避難シミュレーションゲーム開始(20分) ・地域の方々にも近くで見学してもらおう。 5. ゲームの振り返りと意見交換を行う(10分) ①ワークシートに記入後、グループ内で発表する。 ②数人にインタビューして意見を全体に紹介する。 | 【といかけの例】 ・避難する際にどのようなことに気をつけたらよいだろうか。 【想定される答え】 ・まず、自分の安全を確保する。 ・ハンディキャップがある人に配慮する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">ワークシート</div> 【といかけの例】 ・ゲームをしてどんなことを感じましたか。 ・制限時間に対してどんな行動を取りましたか。 【想定される答え】 ・ハンディキャップがあると、行動しにくい。 ・周りを助けることと制限時間内に避難することのどちらを優先するか迷った。 |
| 展開2 | 6. 地域の方々との避難する際の配慮事項をグループ内で話し合う(3分) 7. 地域の方々との避難シミュレーションゲーム開始(25分) | 【といかけの例】 ・地域の方々との避難する際にどのようなことに配慮したらよいだろうか。 【想定される答え】 ・手をつないで安全に誘導する。 ※無理な避難行動をしないことを確認する |

| | | |
|------------|---|--|
| <p>まとめ</p> | <p>8. 地域の方々に行った避難シミュレーションゲームを通して気づいたことやわかったことをワークシートに記入し、意見交換する。(15分)</p> <p>①ワークシートに記入後、グループ内で地域の方とともに意見交換する。</p> <p>②数人にインタビューして意見を全体で紹介する。</p> <p>9. 学習して分かったことを確認する(5分)</p> | <p>【といかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と避難して、どんなことに気づきましたか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と避難するのは大変だった。 ・手をつないだり、声をかけたりしながら避難すると安心してもらえる。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○簡単な避難行動でも、災害時は困難になる ○まず「自助」を。そして「共助」を ○日頃から、災害時の避難や支援について考え、備えよう |
| <p>評価</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・周囲と協力して、活動に真剣に取り組むことができたか。 ・避難行動の難しさを体感することができたか。 ・「自助」と「共助」について、考えを深めることができたか。 | |

【授業実践の様子】



【スライド資料, ワークシート】

2学年総合的な学習の時間
防災学習ワークシート
H28.10.28

<学習課題> 避難シミュレーションゲームを通して、「自助」と「共助」について考えよう。

組 氏名 _____

1. 避難にあたり、どのような気をつけたいだろうか。

| | |
|-------------------------|-------------------------------------|
| (1) 自分の身を守るために気をつけることは… | (2) ハンディキャップがある人と一緒に避難する際に気をつけることは… |
| | |

2. 避難シミュレーションゲーム開始(制限時間2分間)

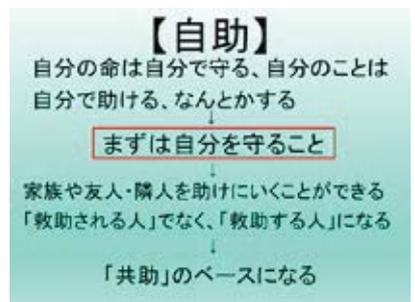
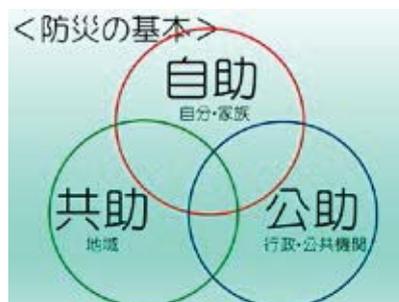
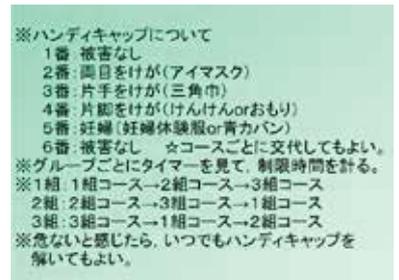
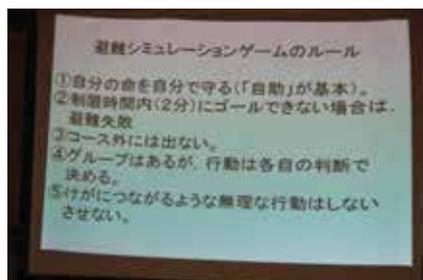
| 時間 | 1組コース | | 2組コース | | 3組コース | |
|----------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|
| | 分 | 秒 | 分 | 秒 | 分 | 秒 |
| 避難の成否 | 自分は 成功・失敗 | グループは 成功・失敗 | 自分は 成功・失敗 | グループは 成功・失敗 | 自分は 成功・失敗 | グループは 成功・失敗 |
| 避難の成否の理由 | | | | | | |

(1) ゲームをして、感じたことや考えたこと

(2) いちばん遅りにくかったところ

(3) ハンディキャップがある状態での避難をどう感じたか

(4) 制限時間が迫ったとき、どのように行動したか



<早通南小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <p>当校学区は、元々は田園地域であったが新潟東港建設の為、大規模な県営住宅が建設されたことにより、人口が急増した地域である。新潟東港建設が終了し、住民のニーズが団地から戸建てに移ることで新しい住宅地が次々誕生した。それにより急増した人口は減少すると共に地域社会の意識が高まり始め、町内会活動も活発化し始めた。その中で防災意識も高まりを見せ、地域コミュニティを中心に防災訓練も始まり、現在年に1度、当校を会場として地域防災訓練を行っている。ただ小学校として防災訓練に参加したことがなく、最近身近なところで災害を受けた経験がないので子ども達の防災に対する意識も高いとはいえない。近くを新井郷川が流れ、かつて大規模な洪水被害を受けたことがある。</p> |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <p>最近この地域は被災経験がないため、保護者、児童の防災に対する意識は高いとはいえない。しかし、地域としては防災意識を高めたいとの願いを持っている。そこで、地域の代表、小・中学校の担当者が集まり、地域防災訓練時の対応を協議した。特に小学校は保護者の意識向上のため、地域防災訓練の日を「日曜参観日」にし、防災教育授業を全学年で公開することとした。また、保護者の大半が集まることから授業に引き続き、それまで行ったことのない「引き渡し訓練」を実施する。被災時における取るべき行動を親子で考える機会にしていきたい。</p> |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・災害を身近なことと考え、自分自身の問題として考えることができる児童 ・自助、共助、公助の意味を知り、災害時に主体的に身を守ったり、他の人を助けるために自分のできることを進んでしたりする児童 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地震、火災、雪害、不審者対応の避難訓練 ・地域防災訓練と1日参観日の合同実施 ・全学年防災授業公開（3～6年はNPO法人WWA・コンソーシアム・防災士をゲストティーチャーに招いての授業） ・引き渡し訓練 ・交通安全、雪害対策集団下校訓練 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・年4回の避難訓練、年2回の集団下校訓練を行う。 ・地域防災訓練への参加 ・年に1回以上は、防災教育授業を保護者に公開すると共に、引き渡し訓練を行い、親子で防災を考える機会を設ける。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・校区の自主防災会、地域コミュニティ協議会、早通中学校と連携を密にし、地域防災訓練に保護者、児童が積極的に参加するように働きかける。 ・防災関係の行事を年曆に明確に位置づける。 |

2. 早通南小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----|----|---|---|----|------------------------|-----|-----|--------------|----|----------------|----|
| 第1学年 | | | 第一回避難訓練 新潟市全市一斉避難訓練(地震・津波想定) | | | | | | | | | |
| 第2学年 | | | 地域の方と共に集団下校訓練 学校・保護者合同 救急講習会 | 日曜参観 全学年防災に関わる授業公開 (ゲスト WMA・コンソーシアム・防災士) | | | | | | | | |
| 第3学年 | | | 第二回避難訓練地震・津波想定避難訓練(児童保護者合同) 児童引き渡し訓練 | | | | | | | | | |
| 第4学年 | | | | | | 第三回避難訓練(火災想定) 防災士による講演 | | | | | | |
| 第5学年 | | | | | | | | | 雪害を想定し集団下校訓練 | | | |
| 第6学年 | | | | | | | | | | | 第四回避難訓練(不審者対応) | |

3.早通南小学校 防災教育指導例

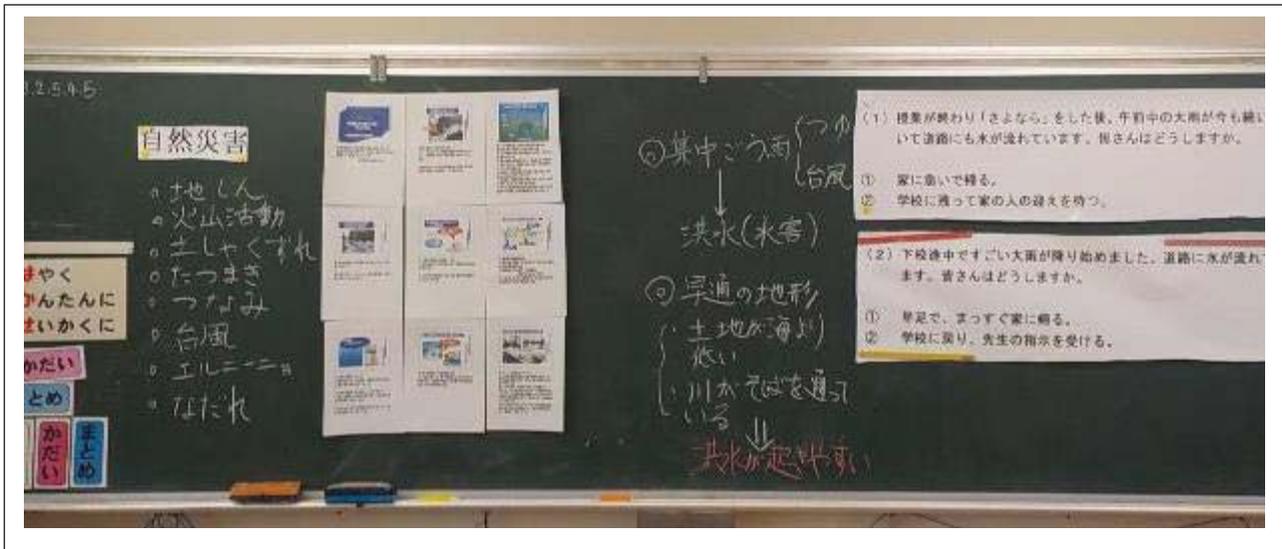
| | |
|-----------------------------------|--|
| A-1 小学校中学年 ※洪一必須-4対応 | (学習のねらい)「 地域の実態を知り，集中豪雨，洪水から身を守るために，取るべき行動を考える 」(自然災害はいつでも起こりうるという意識をもたせる。) |
|-----------------------------------|--|

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|-----------|---|---|
| 導入 10分 | 1. 自然災害にはどんなものがあるか，発表する。 2. 自分が今住んでいるこの地域で経験したことのある，自然災害による避難経験を発表する。 3. 早通地域は大きな自然災害に見舞われたことがあることを話し，講師の伊藤さんを紹介する。 | (問いかけ)・自然災害にはどんなものがありますか。知っていることを教えてください。 (想定される答え)・地震 ・台風 ・洪水 ・津波 ・大雪 ・土砂崩れ ・集中豪雨 (問いかけ)・自然災害で避難したことはありますか。 (想定される答え)・ありません。 ・かつて大変な自然災害があったことを予告する。 |
| 展開 30分 | 4. ゲストティーチャー(伊藤さん)のお話を映像と共に聞き，この校区の住民がかつて洪水で避難を余儀なくされたことを知り，いつでも洪水が起こる可能性があることに気づく 5. 大雨や洪水になったとき自分ならどうするか2つのケースを想定し考える。 | ・洪水の原因→集中豪雨→最近の水害→下越水害の被害状況→早通地区の地形→早通地域をおそった集中豪雨，洪水の様子を順に説明してもらい，自分も集中豪雨，洪水に対処しなければいけないことに気づく。(映像) (個人で考え，班で話し合い，全体で発表する) (問いかけ) 1. 授業が終わり「さよなら」をした後。 午前中の大雨が今も続いていて道路にも水が流れています。 ① 家に急いで帰る。 ② 学校に残って家の人を迎えを待つ。 2. 下校途中で大雨が降り始めました。道路に水が流れています。 ① 早足で，まっすぐ家に帰る。 ② 学校に戻り，先生の指示を受ける。 (ポイント) 1, 2とも②が多くなることは予想されるが，ケースバイケースなので①も認める。 |
| まとめ 5分 | 6. 今日学んだことをワークシートにまとめる。 | (ポイント) ・集中豪雨，洪水はいつでも起こる可能性がある。 ・大雨の時の対処の仕方が自分なりに考えられる |
| 評価 | ・この地域の過去の出来事や地形を知ることを通して洪水はいつでも起こりうるという意識をもつ。 ・集中豪雨や洪水が起こったとき自分の取るべき行動を2つのケースで具体的に考えられる。 ・今日学んだことをワークシートにまとめることができる。 | |

【授業実践の様子】（早通地区の水害の様子）



【板書の様子】



【地域防災訓練と日曜参観のジョイント風景】



3) 山の下中学校区（東区）

対象校：山の下中学校・山の下小学校・桃山小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

| | 実施日・会場 | 検討内容 |
|-----|---|---|
| 第1回 | 平成28年6月23日 16:00～17:00 会場：山の下中学校 | 1. 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2. 各校における防災教育の取組について進捗確認 3. その他（次回の日程調整等） |
| 第2回 | 平成28年11月24日 15:30～16:30 会場：山の下中学校 | 1. 各校における防災教育の取組について進捗確認・意見交換 2. その他（次回の日程調整等） |
| 第3回 | 平成29年1月26日 15:30～16:30 会場：山の下中学校 | 1. 次年度以降の自校化に向けて意見交換 2. その他 |

② 各学校へのサポート事例

| 対象校 | 実施日 | サポート種別 | サポート内容 |
|--------|-----------------|----------------|--|
| 桃山小学校 | 平成28年 5月27日 | 電話相談 | 5月末日提出の予算書についての問合せと需用費の用途についての相談対応。 |
| 桃山小学校 | 平成28年 7月12日 | 打ち合わせ | 10月15日実施の3～6年生対象の防災講座について担当教員と内容やねらいについて打ち合わせ。 |
| 山の下小学校 | 平成28年 8月18日 | 打ち合わせ | 9月21日～実施の6年生総合防災学習の組み立てについて担当教員、東区総務課安心安全係との打ち合わせ。 |
| 桃山小学校 | 平成28年 8月24日 | 打ち合わせ | 10月15日実施の3～6年生対象の防災講座について担当教員、各学年の教員と内容やねらいについて打ち合わせ。 |
| 山の下小学校 | 平成28年 8月31日 | ヒアリング 打ち合わせ | 9月21日実施の6年生総合防災学習の導入授業について地域住民への新潟地震の体験談についてヒアリング、担当教員との打ち合わせ。 |
| 山の下中学校 | 平成28年 9月16日 | 打ち合わせ | 11月15日実施の全校対象防災講座について担当教員との打ち合わせ。 |
| 山の下小学校 | 平成28年 9月21日 | 講座実施 | 6年生総合防災学習の導入授業「新潟地震を知る」を実施。新潟地震の概要を解説し、地域住民による新潟地震体験談を対談形式で担任が聞きだすサポートを行った。 |
| 山の下小学校 | 平成28年 10月2日 | 講座補助 | 6年生を対象に「津波避難マップ作り」を実施。地区防災訓練日に住民・保護者と一緒に津波避難場所までの危険・役に立つポイントを歩いて確認し、地図にまとめた。 |
| 桃山小学校 | 平成28年 10月15日 | 講座実施 | 3,4年生対象に「非常持出し品を考える」講座、5,6年生対象に「災害時の行動についてクロスロードで考える」講座を実施した。 |
| 山の下中学校 | 平成28年 11月15日 | 講座実施 | 全校対象にワークショップ形式で「災害時の中学生の役割を考える」講座を実施。担当教員の中越地震体験談と、住民の「災害時中学生に期待すること」を盛り込んだ。 |

【9/21 山の下小学校 6 年生講座「新潟地震を知る」】



【10/2 山の下小学校 6 年生講座「津波避難マップ作り」】



【10/15 桃山小学校 3, 4 年生講座「非常持出し品」】



【10/15 桃山小学校 5, 6 年生講座「災害時の行動」】



【11/15 山の下中学校全校講座「災害時の中学生の役割を考える」】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

山の下中学校区は、信濃川河口付近に位置し、津波による浸水が予想され、新潟地震では長期湛水が発生した地域である。そのため、年度当初の校区ミーティングから地震・津波についての防災教育をどう行うかが話題に上った。ミーティングや、学校ごとの打合せを重ねるうちに、新潟地震時の学校での避難や水上生活の様子を語れる方や、当時学校周辺が浸水した様子を収めた写真がある等、思いのほか身近に活用できる教育資源があることに気づいた。

発見した資源を、例年行っている津波避難マップ作りの事前学習として活用したり、講座時に短時間でも盛り込んだりした。その結果、住民による体験談の感想を休み時間のうちにびっしり書く様子や、地域の状況と住民から期待されることを認識し、地域における自分の役割を自覚する様子が見られた。また、地域連携の一つのあり方として、防災講座で得た知識を子どもが家庭に持ち帰り、家族での話し合いを宿題にすることで家庭との連携を図った学校もあった。

<山の下中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校は信濃川右岸，海まで1 kmに位置する。学校の標高は海拔-0.4mであり，学区の多くは海拔0 m以下の地帯である。 ・新潟地震の際には石油コンビナートが炎上し大惨事を引き起こした。また，津波により水没し，水が引くのに時間がかかった。 ・新潟県津波浸水想定によれば，学区のほとんどで1 mから2 mの浸水が想定されている。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・災害等が発生した場合，安全に配慮しながら適切に行動してほしい。 ・避難時等は，地域の防災に主体的に協力・貢献してほしい。 ・新潟地震の経験を忘れず，語り継いでほしい。 |
| <p>防災教育において，目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・災害等が発生した場合，安全に配慮しながら適切に行動できる生徒 ・避難所では，中学生として何ができるかを主体的に考え，行動することができる生徒 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「地震が起きたら～落ち着いて行動しよう～」 有事の時の避難行動に関する行動を全校掲示 ・第1回避難訓練（地震，津波を想定した訓練） ・第1回防災教室（熊本地震を中心とした講話） ・第2回避難訓練（地震，津波を想定した訓練） ・第2回防災教室（避難所における中学生の役割を考える） |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「地震が起きたら～落ち着いて行動しよう～」の学級掲示の継続 ・外部講師を招いての「防災教育」の実施 ・年間2回の避難訓練の実施 ・新潟県防災教育プログラムの実施 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練，防災教室を防災計画や年間行事予定に位置付ける。 ・地域コーディネーターと連携し，外部講師や自治会長等と連絡を密にし，防災教室に参加，助言をいただく。 ・新潟県防災教育プログラムを教育計画「防災教育」に位置付け，計画的に実施する。 |

2. 山の下中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 第1学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 「地震が起きたら」学級掲示 | | | | | | | | | | | | |
| 地震・津波を想定した第1回避難訓練 | | | | | | | | | | | | |
| 第1回 防災教室 熊本地震から | | | | | | | | | | | | |
| 地震・津波を想定した第2回避難訓練 | | | | | | | | | | | | |
| 第2回 防災教室 中学生の役割 | | | | | | | | | | | | |

3.山の下中学校 防災教育指導例

全校生徒
80分

(学習のねらい)
「避難所における中学生の役割を考える」
～熊本地震被災地で見たことをもとに～

| | 学習内容（展開例） | 資料や学習のポイント等 |
|-------|---|--|
| 【導入】 | <p>1. 地震時の避難所のイメージをもつ</p> <p>① 中越地震経験教諭から、「被災した時の学校の状況」等を伝える。</p> <p>② 中越地震、熊本地震時の避難所の状況をスクリーンで確認する。 「衣食住がまかなえるわけではない」 「様々な人が集まって問題が発生する」 ことをおさえる。</p> | <p>【といかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校等で地震が起こった場合、どんな困難なことがあるのでしょうか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 停電、防火扉が閉まる、火災報知器がなる 多くの地域の方々が避難してくる。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害が自分の身に降りかかることを自覚して、様々な困難を乗り越えることを確認する。 |
| 【展開】 | <p>2. 避難所ワークショップを実施する 生活班の隊形でグループワークを実施する</p> <p>① 避難所で救助、支援のない状態で「おにぎりが100個ある。あなたは、おにぎりを配りますか？配りませんか？」 ・判断した理由と解決策をグループで共有し、ワークシートにまとめる。 ・数グループの班が代表で発表する。</p> <p>② 避難所のトイレが日々汚れていく。「あなたは、そのトイレを掃除しますか？しませんか？」 ・判断した理由と解決策をグループで共有し、ワークシートにまとめる。 ・数グループの班が代表で発表する。</p> | <p>【といかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所には様々な約300人が集まる。おにぎり100個をどうするか？判断した理由と解決策をまとめよう。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 腐ってしまうので、みんなに均等に分ける。 お年寄り、妊婦さん等に優先的にわかる。 家族ごとに分配する。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本地震では、中学生や小学生が物資の支給の手伝いを実施していた。災害時、中学生が期待されていることを確認する。 <p>【といかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際には多くの人を使用するので、トイレは汚れていく。そんな時、どうすればいい？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 汚いので、掃除しない。 外に穴を掘ってそこですればいい。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本地震では、プールの水を利用したり、分担して掃除を実施していた。中学生にもできることがたくさんある。 |
| 【まとめ】 | <p>3. まとめ</p> <p>① 「DVD勇気をもって」鑑賞 ・3部、東日本大震災 兄弟の行動。</p> <p>② 地域の方の話 ・新潟地震経験談を講話する。</p> | <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「災害時に協力できることは、些細なことで十分である」ことを確認する。 ○ 「山の下中学校区は、浸水するとなかなか水が引かない地域である」ことを確認する。 |

【評価】

- ・学校が避難所になった場合、様々な人が避難してくる。結果、様々な問題が発生することを理解できたか。
- ・災害時、中学生として周囲から期待されている自覚を持ち、具体的に地域に何ができるかを考えることができたか。
- ・山の下中学校区は浸水しやすい地域であることを理解できたか。

【授業実践の様子】



【スライド資料】

Q1 食料について あなたならどうする？

- ・避難所には約300人の避難者がいます。
- ・そこにおにぎりが100個届けられました。
- ・今ある食料はこれだけで、今日中に追加で送られてくる見込みはないそうです。

約300人  100個 

おにぎりを配りますか？
Yes / No

Q1 食料について

「はい」の時に困ること
=おにぎりを配る

- ・平等に分けることが難しく、避難者の間で不満が生まれる可能性がある。



なぜ中学生が防災を学ぶのか

- ・大きな災害が起こると多くの住民が山の下中学校へ避難してくる。
- ・先生も避難所の運営に関わるが中学生の働きは避難所運営の大きな力になる。

中学生が避難所運営の大きな力に

なぜなら…

- ①学校にいる時間が長い
=学校・地域をよく知っている
例) トイレ・保健室・掃除用具入れの場所
例) 1人暮らしのお年寄りの顔、公共電話の位置
- ②体力・知力がある
=色々なサポートができる
例) 子どもの遊び相手、体操の呼びかけ、掃除

<山の下小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・信濃川右岸に位置し、山の下埠頭のすぐそばで、海拔0m地帯を学区にもつ。学校は、海拔2.3mに位置する。 ・新潟地震の際には広範囲にわたり、水没し、水が引くのに時間がかかった。 ・学区には5カ所に同報無線が設置してあることから津波危険地域ということが分かる。また、津波浸水想定津波到達時間図では、発災数分で津波が到達する想定になっている。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ協議会と学校とで防災について話し合う場を年に数回もっている。また、地域と合同で防災訓練を行っている。 ・有事の際に、落ち着いて、迅速・的確な行動がとれるようになってもらいたい。 ・地域には新潟地震の経験者が多くいるため、語り継ぎたい。 |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・有事の際に、落ち着いて、迅速・的確に避難できる子ども。 ・生命、身体の安全を図ることの大切さを知り、機敏な行動がとれる子ども。 ・災害予防に関する知識や心構えをもつ子ども。 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・津波想定避難訓練（6月） ・新潟地震体験講話（9月） ・地域合同防災訓練及び引き渡し訓練（10月） ・防災学習授業参観（10月） 親子DEレスキュー（1・2年） 地域防災訓練（3・4年） 非常食づくり（5年） 津波避難マップづくり（6年） ・総合的な学習の時間「今 わたしたちにできること～防災～」（9～11月） ・防災に関する授業（6～10月） |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民による新潟地震体験講話 ・地域合同防災訓練 ・総合的な学習の時間に防災学習 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育を教育ビジョンに位置付ける。 ・防災に関する授業を行った際は、便り等で保護者にも周知し、家庭への啓発を図る。 ・地域コミュニティ協議会と連絡を密に取り、「地域合同防災訓練」をよりよいものにしていく。 ・津波避難マップづくり等に、地域の新潟地震体験者に助言者として参加していただく。 |

2. 山の下小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|------------|------------------------|----------|----|----|-------------------------|------------------|-----|-----|---------------------|----------|----|
| 第1学年 | 安全な登下校(学活) | 津波とは何かを知る 必須1 | 避難訓練(津波) | | | 地震からの身の守り方(学校内)を学ぶ 必須1 | 地域合同防災訓練及び引き渡し訓練 | | | JRC 救急看護講習会 必須1 | 避難訓練(火災) | |
| 第2学年 | 安全な登下校(学活) | 津波からの逃げ方を学ぶ 必須2 | 避難訓練(津波) | | | 学校内の危険箇所を調べる 選択1 | 地域合同防災訓練及び引き渡し訓練 | | | JRC 教員講習会 必須2 | 避難訓練(火災) | |
| 第3学年 | 安全な登下校(学活) | 津波からの逃げ方を学ぶ 必須3 | 避難訓練(津波) | | | 地震からの身の守り方(学校外)を学ぶ 必須2 | 地域合同防災訓練及び引き渡し訓練 | | | 地域防災訓練 必須3 | 避難訓練(火災) | |
| 第4学年 | 安全な登下校(学活) | 津波から逃げるための注意点を学ぶ 必須4 | 避難訓練(津波) | | | 地震への備えを知る(家庭でできること) 選択2 | 地域合同防災訓練及び引き渡し訓練 | | | 地域防災訓練 必須4 | 避難訓練(火災) | |
| 第5学年 | 安全な登下校(学活) | 津波への理解を深め、被害の特徴を知る 必須5 | 避難訓練(津波) | | | 地震がおさまった後の身の守り方を学ぶ 必須3 | 地域合同防災訓練及び引き渡し訓練 | | | 非常食づくり 必須5 | 避難訓練(火災) | |
| 第6学年 | 安全な登下校(学活) | 津波からの逃げ方を考える 必須6 | 避難訓練(津波) | | | 地震の被害から生活への影響を考える 選択6 | 地域合同防災訓練及び引き渡し訓練 | | | 津波避難マップづくり 必須6、7 | 避難訓練(火災) | |
| <p>津波避難 関東大震災 (社会)</p> <p>様々な雪の災害について学ぶ 必須6</p> | | | | | | | | | | | | |
| <p>【総合的な学習の時間】 今わたしたちになにができること～災害～</p> | | | | | | | | | | | | |

3.山の下小学校 防災教育指導例

| | |
|--|--|
| 小学校高学年 ※津－必須－6.7 ー選択－6 対応 | (学習のねらい)「地震・津波からの身の守り方を知り、命を守るために大切なことを考える」 ・通学路津波避難マップを作るに際し、実際に現地に行き、高さや危険な場所等を調べる。 |
|--|--|

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|--------|---|--|
| 【事前学習】 | ① 新潟地震の体験談を聞く ② 地震から身を守ろう(学校で起きる危険) ③ 地震から身を守ろう(地域で起きる危険) ④ 自分達に何ができるのかを考える | ①事前に話していただきたいことを打合せをする。 教師が進行役となり、ゲストスピーカーから話を聞き出す。 ②「落ちてくるもの」「倒れてくるもの」「移動するもの」に分け、学校内を調べる。 ③学校内で調べたものをもとに、学校外でも同じようなものがないかを考える。 ④家庭との連携を考え、お家の人と考える課題を設定する。 |
| 【導入】 | 1. 自然災害では、「想定外」のことがあることを学び、命を守るためには最善を尽くすことが必要であることを知る。 ①東日本大震災(大槌湾)の津波避難マップを使い、想定と実際の被害との違いに気づかせる。 | ・授業参観日に授業を行い、家庭への啓発を図る。 ・中越防災安全推進機構地域防災力センター、東区役所の協力を得る。 ・プレゼンテーション(地域防災力センター作成)を使用する。 |
| 【展開】 | 【課題】危険な場所、安全な場所を見つけて、津波から命を守るための地図を作ろう | |
| | 2. 家族の命を守る津波避難地図の作り方を学ぶ。 ①地図に目印となるシールを貼る。 ・自分の家 ・津波避難場所 ②津波避難のルートを決める。 ③津波避難地図を作る。 ・危ないところの写真を撮り、地図にシールを貼る。 ・安全なところ、見えそうな物の写真を撮り、地図にシールを貼る。 | 【準備するもの】 町歩き用地図、インスタントカメラ(各班2台) ・事前学習で行った地震の際に注意する場所は「落ちてくるもの」「倒れてくるもの」「移動するもの」ということを確認する。 ・AEDや食料・飲料等が置いてあるところにも目を向けさせる。 |
| | 3. 通学路を歩き、危険箇所を確認し、安全な避難ルートを考える。(6グループ) ・危険な場所や安全な場所の写真を撮って、携帯している地図に記録する。 | ・自治会の方からボランティア(新潟地震を知っている方)をつのり、活動しながら新潟地震の様子を話してもらおう。 【想定される発見するもの】 ・倒れてきそうなブロック塀 ・狭い道 ・避難場所以外の高いところ |
| | 4. 通学路を歩いて分かったことを津波避難地図にまとめる。 ・撮ってきた写真にコメントを書く。 ・写真を撮ってきた場所にシールを貼る。 ・地図に写真を貼る。 | 【準備するもの】 付箋、大きい地図、セロハンテープ、ペン、シール |

| | | |
|-------|--|--|
| | <p>5. 発表</p> <p>○一班ずつ発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影したところが、災害時にどうして危険なのか、どうして安全なのか理由を明確にして発表させる。 | |
| 【まとめ】 | <p>6. 振り返り・まとめ</p> <p>○ワークシートに、「授業の感想」等を書かせて、発表する。</p> | <p>○家族でも次のことを確認しておくことを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合場所、避難場所 ・連絡手段 等 |
| 【評価】 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の通学路の危険な場所と安全な場所について理解することができたか。 ・災害時の避難方法や危険な場所を認識しておくことの大切さを理解することができたか。 | |

【授業実践の様子】



【板書の様子】



<桃山小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校は海拔 1.5m で、海から数百メートルに立地している。校区全体が津波からの避難が必要な区域に想定されている。海岸にそって学区があり、海に近い場所に住んでいる児童が多い。 ・新潟地震の際には広範囲にわたり津波が押し寄せ、水没したり、水が引くのに時間がかかったりした。また、地区の大部分が柔らかい地盤の上にあるため、液状化現象が見られる等の多くの被害があった。 ・津波浸水想定津波到達時間図では、沿岸部では 30 分未満、学校周辺は河川遡上地域で 30～120 分未満で津波が到達する想定となっている。以上のことにより、桃山小学校区の優先ハザードは津波である。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方は防災に対する意識はもっているが、各地域ごとで行われている防災訓練への参加等具体的な取組に対する個人の温度差が大きい。また、P T Aを中心に地震による津波災害に対する意識と対策への要望は高い。 ・学校でも地震による津波の学習を進めるとともに、津波に備えた避難訓練を毎年行っていく必要性を感じている。 |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地震や津波等の災害が発生した場合、「自分の生命は自分で守る子」を意識して行動できる児童。 ・災害発生時には家族や学校等の集団や地域の安全に気づき、できる範囲で役立つことができる児童。 ・防災について学校や各地域で行われている防災訓練を通して、基礎的・基本的事項を身に付けている児童。 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地震及び津波発生時の避難訓練，引き渡し訓練（7月） ・防災（地震・津波）に関する全学年授業公開（7月） ・リトルファイヤースクール（7月） ・防災（津波）に関する講演（10月） |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を交えた津波想定での避難訓練（7月） ・引き渡し訓練（7月） ・4年生を対象にリトルファイヤースクールを実施（7月） ・学級活動の時間に防災学習（5～10月） |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育全体計画に基づき避難訓練の計画を立て、年間行事に優先的に位置付ける。 ・学習参観に合わせて引き渡し訓練を実施する。 ・学級活動計画に防災に関する授業を全学年で位置付けて実施する。 |

2. 桃山小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | |
|------|--|---|--|---|--|---|--|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1学年 | 避難訓練(火災) | | | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | 災害時における下校訓練 | | | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | 避難訓練(地震・津波) 屋上への避難方法の習得 | | | | | | | | | | | | | |
| 第4学年 | 保護者への引き渡し訓練 | | | | | | | | | | | | | |
| 第5学年 | 防災教育プログラムを活用した授業(地震・津波) | | | | | | | | | | | | | |
| 第6学年 | <ul style="list-style-type: none"> 地震からの身の守り方を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> 地震から身の守り方を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> 地震が起きたときの身の守り方を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> 地震が起きたときの避難場所を家族で話し合う 地震被害があった時、何ができるか考える。 | <ul style="list-style-type: none"> 地震が起きたときの避難経路を確認する。 学校内の危険箇所を調べる。 | <ul style="list-style-type: none"> 地震が起きたときの避難経路を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 生活「遊びに行こうよ」 通学路の安全な登下校の仕方を学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> 生活「遊びに行こうよ」 通学路の危険箇所を確認する |
| | | | | | | | | | | | 避難訓練(不審者) | | | |

3.桃山小学校 防災教育指導

| | |
|-----------------------------------|--|
| A-1 小学校下学年 ※津-必須-1対応 | (学習のねらい)「津波とは何かを知る」 ・津波はどんなものか知り、津波が来たらどこに避難するか知る |
|-----------------------------------|--|

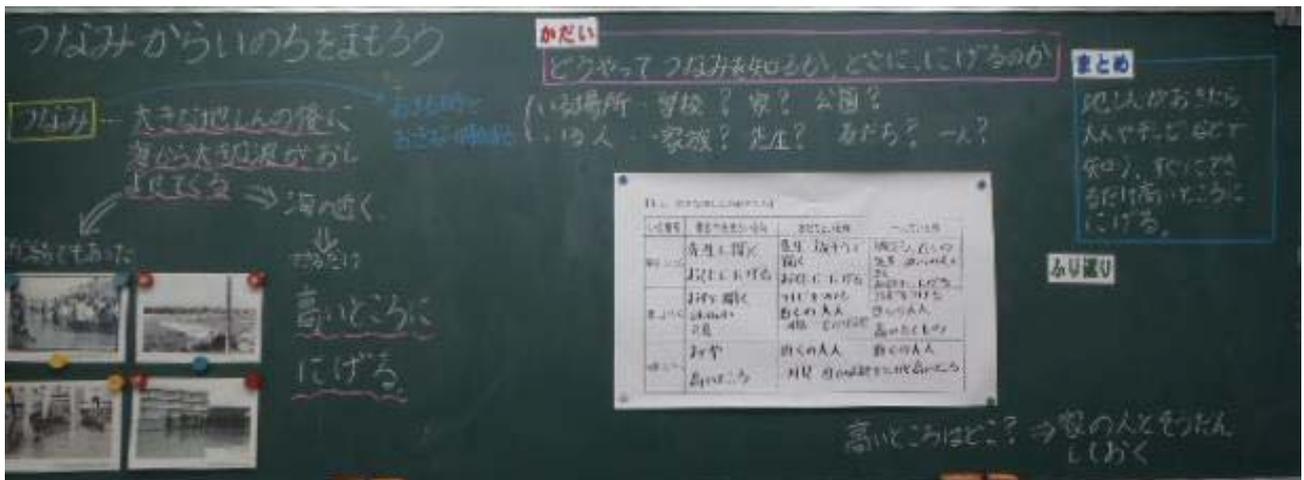
| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|------|--|---|
| 【導入】 | 1. 津波に対して関心を持たせる ① 津波を知っているか、津波についてどんなことを知っているかを問いかけ、「 大きな地震の後に津波が来ること がある」ことをおさえる。 ② 学習のねらい「 地震後、津波が来たら、どういうところに避難するか知る 」をおさえる。 | 【問いかけの例】 ・津波という言葉を知っていますか。 【想定される答え】 ・津波は地震の後に来る。 ・人や建物が流される。 【ポイント】 ○ もし、大きな地震の後に津波がきたらどうするかといかける。 |
| | 2. 津波とはどのようなものなのか知る ① 東日本大震災の津波映像や新潟地震の津波被害の写真を見せて、津波はどのようなものか考えさせる。 ② 桃山小学校の地域は海に近いので、大きな地震の後に津波が来ること、津波が来たらできるだけ高い所に逃げることに気づかせる。 ③ 地震後の津波は、起こるかどうかわからないことを確認する。 3. 大きな地震の後、津波が来るかをどうかをどうやって知るか考える <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> もし大きな地震が起きたら、どうやって津波が来るのかを知り、どこににげるか。 </div> ① 大きな地震が起きた時にいる場所・いる人を項目ごとに整理するワークシートを配る。 ・いる場所：「 学校・家・公園 」 ・いる人「 家族や先生・友達・一人 」 ② 津波が来るかどうかを確認するためにどのようにして情報を得るのか考えさせる。 ・津波が来ることが分かたらいち早く高い所に避難することに気づかせる。 | 県防災教育プログラム【津波災害編】 【資料 100】 東日本大震災津波の脅威 【資料 213～238】 新潟地震津波関連写真 【問いかけの例】 ・東日本大震災の津波の映像や新潟地震の写真を見て、分かったことはありますか。 【想定される答え】 ・大きな地震の後、津波が起こり人や家も押し流す。 ・津波が来たら高い所に逃げる。 ・新潟でも津波が来たことがあるので、これからも来るかもしれない。 【問いかけの例】 ・家や学校、公園に誰かと、又は一人でいるときに大きな地震が起きたら、津波が来るかどうかをどうやって知りますか。その後、どこに逃げますか。 【想定される答え】 ・学校や家、公園で先生や家族といるときは、聞く。 ・学校で友達や一人でいるときも先生に聞く。 ・家で友達や一人でいるときには、テレビをつける。 ・公園で友達や一人でいるときには、近くにいる大人に聞き、高い所ににげる。 ・学校は屋上ににげる。 |

| | | |
|------|--|--|
| 【準備】 | <p>4. 学習してわかったことを確認する</p> <p>① ワークシートに、「地震が起きたときにどのような行動をとればよいか」「授業の感想」を書かせて、発表させる</p> <p>5. 家に帰って家の人と大きな地震や津波が起きたときのことを話し合い、どのように行動すれば良いか決めておく</p> | <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「地震が起きた時に津波が来るかどうかいち早く確認し、迅速に避難する」ことを確認する ○ 「日頃から訓練等を通じて、避難方法を確認しておく」ことを確認する |
| 【評価】 | <ul style="list-style-type: none"> ・津波はどのようなもので、どんなところで起きるか知り、桃山小学校区でも津波が起こる恐れがあることを理解することができたか。 ・大きな地震が起きたとき、どこにいても、だれといっても津波が来るかどうかいち早く確認し、迅速に避難する必要があることを理解することができたか。 ・家族の人と相談し、地震や津波があった場合、どのように避難するか確認しておく必要性を理解することができたか。 | |

【授業実践の様子】



【板書の様子】



4) 鳥屋野中学校区（中央区）

対象校：鳥屋野中学校・上所小学校・女池小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

| | 実施日・会場 | 検討内容 |
|-----|--|---|
| 第1回 | 平成28年8月26日 10:50～12:00 会場：鳥屋野中学校 | 1. 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2. 各校における防災教育の進捗確認 3. 取組についての情報共有 4. その他（次回の日程調整等） |
| 第2回 | 平成28年11月11日 16:00～16:45 会場：女池小学校 | 1. 各校における防災教育の進捗確認／情報共有 2. 情報共有 |

② 各学校へのサポート事例

| 対象校 | 実施日 | サポート種別 | サポート内容 |
|--------|-----------------|--------|---|
| 鳥屋野中学校 | 平成28年 6月9日 | 打ち合わせ | 新潟市全市一斉訓練で全校生徒を対象とした防災学習について打合せを実施。 |
| 鳥屋野中学校 | 平成28年 6月17日 | 講座実施 | 全校生徒を対象とした災害時における中学生の避難所での役割を考える学習を実施。1時間の講演と簡単なグループワーク。 |
| 鳥屋野中学校 | 平成28年 6月23日 | 電話サポート | 災害時要援護者の体験について新潟市中央区社会福祉協議会に問い合わせ、協力を依頼。 |
| 女池小学校 | 平成28年 7月5日 | 打ち合わせ | 防災教育の取組（年間計画・プログラム例）についての相談。 |
| 鳥屋野中学校 | 平成28年 7月12日 | 参観 | 1年生を対象とし、生徒の自宅から近い避難所（7か所）へ行き、各避難所にある防災備品について見学。アルファ化米の炊き出し体験や新潟市より借用した段ボールベットや簡易トイレの組み立て、中央区社会福祉協議会の災害時要援護者の理解の学習等を実施。 |
| 女池小学校 | 平成28年 8月5日 | 電話サポート | アルファ化米の使用について新潟市中央区総務課安心安全係に備蓄について確認した。 |
| 上所小学校 | 平成28年 9月6日 | 打ち合わせ | 5年生を対象とした防災学習内容の打ち合わせを実施。 |
| 上所小学校 | 平成28年 9月6日 | 参観 | 避難所の話を体験者から聞き、身近にあるものを工夫した防災グッズづくりを行った。 |
| 鳥屋野中学校 | 平成28年 11月24日 | 打ち合わせ | 学校と自治会で防災会議を実施。今年度の学校と地域の連携について振り返り、来年度に向けた取組を検討。 HUGを地域連携で取り組む可能性等 |

【6/17 鳥屋野中学校 全校防災講座】



【10/1 上所小学校 授業参観】



【11/11 第2回防災教育中学校区ミーティング】



【11/24 鳥屋野中学校 自治会会議】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

鳥屋野中学校区は、学校・地域連携の一つとして、防災学習で得た知識・成果を地域の方へ向けて、発表を行い地域との連携を図った学校や、地震による液状化や地盤沈下等を考慮し地域特性を活かし、防災目線で地域巡検を行った学校もあった。その際に地域の方と巡検し新潟地震の様子も聞く等地域資源の発掘となった。参観日に合わせて防災学習を行い、家庭と学校で防災について学ぶことで、家族で話し合うきっかけをつくり防災意識の向上を図った学校もあった。

防災教育に限らず普段の活動においても地域の人たちとの関りが深く、また学校間連携に関しても小学校・中学校ともに定期的に地域防災の会議を設ける等先進的な取組と感じた。

<鳥屋野中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <p>当校は鳥屋野潟に近い低地に位置している。それ故、新潟地震の時には液状化現象で60cmの水が浮き出てきたという記録が残っている。多くの住宅が存在し、避難時はかなりの人数の避難者が予想されるが、女池地区と上所地区にまたがっているため、避難所運営や避難所の区画整理等、毎年確認する必要がある。</p> |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市中央区役所や地域のコミュニティ協議会、各自治会と連携を図り、地震や津波を想定した防災について協議を進めている。防災訓練だけでなく、避難所の運営について具体的な話し合いを行い、意識の向上を目指している。 ・各自治会に担当職員を配置し、それぞれの自治会生徒と自治会長をつなぐ役割を担い、日頃から顔見知りになっておくことを目指している。 |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <p>鳥屋野地区の歴史を学び、沼地を開拓してきた先人の努力してきた姿を豊かに想像し、地域愛をはぐくむことを通して、災害時における身の守り方を身に付けると共に、地域に貢献できる具体的な姿を想像することができる子ども。</p> |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・6月に地震想定シェイクアウト訓練（一斉防災訓練）を行い、その後自治会別集会を行った。（6月17日） ・合同避難訓練を受け、1年生の総合的な学習で、避難場所を確認したり、レスキュー活動を体験したりした。（7月20日） |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地震・津波想定避難訓練時に、校区の自治会長と対面する機会を設定し、避難所までの危険な箇所や避難所に用意してあるものの確認、避難所における中学生の役割の要望等を話し合い、地域での具体的な防災活動を想起する。 ・実際に自分たちの避難場所へ行き、防災用具等を確認した後、レスキューに関わる内容を体験する。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初にコミュニティ協議会と学校とで年間の活動計画を確認する機会を設定する。 ・新潟地震が起きた日周辺に防災訓練を計画し、地域や保護者と合同の訓練を計画する。 |

2. 鳥屋野中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|------------------------|------------|---------------------------|---------------|--------------|----|---------------------------------|-----------|-----|----|-------------------|----|
| 第1学年 | 総合 自治会別集会 代表選出と今後の予定確認 | 総合 避難方法の確認 | 総合 避難訓練と避難所における中学生の役割について | 避難場所の確認と救助法講習 | ハイパーレスキューの募集 | | 自治会避難訓練への参加呼びかけとハイパーレスキュー受講者の派遣 | 学活 火災避難訓練 | | | 総合 自治会におけるかかわりの反省 | |
| 第2学年 | | 総合 避難方法の確認 | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | | 総合 避難方法の確認 | | | | | | | | | | |

3. 烏屋野中学校 防災教育指導例

| | |
|--------------------------|--|
| 中学校 ※地一必須-5 対応 | (学習のねらい) 避難所に用意されているものと自分で用意しなければならないものを考える。 避難所で行うべき事柄を明らかにする。 |
|--------------------------|--|

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|--------------|---|--|
| 【導入】 | 1. 自治会生徒代表が、学習のねらいを伝える ① 災害時の避難場所を確認し、自分たちで何ができるか考えることを伝える。 ② 学習のねらい「 <u>自治会に用意されているものと自分で用意しなければならないもの</u> を考える。 <u>避難所で行うべき事柄を明らかにする。</u> 」をおさえる。 | 【代表の問いかけ例】 ・何が用意されているか知っていますか？ 【想定される答え】 ・非常食 ・医療道具 【ポイント】 ○ いざというときに、数日間は生き延びられるように、日頃から準備しておこう。 |
| 【展開】 | 2. 自治会長から避難所に設置された防災用具の説明と中学生に期待することについて話していただく ① 自治会長のプリントを見ながら、「 <u>自治会で用意しているもの</u> 」をおさえる。 ② 自治会で中学生に望むことをおさえる。 1) 「 <u>逃げ遅れた人がいないか確認する</u> 」 2) 「 <u>けが人の搬送</u> 」 3) 「 <u>物資の運搬</u> 」 3. 日頃から備えておくべきことを考える ① いざというときに、ちゃんと避難するために、日頃からどんな準備をしておくべきかを考え、次の点をおさえる。 1) 「 <u>すぐに避難できるように、家庭の非常持ち出し品を用意しておく</u> 」 2) 「 <u>避難場所までの危険箇所を把握する</u> 」 | 【問いかけ例】 ・何が保管されているのか知っている人はいますか。 【想定される答え】 ・発電機 ・担架 ・全く知らない <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">【資料1】 自治会長が作製したプリント</div> 【問いかけ例】 ・災害に備えて、家庭では日頃からどんなものを備えておけばよいと思いますか？ 【想定される答え】 ・非常食 ・携帯トイレ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">【資料2】 非常持ち出し品リストの例</div> |
| 【まとめ】 | 4. 学習してわかったことを確認する ① ワークシートに、「授業の感想」等を書かせて、発表させる。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ワークシート1</div> 【ポイント】 ○ 「 <u>避難場所までの危険箇所はあくまで目安であって、それ以外の場所も想定しておく</u> 」ことを確認する。 ○ 「 <u>日頃から訓練等を通じて、救助方法を確認しておく</u> 」ことを確認する。 |

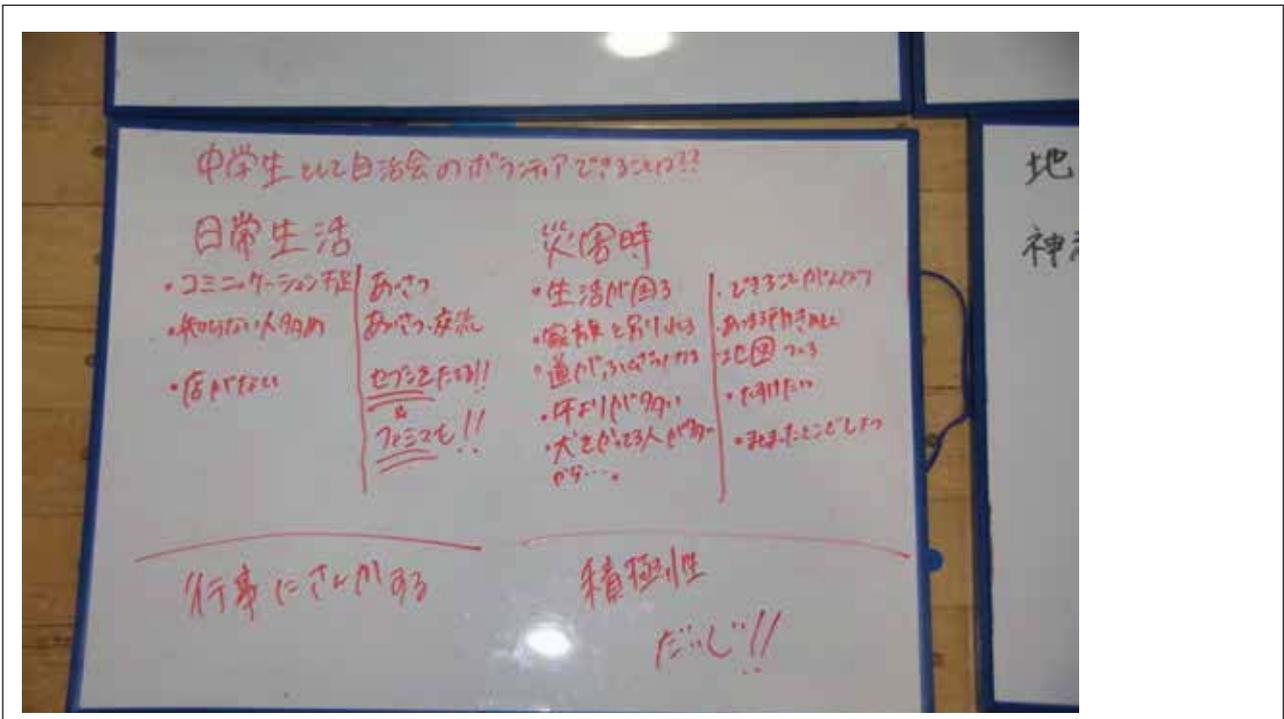
【評価】

- ・ 自宅周辺や学校周辺等，地域の危険箇所，自宅周辺や通学路周辺の避難場所を説明することができたか。
- ・ 想定災害は一つのシナリオであり，想定外の事態になることもあることを説明することができたか
- ・ 非常用持ち出し品，避難方法を日ごろから準備・確認しておく必要性を説明することができたか。

【授業実践の様子】



【板書の様子】



<上所小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校は海拔0.8mの土地に位置している。校区は関屋分水から枝分かれしている信濃川に面しており、地震発生時は津波が関屋分水路や信濃川を遡上した場合に土地の一部が浸水する可能性がある。 ・新潟市津波ハザードマップでは、津波到達時間30分未満、津波浸水想定0.5m未満、1.0m未満の地域がある。（沿川地域） ・上所小学校区では、上所小学校区避難所運営委員会を平成25年に設立し、「避難所運営マニュアル」作成や運営方法等について、共通認識をもつと共に、顔の見える協力体制づくりを行ってきた。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校とコミ協が合同で防災訓練を重ね、児童や保護者、地域住民の自助・共助の意識は高まってきている。今後も安心・安全な訓練を実施しようと計画している。教職員も合同訓練に参加することによって、防災教育の大切さを意識してきた。 |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住む地域の様子や災害及び被害について知り、自分の命は自分で守るという姿勢を身に付け、災害時には自ら危険を察知し、安全を確保するための行動ができる子ども。 ・地域の防災の取組や活動について知り、地域の防災に自分たちができることを考え、行動する子ども。 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、保護者、小学生、中学生による防災フェスタを実施する。（9月25日実施：地域コミュニティ協議会主催） ・児童、保護者、教職員合同による、地震・津波想定引き渡し避難訓練を実施する。（6月15日実施） ・火災想定避難訓練（10月31日実施） ・5学年の総合的な学習で、「私たちの町の安心・安全を伝えよう」を行う。（6月～12月 全30時間） |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・校区の避難所運営委員会、地域コミュニティ協議会と連携して、地域合同の防災フェスタを実施、防災の知識・理解を深めていく。 ・中学校区の小中学校と情報交換を行い、地域の避難所や避難の仕方について理解を深める。 ・保護者と合同の避難訓練を行い、非常事態でも混乱することがないように備える。 ・5学年（高学年）の総合的な学習の時間で、地域の安全について学び、自ら自分たちの安全を守る取組について調べ・考え・自分たちにできることを行動する。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・校区の避難所運営委員会、地域コミュニティ協議会と学校とで協議し、防災フェスタの日を設定し計画する。その際、中央区役所・消防署・消防団との連携も強くする。 ・中学校区の小中学校と定期的に情報交換を行う。 ・年度当初に、避難訓練の日を設定するとともに、保護者にも非常事態時の対応について、学校と共通理解を図っておく。 |

2. 上所小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 第1学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第4学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第5学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第6学年 | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 第1回不審者通報訓練 (朝会時) | | | | | | | | | | | | |
| 地震・津波想定通報訓練 (授業中) | | | | | | | | | | | | |
| 地震・津波想定避難引き渡し訓練 | | | | | | | | | | | | |
| 社会 「安全なくらし」 | | | | | | | | | | | | |
| 総合 「私たちの町の安心・安全を伝えよう」 | | | | | | | | | | | | |
| 第二回不審者通報訓練 (休憩時) | | | | | | | | | | | | |
| 防災フェスタ | | | | | | | | | | | | |
| 火災想定通報訓練 (清掃時) | | | | | | | | | | | | |
| 火災想定避難訓練 (清掃時) | | | | | | | | | | | | |
| 理科「流れる水のはたらき」 | | | | | | | | | | | | |
| 第三回不審者通報訓練 (休憩時) | | | | | | | | | | | | |

3.上所小学校 防災教育指導例

| | |
|--|--|
| 小学校第5学年 総合的な学習の時間 (全30時間) | <p>(学習のねらい)</p> <p>○課題設定力 「熊本地震」を契機に地域の安心・安全を考え、校区の探検や調査活動、体験活動を通して、自分なりの安心・安全についての課題を見つける。</p> <p>○追究力 自分の課題を解決するための効果的な調査・探検・インタビュー・アンケート等の活動を自分なりに考え、粘り強く追究していく。</p> <p>○表現力 集めた情報、分かったこと、考えたことを相手に分かりやすく表現し、工夫して伝えることができる。</p> <p>○活用力 地域の安心・安全について調べる活動を通して、地域に関心を持ったり、よさに気づいたりして、これからの生活に生かしていくことができる。</p> |
|--|--|

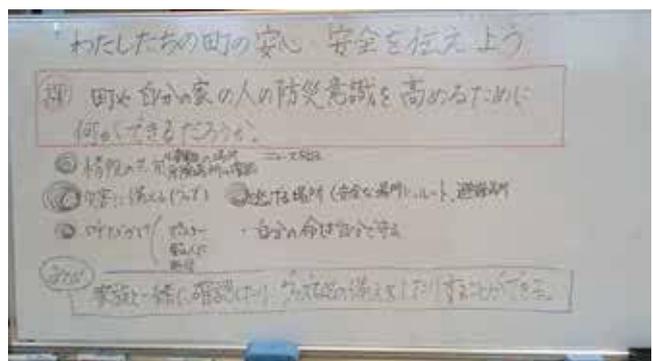
| | 学習内容（展開例） | 資料や学習のポイント等 |
|-----------|---|--|
| 【課題設定】 | <p>「上所（新潟）は、安全か？」（7時間）【課題設定】</p> <p>○「熊本の地震」（「茨城の水害」）の現状を知り、自分たちの地域は安全か考え、防災に関わる学習に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を通して現状を知り、感想をまとめる。 ・自分たちの町は安心・安全か考え、「安心・安全な町」について様々な人にインタビュー等して、地域の安全について整理する。 ・信濃川の堤防の安全について学ぶ（やすらぎ提） | <ul style="list-style-type: none"> ・信濃川河川事務所職員による信濃川の堤防工事（やすらぎ提）について学習 |
| 【課題設定・追究】 | <p>「調べてみよう 身近な地域の安全」（8時間）【課題設定・追究①】</p> <p>○新潟地震の様子を学ぶ。</p> <p>○安全マップづくりの計画を立て、疑問に思ったことを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域探検をする。⇒避難所 ・安全マップを作る。フィールドワーク。 ・分かったこと、気づいたこと、不思議に思ったこと、調べてみたいこと等をまとめる。 <p>「体験しよう 災害時にできること」（6時間）【追究②】</p> <p>○災害時にできることを知り、課題を決める。（簡易トイレ・ベッド作り、レジ袋によるけがの応急処置、新聞紙スリッパ等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー、アンケート、本、インターネットを使って、災害時に自分たちもできることを調べたり、聞いたりする。 ・防災グッズを作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちができることを体験し、分かったこと、気づいたこと等をまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・PTA 行事で「親子防災教室」に参加 NPO ワーキングウィメンズアソシエーションの講演会「新潟の記憶」新潟日报社、「記憶 未来へ」（新潟地震 50 周年記念誌）「新潟地震のビデオ」 ※新潟地震の体験者から話を聞く。（上所校区コミ協副会長、安全・安心部会長） ・避難所での体験談を聞く。（東日本大震災の体験） |

| | | |
|------|---|--|
| 【表現】 | <p>「伝えよう！ 広げよう！ 私たちの町の安心・安全」 （6時間）【表現】</p> <p>○地域の方に、考えたことや思ったことを分かりやすく伝える方法を考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に発表する。（プレゼンテーションソフト利用・ポスターセッション・劇・インタビュー形式等） ・地域の方の感想や意見を知り、自分や自分のこれからの生活について、考えをまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域探検（フィールドワーク）でお世話になった自治会長や保護者等へ発表する。 |
| 【評価】 | <p>○課題設定力 地域の安心・安全を考え、調査活動や体験活動を通して、自分なりの安心・安全についての課題を見つけることができる。</p> <p>○追究力 自分の課題を解決するために、調査・探検・インタビュー・アンケート等の活動を行い、ねばり強く活動することができる。</p> <p>○表現力 学んだことや考えたことを分かりやすく表現し、伝えることができる。（ポスターセッション）</p> <p>○活用力 活動を通して、地域に関心をもったり、よさに気づいたりして、これからの生活に生かしていくことができる。（生かそうという思いをもつ。地域の方へ安心・安全を伝えることができる。）</p> | |

【授業実践の様子】



【板書の様子】



<女池小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校は海拔0.2m, 鳥屋野潟から0.8km, 信濃川から1.9kmの場所に立地している。 ・地区の大部分が柔らかい地盤の上に分布するため, 大きい地震の時には, 強い揺れや液状化の可能性がある。特に, かつて水田利用されていた地域では液状化の可能性は高い。津波による浸水は, 地区のほぼ全域で想定されている。 ・阿賀野川, 信濃川下流, 鳥屋野潟流域, 小阿賀野川・能代川の洪水によって浸水の可能性がある。特に, 信濃川下流の洪水では, 地区の大部分で浸水が予想される。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ協議会と学校が連携を取り, 地域の防災について協議を行ってきている。毎年, 地域の防災訓練を重ね, 児童や保護者, 地域住民の防災に関する意識の高揚が図られている。 ・学校では, 毎年, 地震想定, 津波想定 of 訓練を2回以上行っている。児童は真剣に訓練に取り組み, 安全に行動することができている。今後は, 学校以外の場所で, 災害に遭った時に安全に行動できる力を育成していきたいと考えている。 |
| <p>防災教育において, 目指す児童生徒像</p> | <p>自分の住む地域の様子や災害の危険性及び被害の歴史について知り, 自分の命は自分で守るという姿勢を身に付け, 災害時には自ら危険を察知し, 安全を確保するための行動ができる子ども</p> |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○地域と連携した避難訓練の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・女池保育園と連携した地震・津波想定 of 訓練を行った。 ・女池小学校が避難所になっている中学生(鳥屋野中学校)が避難所を確認に来た。 ○各教科・総合学習と関連した防災教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の社会科, 総合学習で地域探検を行い防災マップを作成した。 ・4年生の社会科で, リトルファイヤースクールを行った。 ○PTAと連携した防災教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・4年生のPTA行事で, 親子防災訓練を行った。 ○委員会活動 <ul style="list-style-type: none"> ・防災スタンプラリー, 地域防災マップの作成, 防災新聞の作成 ・女池地区防災訓練への参加 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した避難訓練を継続して, 防災意識を高める。 ・各教科・総合学習と地震想定, 津波想定 of 避難訓練を関連させた防災学習を行い防災意識を高める。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・校区の地域コミュニティ協議会と学校で, 女池地区の歴史や防災学習の環境について協議する。 ・地域, 女池保育園と連携した避難訓練を継続する。 ・各教科・総合学習と関連した防災教育を継続する。 ・鳥屋野中学校と連携した防災訓練, 委員会活動を行っていく。 |

2. 女池小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----|-----------------------|-----------------------|--|-----------------------|-----------------|-----------------|---------------------|------------------------------|----|-------------------------------|---------------------|
| 第1学年 | | 学校探検 (生活) | 第一回 防災訓練 地震・津波 | | | | 防災委員会 防災スタンプラリー | | 第三回 防災訓練 地震・火災 | | | |
| 第2学年 | | 町探検 (生活) | | | | | 女池地区 防災訓練 | | | | | |
| 第3学年 | | 私たちの町 町探検① (社会) | 女池の博士 町探検② (総合) | | | 第二回 防災訓練 地震・液状化 | | | 昔から今ま ちづくり (社会) | | 女池今昔 女池地区 の歴史 (総合) | |
| 第4学年 | | 災害から守 るために (社会) | 防災教育 (PTA行事) | 災害から守 るために フアィヤール スクール (社会2) | 福祉って何 (総合) | | | 流れる水 の働き (理科) | | | 国土ととも に生きる自 然災害 (社会) | |
| 第5学年 | | | | | 大地のつく りの変化 (理科) | | | | | | 人と環境 (理科) | 共に生きる生 活 (家庭) |
| 第6学年 | | | | | | | | | 災害から 私たちが 守る政治 (社会) | | | |

3.女池小学校 防災教育指導例

全校児童対象

(学習のねらい)

災害(地震)発生時の避難の方法を知り,自分の命は自分で守るという防災意識を高める。

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|------|---|---|
| 【導入】 | <p>1. 女池小学校区の災害の危険性を知る</p> <p>① 女池小学校の海拔の写真から,自分たちの学校の現状に興味・関心を持たせる。</p> <p>② 新潟地震,津波,液状化等災害の写真を提示する。</p> <p>③ 災害の危険性が分かる資料(震度分布図,津波避難地図)を提示し,女池小学校の標高の低さや地盤の弱さから,地震による津波や液状化現象の危険性をおさえる。(液状化モデルの実験を行う。)</p> <p>④ 児童の災害の危険性についての問題意識から「家にいるときに災害(地震)が起きたらどうするか」課題設定をする。</p> | <p>スライド 防災教育</p> <p>災害の危険性 海拔→標高→地震→津波</p> <p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女池小学校区にはどんな災害の危険があるかな? <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震 ・津波 <p>【資料】 新潟市地区別防災カルテ 震度分布図</p> <p>【資料】 中央区津波避難地図</p> |
| 【展開】 | <p>2. 地震発生時にどのように行動するか考える</p> <p>① 地震発生時にどのように行動するか,避難訓練や家族と話合ったことをもとに考え,以下の点をおさえる。</p> <p>1)「地震がおきたら,安全確保を第一に考え,机等の下にかくれる。」</p> <p>2)「ゆれがおさまったら,避難経路の確保を考え,ドアを開ける。また,二次災害を防ぐことを考え,ブレーカーを切ったり火を消したりする。」</p> <p>3)「避難するときは,建物や道路の被害も考え,自転車等使わず,歩いて避難する。」</p> <p>3. 日頃から備えておくべきことを考える</p> <p>① いざというときに,しっかりと避難するために,日頃からどんな準備をしておくべきか,家族と話合ったことをもとに考え,以下の点をおさえる。</p> <p>1)「家族と,避難場所や避難経路を確認しておく。」</p> <p>2)「すぐに避難できるように,非常時の持ち出し品を用意しておく。」</p> <p>② 災害時ブロック別避難場所図に,自分の家と避難場所の印をつける。</p> <p>③ 非常時持ち出し品・備品について,確認する。</p> | <p>スライド 防災教育</p> <p>地震が起きたら→ゆれがおさまったら→避難するときは</p> <p>ワークシート 家にいるときに災害(地震)がおきたら</p> <p>どうする</p> <p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家にいるとき地震が起きたらどうしますか <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の下にかくれる ・ドアを開ける <p>スライド 防災教育</p> <p>普段のそなえ→災害時ブロック別避難場所→非常時の持ち出し品チェックリスト</p> <p>資料 災害時ブロック別避難場所図</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭で,災害時ブロック別避難場所図の自分の家と避難場所について話し合っておく。 <p>資料 非常時の持ち出し品チェックリスト</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭で,非常時持ち出し品・備品について話し合っておく。 ○給食用非常食,水,カンパン,携帯トイレ等を提示する。 |

| | | |
|-------------|---|--|
| 【感想】 | <p>4. 学習してわかったことを確認する</p> <p>① 「災害時の心得」についての考えを、ワークシートに書かせる。</p> <p>② 「自分の命は自分で守る」ことをまとめる。</p> <p>③ ふり返りをする。</p> | <p>ワークシート 家にいるときに災害（地震）がおきたらどうする</p> <p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害が起きたときに、心得ておかなければいけない、最も大切なことは何ですか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命を大切にすることです。 ・安全です。 |
|-------------|---|--|

| | |
|-------------|---|
| 【画評】 | <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市地区別防災カルテや津波避難地図等の資料から、女池小学校区の地震による津波や液状化の危険性を理解している。 ・災害時に避難する場所とその経路を理解している。 ・非常時の持ち出し品・備品を準備しておく必要性を理解している。 ・災害時は、適切な行動をとって、自分の命は自分で守ることの大切さを理解している。 |
|-------------|---|

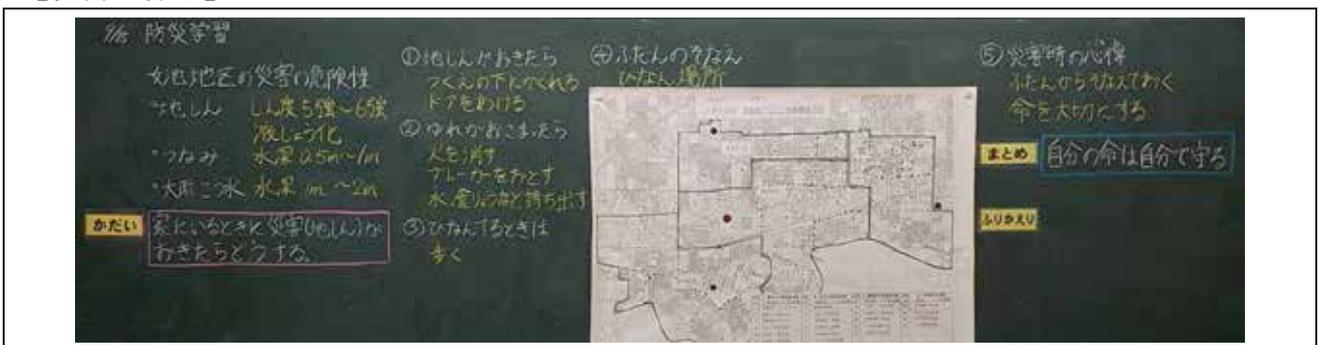
【教材資料】



【スライド資料】



【板書の様子】



5) 白新中学校区（中央区）

対象校：白新中学校・鏡淵小学校・白山小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

| | 実施日・会場 | 検討内容 |
|-----|---------------------------------------|---|
| 第1回 | 平成28年6月21日 16:30～17:30 会場：白新中学校 | 1. 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2. 各校における防災教育の進捗確認 3. 取組についての情報共有 4. その他（次回の日程調整等） |
| 第2回 | 平成28年9月27日 16:00～16:45 会場：白山小学校 | 1. 各校における防災教育の進捗確認／情報共有 2. 情報共有 3. その他（次回の日程調整等） |
| 第3回 | 平成29年2月2日 16:00～16:45 会場：鏡淵小学校 | 1. 各校における防災教育の進捗確認／情報共有 2. 情報共有 3. その他（来年度以降の防災教育の取組や相談） |

② 各学校へのサポート事例

| 対象校 | 実施日 | サポート種別 | サポート内容 |
|-------|----------------------------|--------|--|
| 白新中学校 | 平成28年 7月13日 | 講座実施 | 熊本地震支援活動に参加する児童に、災害ボランティアセンター等に関する事前学習を実施。 |
| 白新中学校 | 平成28年 7月13日 | 打ち合わせ | 熊本地震支援活動に関する情報提供等。 |
| 白新中学校 | 平成28年 7月15日 | 打ち合わせ | 熊本地震支援活動に関するPTA向けに支援内容・スケジュール等の説明を実施。 |
| 白新中学校 | 平成28年 7月22日～ 7月24日 | | 熊本地震支援活動の調整及び同行。 |
| 白山小学校 | 平成28年 10月17日 | 参観 | 児童全員を対象とし、新潟大学ト部准教授より地震のメカニズムや避難行動等に関する講座を実施。 |
| 白新中学校 | 平成28年 10月22日 | 参観 | 熊本地震支援に関わった生徒を中心に「地域とつながってどうということ？～熊本地震支援活動から考えよう～」を開催。シンポジウムへのアドバイス等を実施。 |
| 白山小学校 | 平成28年 10月17日～ 10月22日 | 情報提供 | 小学校で防災週間を設定。昼休み・2学年ごと・30分程度でできる簡単な内容（参加は希望者のみ）で使える素材を紹介してほしいとのことで、防災体操・防災かるた・防災ビンゴを紹介。 |
| 鏡淵小学校 | 平成28年 11月25日 | 打ち合わせ | 4年生を対象とした防災学習に関する講座について打ち合わせを実施。 |
| 鏡淵小学校 | 平成28年 12月9日 | 講座実施 | 4年生を対象とし、津波の際の避難行動等に関する講座を実施。 |

【7/13 白新中学校 熊本支援事前学習】



【7/22～7/24 白新中学校 熊本支援活動】



【10/17 白山小学校津波学習】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

白新中学校区は、防災週間を設定し、昼休みやホームルーム、朝学活の時間を活用し、防災グッズの作成や災害についてお話する等の工夫をしている学校があった。グッズの作成では低・中・高と分けてどの学年でも学べるように構成していた。繰り返し行うことで児童・生徒の防災についての意識付けになったと感じる。

新潟地震当時の映像資料や写真等記録が残っている学校があり、児童に当時の様子を見せた。その際に外部の専門家から地震・津波についての講話をお願いしていた。自分の通う学校がどんな様子だったのか知ることによって一人一人が自分事として考えられたと感じた。

<白新中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> 耐震構造設計の鉄筋コンクリートの校舎は、揺れによる崩壊や倒壊の危険度は極めて少ない。 体育館はH10年度完成。耐震構造設計が有効であり、崩壊・倒壊の危険度は極めて少ない。 揺れによる「窓ガラスの割れや飛散・落下」による二次災害が予想される。 信濃川より70m。白新中学校は海拔1.3mに位置。最新の新潟県の津波浸水想定では、発災から30分～120分未満で津波が校舎に到達する想定。浸水深度は1.0m未満。 難聴学級を併設している。避難について最大の配慮が必要とされる。 地盤が軟弱であり、地震発生時は地下水の噴出や流砂の現象(液状化)が予想される。 避難場所のグラウンドと校舎の間に交通量の多い道路がある。交通事故に巻き込まれる可能性がある。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> 地域の方は中学生が災害発生時の防災への担い手であるという思いを抱いており、中学生への期待は非常に高い。そのため、ジュニアレスキュー育成講習会や地域の防災訓練への積極的な参加を期待している。また、白新中学校区の高齢化にともない、自助と共助の観点から防災をとらえ、災害発生時に避難や復興活動の支援を行えるよう、日常から地域で顔が見える関係を作り続けて欲しいと強く感じている。 |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> 日常の備えや的確な判断のもと主体的に行動できる生徒 地域の防災活動や災害時において、助け合いの大切さを理解し、すすんで活動できる生徒 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> 地震・津波想定避難訓練に地域の方をお招きして、避難の様子を参観して頂いた。 熊本地震発生に伴い、生徒会本部の発案で、生徒と地域に募金とメッセージ用のうちわの回収をお願いし、復興に向けたメッセージを書き、実際に代表生徒3名が募金とうちわを渡すために熊本県を訪問した。 文化祭で地域の代表の方と生徒、職員、新潟NPO協会の方で「地域とつながるってどういうこと？熊本地震復興支援活動を通して考えよう」というテーマのもと、シンポジウムを行った。 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> 新潟県防災教育プログラム必須10項目を3年間で系統的に学べるように、教科や学活・道徳の時間を活用しながら確実に全学年で行う。 防災教育だよりを作成し、校内だけではなく、地域や家庭向けにも配布することで、防災についての意識と知識の向上を図る。(今年度は熊本地震と地震の仕組みについての防災教育だよりを発行した。) 関係機関と連携し、年3回、地震・津波、不審者、火災の3想定での避難訓練を行う。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練後に振り返りを確実に言い、来年度の計画につなげる。 年度当初の職員会議で防災教育プログラムの実施計画を提案し、周知を図る。また、年度末に実施状況を確認し、来年度以降の改善につなげる。 中学校区の自治会や小学校、関係機関と連携を図りながら計画・実施を行う。 |

2. 白新中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----|-------------------|---|----|----|----|----------------|----------|---------------|-----------------------|----|--------------------|
| 第1学年 | | 防災教育だより熊本地震特集号の発行 | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | | | 地震・津波を想定した全市一斉避難訓練及び、防災教育プログラムを活用した授業実践 | | | | | | | | | |
| 第3学年 | | | | | | | 不審者侵入を想定した避難訓練 | 白新シンポジウム | 火災発生を想定した避難訓練 | 防災教育プログラムを活用した授業（雪災害） | | |
| | | | | | | | | | | | | 生徒会本部による熊本地震復興支援活動 |

3.白新中学校 防災教育指導例

| | |
|-----------------------|--|
| 中学校 全校生徒対象 | (学習のねらい) 「災害への備えについて普段から大切にしたいことについて考え、地域防災への意識を高める」 |
|-----------------------|--|

| | 学習内容（展開例） | 資料や学習のポイント等 |
|-------|--|--|
| 【導入】 | 全市一斉避難訓練後 1. ①地域の方より新潟地震と中学生に期待していることについてのお話をいただく。 | <ul style="list-style-type: none"> 地震の体験談と地域の実情をもとに、中学生に必要な役割と期待していることをお話しいただく。 |
| 【展開】 | 熊本地震復興支援活動 2. 熊本地震復興への募金と復興支援うちわの作成 ①全校生徒と地域に募金と復興支援うちわの回収を依頼する。 ②回収したうちわに復興へのメッセージを記入する。 ③熊本県へ生徒会本部が実際に届けに行くとともに、現地の状況や中学生ができること、大切にしたいことを調査する。 ④生徒会朝会で熊本訪問の報告を行う。 3. 学校づくり委員会及び白新シンポジウム ①学校づくり委員会で、生徒、職員、保護者、地域の代表で熊本地震復興支援活動を踏まえ、『『ともに歩む地域の学校』における中学生の姿とはどのような姿だろうか?』をテーマにファシリテーションを行う。 ②文化祭において職員、一新会本部、地域の代表生徒がパネリストとなり、地域と普段からつながるにはどうしたらよいかをテーマにした白新シンポジウムを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 募金とうちわ回収のお願いは地域の回覧板を活用する。 募金は学区の小学校に直接生徒が出向き、呼びかけを行う。 中越防災安全推進機構や新潟NPO協会と連携しながら活動を行う。 スライドを用いて、熊本市内の状況、被災者の気持ちや悩み、中学生に普段から大切にしたいことを全校に周知させる。 生徒、職員、保護者、地域が混ざり合うようにグループを編成する。 ファシリテーションにワールドカフェを取り入れ、より多くの視点から意見を引き出せるようにする。 パネリストは、生徒会本部、校長、地域代表、新潟NPO協会構成する。 地域の方からは地域の防災訓練へ状況や、地域に中学生がいることの安心感と信頼感等を話してもらう。 |
| 【まとめ】 | 4. 個人行動宣言文の作成 ①白新シンポジウムの内容を受け、全校生徒で個人行動宣言文を作成する。 ②作成した宣言文を生徒玄関に掲示する。 | <ul style="list-style-type: none"> 共に歩む地域の学校の一員として自分に何ができるかをファシリテーションで考える。 ファシリテーションをもとに一人ひとりに個人行動宣言文として文章化させる。 |
| 【評価】 | <ul style="list-style-type: none"> 災害は他人事では無く、自分の地域にも起こりうるものであるという自覚を深めることができたか。 地域の思いや熊本地震復興支援活動での報告を元に、地域の一員として大切にしなければならないことを考えることができたか。 | |

【活動実践の様子】



個人行動宣言文
 ~ともに歩む地域の学校の一員として~
 2016.10.23
 @白新シンポジウム

地域でどのような行事が行われているのかを
 知り、積極的に参加する。

欠かしている人、会ったことが
 ない人にも、積極的に挨拶をする。

地域の活気を
 積極的に発信する!!
 参加したことで、成果を周囲
 に伝える!!

朝、地域の人5人以上に
 挨拶をする。

行事や挨拶を通して
 地域の人との交流を
 深める!

自分の住んでいる
 地域の良いところを
 GG 見つける!! (良いところ)

<鏡淵小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <p>東日本大震災を契機として、学校・児童及び地域における防災への意識は高まっている。6月には、土曜日を授業日として、学校と地域の合同防災訓練（含：防災の講演会、保護者との引き渡し訓練）を行った。地域から多数の参加があり、改めて「学校を中心とした町全体で子どもを守ろう、地域を守ろう」という意識を醸成する取組となった。学校での避難訓練は地震、火事、不審者等多様な危機を想定しているが、信濃川に近いという学校の立地もあり、地域としての優先ハザードは地震及び洪水であると考えている。</p> |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <p>《保護者》学校で安全に避難してほしい。 《地 域》地域の中心として学校が子どもと地域を結びつける「場」になってほしい。 《教職員》子どもたちには、安全について正しい理解を深め、自ら考え安全に行動できるようになってほしい。</p> |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <p>○安全について正しい理解を深め、自ら考え安全に行動できる子 ○教職員、地域の人等の指示をよく聞き、冷静に落ち着いて行動できる子</p> |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <p>○新潟市防災教育コンソーシアムスタッフと連携した防災授業（4年生） ○中学校と連携した防災授業（3年生・1月実施予定）</p> |
| <p>自校プランの内容</p> | <p>○年間指導計画に各種災害を想定した避難訓練を明確に位置づける。 ○総合的な学習の時間を活用した防災授業を計画的に実施する。 ○外部関係諸団体と連携して防災の授業を実施する。また、指導案及び資料を蓄積していく。</p> |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <p>○自校の教育計画に防災教育を明確に位置づける ○職員会議、職員研修等で教職員の意識共有を図る。</p> |

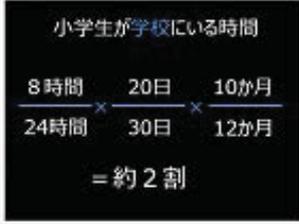
2. 鏡淵小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|-----------------------------|------------------------|--------------|-------------------|--------------|--|---------------------------|-----|-----|----------|----|----|
| 第1学年 | 非常ベル訓練・集団下校（下校時における危険箇所の確認） | 第1回避難訓練（火災時における避難のしかた） | 洪水・土砂災害（学活1） | 洪水・土砂災害の安全教室（学活1） | 地震・津波災害（学活1） | 第2回避難訓練・地域合同防災訓練（地震発生時及び津波警報発令時における避難のしかた・地域との避難所設営訓練・非常食体験・保護者への児童引き渡し訓練） | 第3回避難訓練（不審者侵入時における避難のしかた） | | | 雪災害（学活1） | | |
| 第2学年 | | | 洪水・土砂災害（学活1） | | 地震・津波災害（学活1） | | | | | 雪災害（学活1） | | |
| 第3学年 | | | 洪水・土砂災害（学活1） | | 地震・津波災害（学活1） | | | | | 雪災害（学活1） | | |
| 第4学年 | | | 洪水・土砂災害（学活1） | | 地震・津波災害（学活1） | | | | | 雪災害（学活1） | | |
| 第5学年 | | | 洪水・土砂災害（学活1） | | 地震・津波災害（学活1） | | | | | 雪災害（学活1） | | |
| 第6学年 | | | 洪水・土砂災害（学活1） | | 地震・津波災害（学活1） | | | | | 雪災害（学活1） | | |

3.鏡淵小学校 防災教育指導例

| | |
|-----------------------------------|---|
| 小学校中学年 ※津一必須一3対応 | (学習のねらい)「津波が起きたときの具体的被害と、津波から身を守る方法を知る。」 ・頼れる大人が近くにいないときに津波が起きた場合、どのように行動するかについて考える。(避難行動) |
|-----------------------------------|---|

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|------|---|---|
| 【導入】 | 1. 大きな地震が起こったときには、町がどのような様子になるのかを知る。 ①大きな地震が起こると、町はどんな様子になるか知っていることを伝え合う。 ②新潟地震の時の写真をもとに、被害をイメージする。 ③海の近くにいるときに地震が起こった場合、注意しなければいけないことは何かを考える。 ④津波から自分の身を守らなければいけないという思いをもつ。 | 【といかけの例】 ・洪水から街を守る対策にはどのようなものがあるでしょうか？ 【想定される答え】 ・堤防やダム 【ポイント】 ○ いざというときに、ちゃんと行動できるようにするために、日頃から準備しておこう ※津波避難三原則【想定にとられるな】に対応 |
| 【展開】 | 2. 実際の津波の被害について写真や映像を見て理解する。 ①東日本大震災の時の被害の様子や津波の起こり方、町の様子の写真や映像を見る。 ②新潟市のハザードマップで、鏡淵小学校は津波がくる危険性があることを確認する。 ③大人がいない外での避難の仕方を考えさせる。 | 【用意する資料】 ・東日本大震災の時の津波の起こる海の映像 ・新潟地震の津波が川をさかのぼっていく様子の映像 ・津波の水が引かず、浸水している町の様子の写真 ・新潟市のハザードマップ ・津波の実験映像 ※パワーポイント(中越防災安全推進機構 作成) 【②問いかけの例】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 予想では、鏡淵小学校には最大で何mの津波がくるでしょうか。 </div> ①50cm未満 ②1～2m ③津波はこない 【ポイント】 ・児童は、東日本大震災の津波の資料映像を見ているため、②1～2mではないかという予想が多くなると考える。実際には、①50cm未満である。しかし、50cmの津波でも簡単に流されるという実験映像を見せることにより、津波の危険性があるときには、すぐに逃げなければ流されてしまうことを考えさせる。 ・津波は、一度きりの波ではなく、次の波もあることを映像を見ることによって確認し、一度避難したら戻らないことを理解させる。 【③問いかけの例】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学校の帰り道等、放課後大人がいないところで大きな地震が起きたとき、どう行動したらいいだろう。 </div> |

| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">【展開】</p> | <p>④班で話し合ったことを発表し、どのような避難行動が考えられるかを聞き合う。</p> <div style="text-align: center;">  <p>小学生が学校にいる時間</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>8時間</td> <td>20日</td> <td>10か月</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">×</td> </tr> <tr> <td>24時間</td> <td>30日</td> <td>12か月</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">= 約 2 割</td> </tr> </table> </div> <p>⑤小学生が学校にいる時間を考え、自分たちで避難することもあることを考える。</p> | 8時間 | 20日 | 10か月 | × | | | 24時間 | 30日 | 12か月 | = 約 2 割 | | | <p>【③ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大人がいない放課後(学校からの帰り道, 地域で遊んでいるとき等)」を想定することにより, 大人に頼らず自分でどこに避難すればよいのかを考えさせる。 ・「学校の近く」「白山駅の近く」「やすらぎ堤」等, 自分のいる場所を限定することにより, 津波の被害に遭わないためには, 具体的にどう避難すればよいかという行動を考えさせる。 ・「どこに」「どのように」避難するかを考えさせる。 ・グループで話し合う活動を通して, 鏡淵小学校の校区で避難できる場所を具体的に考えさせる。 <p>【③予想される児童の答え】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>避難場所 (どこへ)</th> <th>どのように</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校 近く</td> <td>・学校へ戻る ・市役所 ・新潟大学病院 ※家には戻らない</td> <td>・あせらないで ・「おさない はしらない しゃべらない もどらない」 ・落ち着いて ・避難先で大人の指示に従う ・大急ぎで ・一度避難したらもどらない</td> </tr> <tr> <td>やすらぎ堤</td> <td>・りゅーとぴあ ・マンション ※川からは離れて高台を探す</td> <td></td> </tr> <tr> <td>白山駅の近く</td> <td>・近くの高い場所どこだろう? ・駅の中 ・がんセンター ・マツモトキョシ ・白新中学校</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 場所 | 避難場所 (どこへ) | どのように | 学校 近く | ・学校へ戻る ・市役所 ・新潟大学病院 ※家には戻らない | ・あせらないで ・「おさない はしらない しゃべらない もどらない」 ・落ち着いて ・避難先で大人の指示に従う ・大急ぎで ・一度避難したらもどらない | やすらぎ堤 | ・りゅーとぴあ ・マンション ※川からは離れて高台を探す | | 白山駅の近く | ・近くの高い場所どこだろう? ・駅の中 ・がんセンター ・マツモトキョシ ・白新中学校 | |
|--|--|---|-----|------|---|--|--|------|-----|------|---------|--|--|--|----|------------|-------|----------|---------------------------------------|---|-------|------------------------------------|--|--------|---|--|
| 8時間 | 20日 | 10か月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 24時間 | 30日 | 12か月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| = 約 2 割 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 場所 | 避難場所 (どこへ) | どのように | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校 近く | ・学校へ戻る ・市役所 ・新潟大学病院 ※家には戻らない | ・あせらないで ・「おさない はしらない しゃべらない もどらない」 ・落ち着いて ・避難先で大人の指示に従う ・大急ぎで ・一度避難したらもどらない | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| やすらぎ堤 | ・りゅーとぴあ ・マンション ※川からは離れて高台を探す | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 白山駅の近く | ・近くの高い場所どこだろう? ・駅の中 ・がんセンター ・マツモトキョシ ・白新中学校 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">【まとめ】</p> | <p>3学習して分かったことを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな地震が起きたときには, 津波の危険があることを考えて, 近くの高い建物を探して避難する。 ・ワークシートに授業の感想, 分かったことを大事だと思う避難行動を入れて書く。 | <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震や津波の被害を考えると怖い思いがあるが, 正しい知識と避難行動が分かって冷静に行動すれば怖くないことを伝える。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・津波が起きたときの具体的な被害と周辺がどうなるかを理解できたか。 ・津波が起こるとどんなことに困るのか分かった。 ・津波が起きたときの具体的な避難行動を考えることができたか。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

【授業の実際の様子】



【提示資料例】

【板書の様子】



↓津波資料【津波資料202 東日本大震災】



↓ハザードマップ



<白山小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 学校は信濃川のすぐ近くに位置している。海からはそれほど近くはないが、津波が来た際には、信濃川を逆流してくることが予想される。 ● 液状化の危険度はほとんどの地区で最大レベルの4となっており、新潟地震の時にも液状化により大きな被害を受けている。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の方々は、防災無線による災害時のネットワークを作ったり、地域での防災訓練に取り組んだり、子どもたちを地域みんなで見守ろうという意識が非常に高い。子どもたちが安全に避難できる方法の確立を願っている。 ● 学校としては、日常の学校生活や防災教育を通じて、災害や避難に関する正しい知識や技能を身につけることを望んでいる。特に、通学路等教職員や、保護者の目の届かないところで有事があった場合の避難に対する適切な判断力・実行力を養ってほしいと考えている。 |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの住む地域の様子や災害及び被害の歴史について知り、自分の命は自分で守るという姿勢を身につけ、災害時には自分で考え、適切に安全な行動をとることができる子ども。 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 保護者・地域住民との合同による防災訓練を実施する。（引き渡し訓練） ● 大学教授を講師に招き防災講習会を実施する。（全学年を対象に実施） ● 新潟県防災教育プログラム必須学習項目を全学年で実施する。（地震・津波） ● 白山小防災週間を実施し、防災について楽しく学ぶ機会を設ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・防災ビンゴ、新聞スリッパ作り ・新潟市危機管理防災局のキャラクターを招いた防災体操 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域コミュニティ協議会や保護者と連携して、子どもたちが確実に避難できる体制を確立する。 ● 本校に多く残っている新潟地震についての映像資料や文章記録を用いて、防災学習や避難訓練に取組、児童や保護者の防災意識を高める。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 各種訓練を地域・保護者と連携して行っていくことで、地域全体の防災意識を高め、子どもたちの避難体制を地域全体で考えていく。 ● 新潟県の防災教育プログラムと、本校の資料とを組み合わせ、地域特有の防災学習を実施する。 ● 外部講師の方と連携をとり、年度ごとの実態に合う指導内容を検討していく。 |

2. 白山小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
|------|---|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|--|
| 第1学年 | <div data-bbox="395 1921 1289 2018" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 町内子ども会・集団下校 ※海拔シート・危険箇所の確認 </div> <div data-bbox="395 1809 1289 1906" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 避難訓練①（火災） </div> <div data-bbox="884 1648 983 1800" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px auto;"> リトル ファイヤ ースク ール </div> <div data-bbox="395 1554 1289 1637" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 防災教育プログラム「地震編」の実施 </div> <div data-bbox="395 1442 1289 1541" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 避難訓練②（地震・火災）引き渡し訓練 </div> | | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | | | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | | | | | | | | | | | | | |
| 第4学年 | | | | | | | | | | | | | |
| 第5学年 | | | | | | | | | | | | | |
| 第6学年 | | | | | | | | | | | | | |

3.白山小学校 防災教育指導例

全校児童対象
全2回

(学習のねらい)
災害が発生したときに必要な、安全な行動を学んだり、新潟地震の記録について学ぶことを通して、地域の人たちと共に助け合い、自分たちの安全を自分たちで守るという防災意識を高める。

| | 学習内容（展開例） | 資料や学習のポイント等 |
|-------------|--|--|
| 第 一 次 | 1. 避難訓練をする（地震・津波想定） ①地震発生⇒1次避難 新潟県粟島沖南方 40km を震源とするマグニチュード 7.0 の地震が発生し、市内では最大震度 6 強を観測したという想定のもと、白山小学校屋上へ避難。 ②津波警報解除⇒体育館へ移動 津波警報が解除されたという想定で体育館へ移動する。 | 【ポイント】 ○地震が発生し、ベルが鳴ったら机の下にもぐり、机の足をつかむ。 ○口を閉じる、通報を正しく聞く。(何が起きたのか、どこへ避難するのか。) ○敏速に行動する。お(押さない)は(走らない)し(しゃべらない)も(もどらない) ○地域の防災無線を使い、校区の各自治会長へ連絡する。 |
| | 2. 新潟地震の当時の様子を知る ①新潟地震当時の白山小学校を記録したDVDを視聴する  ②校区内に住む新潟地震体験者の方からお話を聞く | 映像資料について 白山小学校に残されていた8ミリフィルム映像が、新潟大学・復興科学研究所により復元・編集された物である。映像には地震発生から、白山小学校の新校舎が建つまでが記録されている。 |
| | 3. 引き渡し訓練を行う ・保護者へ児童を引き渡す。 (引き渡しカードによりチェックする) ・保護者の都合がどうしてもつかない場合は、代理人を立ててもらう。 ・保護者の迎えが遅い場合は、学校の本部に残す。 | 【ポイント】 ○学級担任は、引き渡しカードを確認し、確実に保護者に引き渡す。その際、誰に児童を引き渡したかを、カードに記録する。 |
| | 1. 避難訓練をする（地震・液状化想定） ①地震発生 マグニチュード 7.5 の地震が発生し、市内では最大震度 5 を観測した。グラウンドは液状化現象の危険があるため、体育館へ避難する。 | 【ポイント】 ○液状化現象の可能性があるため、体育館へ避難する。 ○地域の方にも訓練を見ていただき、防災講習にも参加していただく。 |

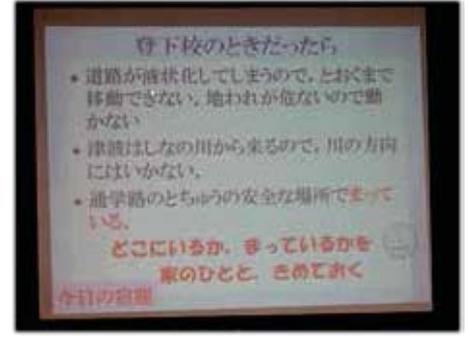
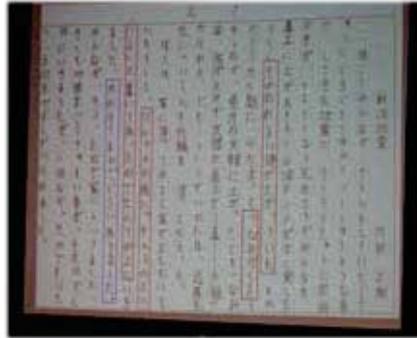
| | | |
|-----|--|--|
| 第二次 | <p>2. 防災講習を聞く</p> <p>講師 新潟大学災害・復興科学研究所 卜部厚志 准教授</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟地震の時に起きたことや、当時の白山小学校の写真ら、新潟地震の状況を知る。 ・地震当時の小学生の作文から、当時の詳細な状況や、どのように逃げたか等を知ること、実際の地震被害のイメージをもつ。 ・地震が起きたときに何が起きるか知ること、実際にどのように動くことが大事なのか考える。 | <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">指導内容</p> <p>◆地震が起きたときに起こること</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ガラス等が落ちてくる。 ②液状化がおきる。 ③津波が「信濃川」から来る。 <ul style="list-style-type: none"> ・津波の高さ 5m～7m ・15～20分で信濃川から津波が広がる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・とにかく高いところへにげる。 ・通学路や家の周りで高い場所（建物）を考えておく。 ・登下校の時は自分で考えるしかない。 </div> |
| | <p>3. 家庭で避難の仕方を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災講習で習ったことをもとに、<u>登下校時</u>に災害が起きた時の行動について考える。 (通学路の地図がついたワークシートに記入する。) | <p>【ポイント】</p> <p>○登下校時に地震が起きた時のことを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族とどこで待ち合わせるのか。 ・通学路に危険な物はないか。(落ちてきそうな物等) |

【授業実践の様子】

6/16 地震・津波想定避難訓練の様子



10/17 防災講習会の様子



6) 大江山中学校区（江南区）

対象校：大江山中学校・丸山小学校・大淵小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

| | 実施日・会場 | 検討内容 |
|-----|---|--|
| 第1回 | 平成28年6月21日 16:00～16:45 会場：大江山中学校 | 1. 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2. 各校における防災教育の取組について進捗確認・情報共有 3. その他（次回の日程調整等） |
| 第2回 | 平成28年9月26日 17:00～17:45 会場：大江山中学校 | 1. 各校における防災教育の取組について進捗確認・情報共有 2. その他（次回の日程調整等） |
| 第3回 | 平成28年11月30日 16:00～17:00 会場：大江山中学校 | 1. 学校実践の振り返り 2. 次年度以降の自校化に向けて 3. その他（防災教育に関する意見交換等） |

② 各学校へのサポート事例

| 対象校 | 実施日 | サポート種別 | サポート内容 |
|--------------------------|-----------------|-------------|---|
| 大江山中学校 大淵小学校 丸山小学校 | 平成28年 6月7日 | 打ち合わせ | 第1回防災中学校区ミーティングに向けた議案及び出席者の調整。 |
| 大淵小学校 | 平成28年 7月26日 | 相談対応 | 秋に実施する防災授業（4年生総合学習「阿賀野川について（河川の氾濫）」5年生理科「台風」「流れる水の動き」）での防災士の活用について相談対応。 |
| 丸山小学校 | 平成28年 8月4日 | 打ち合わせ | 9月29日の避難訓練後の全校対象防災講座について担当教員と打合せ。避難後の動きについてイメージさせ、10月2日に丸山小で開催する地区防災訓練への参加を促したいという教員と地域のニーズを確認した。 |
| 丸山小学校 | 平成28年 8月29日 | 打ち合わせ | 9月29日の防災講座について担当教員・自治会長・消防団分団長と打合せ。避難所についての講話と整列訓練を行い、地域の方より消防団の活動紹介や小学生に期待することをお話いただくことが決まった。 |
| 丸山小学校 | 平成28年 9月29日 | 講座実施 | 学校が避難所になることを想定し、熊本の避難所の様子を紹介。混乱時でも落ち着いて行動できるよう地区ごとに整列を行う訓練を実施。地域の方より消防団の活動紹介や小学生に期待することをお話いただいた。 |
| 大江山中学校 | 平成28年 10月20日 | 参観 打ち合わせ | 3年生と地域の保育園と合同避難訓練を実施。学習した内容を活かせるよう、避難所での災害時要援護者への対応を考えるワークを提案。 |
| 大江山中学校 | 平成28年 11月14日 | 講座実施 | 「避難所で要支援者が何で困り、中学生としてどんな手助けができるか」をテーマに、熊本支援に携わったコンソーシアムのコーディネーターより、熊本地震の避難所の事例を交えた講座を実施。 |

【6/21 第1回大江山中学校区ミーティング】



【9/29 丸山小学校 消防団分団長防災講話】



【9/29 丸山小学校 地区ごとの整列訓練】



【10/20 大江山中学校 保育園合同避難訓練】



【10/20 大江山中学校 保育園合同避難訓練】



【11/14 大江山中学校 防災講座】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

大江山中学校区では、3つの学校を会場に毎年持ち回りで地区防災訓練が行われている。子どもの参加を促すため、訓練が行われる週に防災講座を行った。消防団の方から活動にかける想いを聞き、感銘を受ける子どもたちの姿から、地域連携の大切さを確認した学校もあった。

年度当初は指定校ということで「何かしなければ」と構えていた担当者も、関係者との打合せや過去の事例を参考に、自校で継続できるやり方にしていった。消防団の協力を得て行った地域散策のアイデアを校区ミーティングで共有したことにより、別の学校が次年度の参考とした例もあった。

地域教育コーディネーターの「指定年度を通して自校化にむけて自分たちなりに工夫して考えることができたのも大きな収穫だった」という声にある通り、各校で試行錯誤を重ねたプロセスそのものにも価値があると感じた。

<大江山中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <p>学校は、約5000年前に形成された安定的な砂丘の上であり、海拔8.6mの位置にある。阿賀野川に隣接してはいるが、水害時も浸水の被害は少ないと考えられる。また、新潟地震でも液状化現象は発生していないと記録がある。</p> <p>校区は海岸から10kmほど内陸にあり、ほとんどが海拔1m程度である。ハザードマップによると、阿賀野川の堤防が決壊した場合は0.5～2mの浸水が予想されている。津波の直接的な被害はないとされているが、地震発生時には周囲の水田では液状化も考えられる。そのため、学校は地域の重要な避難所になることが予想される。</p> |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <p>校区は郊外に位置しており、労働世代の多くは校区外で仕事をしている。そのため、日中の校区内には災害時要援護者が多く、状況によっては中学生にも率先避難者としての役割や、避難時には災害時要援護者のサポートを行う等の活躍が期待される。生徒には、地域の災害特性や避難生活について学び、地域の防災訓練に参加する等地域との交流を増やすことが求められる。</p> |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・想定以上の各種災害が発生した場合でも、生徒が状況に応じて的確に判断し、自らの安全を確保するための行動ができる。 ・生涯にわたって災害から命を守るために必要な知識や判断力、回避能力を身に付ける。 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域散策において、地域の防災施設である消防団の詰所を訪問し、お話を聞くとともに、防火服の着用やポンプ車の試乗を行った。（1年生） ・講師を招いて、熊本震災の実態についての講話を頂き、避難生活において自たちにできることを考えるワークショップを行った。（全校） ・家庭科の授業において、避難所での生活や非常食について学び、中学生としての役割や行動を考えた。また、保育園児が避難訓練で避難所となる当校に来た時には、園児を迎えて協力する体制をつくった。（3年生） |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・年2回の避難訓練の実施 ・地域散策による、地域の防災施設訪問 ・ジュニアレスキュー隊育成講習 ・地域保育園の避難訓練への協力 ・地域の防災訓練への積極的な参加促進 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県防災教育プログラムを参考に、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等、教育活動全体において、防災教育の内容を体系的に位置付けていく。 ・地域教育コーディネーターを中心に、地域との交流を活性化するとともに、地域の防災教材を活用していく。 |

2. 大江山中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|--------------------|----|-----------------------|--------------|-----------------|----------------------|------------------|-----------------------|-------------|-----------------|--------------------|---------------|
| 第1学年 | 地域散策 地域の防災施設を学ぶ | | | | | | | | | 地震や津波の仕組み 理科 | | |
| 第2学年 | | | 第一回避難訓練(地震) 新潟地震学習 | 応急手当 保健体育 | | シニア レスキュー講習 | 大江山地域合同防災訓練(自治会) | 第二回避難訓練(火災) 災害体験学習 | | | 自然災害の被害と防止 保健体育 | 気象災害 理科 |
| 第3学年 | | | | | 避難所生活 非常食 家庭 | 避難訓練協力 福祉訪問 総合 | 地域保育園 | | 原子力災害 理科 | | 自然の恵みと防災 理科 | 自然災害と防災 社会 |

3.大江山中学校 防災教育指導例

| | |
|--------------------------|--|
| 中学校 ※地一必須-5 対応 | (学習のねらい) 避難所と避難者について考える ・過去の実際の避難所の様子を知る。 ・避難所における中学生の役割や行動について考える。 |
|--------------------------|--|

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|-------------|--|--|
| 【導入】 | 1. 今まで起こった災害を復習し、学習のねらいを伝える ① 今まで経験した災害と、その状況について確認する。 ② 近年発生した災害や、避難所のようすについて学ぶ。 ③ 学習のねらい「避難所における中学生の役割や行動について考える」ことをおさえる。 | 【といかけの例】 ・災害発生時の避難所で、自分たちにできることは何か。 【想定される答え】 ・お年寄りの話し相手になる。 ・幼い子どもの面倒を見る。 【ポイント】 ○ 中学生にも、できることがあることを学ぶ。災害発生時にはできる範囲で協力することが大切であることをつかむ。 |
| 【展開】 | 2. 幼児と安全に過ごすための、遊具作り ① 災害発生時には、近隣の保育園から園児が避難してくることを学ぶ。園児の保護者引き渡しまで、中学生が園児と過ごすことになり得ることを知る。 ② 園児と、安全に、且つ学校にある物で簡単に手軽に遊んで過ごせるような遊具の必要性を学び、その作成をする。 3. 地域の保育園の避難訓練協力 ① 地域の保育園の避難訓練で園児が来校した際、体育館に園児を招き入れ、交流を行う。実際に、自分たちで考えた遊びや作成した遊具を用いてふれあい、園児の特性やかかわり方について学ぶ。 ② 災害発生時には、今日の避難訓練のように過ごすこともあり得ることを確認する。実際に交流してみて、「○○した方が良かった。」等の改善策を発表する。 | 【といかけの例】 ・園児の遊具や、園児と過ごすために必要なことは何だろうか。 【想定される答え】 ・体育館や室内で遊べるもの。 ・学校にあるような材料で簡単につくれるもの。 ・壊れてもすぐ作り直せるもの。 ・安全に遊べること。 ・ルールが簡単で誰にでもできること。 【ポイント】 ○ 積極的にかかわることで、園児が心を開き、交流が活発になることを学ぶ。 ○ その園児の特性によって、同じ遊具でも遊び方を工夫したり、時間や参加人数を変えたりすることで、楽しく遊べることを学ぶ。 |

| | | |
|-----|--|---|
| 【め】 | <p>4. 学習してわかったことを確認する</p> <p>① ワークシートに、「自分たちにできること」等を書き、発表する。</p> | <p>ワークシート</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害の際は、まずは自分の身を守ることを確認する。 ○ 避難所には、乳幼児以外にも助けを必要としている人がいること、自分たちのできる範囲で協力することを確認する。 |
| 【評】 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全で有効な遊具を、他と協力してつくることができたか。 ・保育園の避難訓練協力の際、積極的に園児とかかわりながら交流していたか。 ・避難所になったとき、自分たちにできることをまとめることができたか。 | |

【授業実践の様子】



【まとめ】避難所で自分たちにどんなことができるか（ワークシートより抜粋）

- ・園児たちが、親を待っている間、不安にならないように、話しかけたり、遊んだりする。
- ・救助用具や避難用具を、率先して運ぶ。
- ・不安になっている人に、優しく話しかける。
- ・避難生活で、食料や生活に必要なものを運ぶ。
- ・小さい子のそばにいたり、手遊びやクイズ等をしたりする。
- ・不安な人に、笑顔で話しかける。自分たちが不安そうだといけないので、自分たちは笑顔でいる。
- ・具合が悪い人や体調が良くない人の手伝いをする。
- ・案内をしたり、物資を運んだり、大人の手伝いをする。
- ・お年寄りの手伝いや、サポートをする。
- ・〇〇大会やイベントをして、避難所を明るくする。
- ・精一杯明るく元気に生きる。それがみんなの力になる。

<丸山小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> 当学区は亀田郷の大江山地区に位置しており，最も古い砂丘地帯である。津波のハザードは低い。 校区の一部（蔵岡）が阿賀野川沿いであるため，阿賀野川増水時には，洪水被害に遭う危険性がある。昨年の増水時には，避難指示が出ていた。 大江山地区での自主防災訓練が毎年行われているが，子どもの参加は少ない。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> 災害時における安全な行動についての知識をもち，「自分の命を自分で守れる人」に育ってほしい。 |
| <p>防災教育において，目指す児童生徒像</p> | <p>自他の生命を尊重し，災害発生時に適切に判断し主体的に行動できる児童</p> <p>低学年：身の回りの災害について知り，近くの人から学ぶ等，安全で適切な行動がとれるようにする。</p> <p>中学年：地域の自然や災害について知り，自ら安全で適切な行動がとれるようにする。</p> <p>高学年：我が国の自然や災害のメカニズムについて知り，様々な場面に応じて自ら安全で適切な行動をとれるようにする。また，他の人々の安全にも気配りできるようにする。</p> |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> 地震や火災を想定した全校避難訓練（4月，6月，9月） 自然災害等による大規模停電を想定した引き渡し訓練（6月授業参観時） 新潟県防災教育プログラムを活用した全学級での授業（9月） 外部講師を招いて，「防災教室」を行い，防災への関心を高めたり，地域と協力するときの小学生としての心構えを考えたりする機会を設けた。 4年生社会科で地域の消防団の方に来校していただき，消防団の仕事についての，お話を聞いた。 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の実施に合わせて，想定した災害に関する学習を学年・学級で行う。 今ある教育活動（避難訓練や地域子ども会，学習参観，教科）に防災教育の視点を絡めた取組や実践を継続していく。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> 年間学習指導計画に，防災学習を位置付け，防災教育プログラムの必須事項を確実に実施する。 消防団の方や自治会長に避難訓練の様子を見てもらったり，地域防災訓練のアナウンスを行ったりして，学校と地域の取組を情報交換していく。 |

2. 丸山小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|---|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 第1学年 | 避難訓練（火災想定）・災害時の正しい行動の仕方の指導 | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | 避難訓練（地震想定）・防災教育プログラム【地震編】【津波編】の実施 | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | 引渡し訓練（大停電想定） | | | | | | | | | | | |
| 第4学年 | 着衣水泳（体育） | | | | | | | | | | | |
| 第5学年 | 防災教育プログラム【洪水災害】【土砂災害】の実施 | | | | | | | | | | | |
| 第6学年 | 防災教育プログラム【原子力災害】の実施 | | | | | | | | | | | |
| | 避難訓練（休憩時・火災想定）・全校防災教室 | | | | | | | | | | | |
| | <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">災害から町を守るために（社会）</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">流れる水の働き（理科）</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">大地のつくりと変化（理科）</div> </div> | | | | | | | | | | | |
| | 避難訓練・安全教室（不審者侵入）防災教育プログラム「雪災害」の実施 | | | | | | | | | | | |
| | <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自然災害と共に生きる（社会）</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">災害からわたしたちを守る政治（社会）</div> </div> | | | | | | | | | | | |

3.丸山小学校 防災教育指導例

全校児童
(60分間)

(学習のねらい) 避難所の状況を学び、災害が起きた時を想定して落ち着いて行動できるように練習する

| | 学習内容（展開例） | 資料や学習のポイント等 |
|------------------|---|---|
| 15分 | 1. 避難訓練をする ① 昼休み中、地震による出火を想定。 ② 非常ベルが鳴ったらその場にとどまり、口を閉じて放送を聞く。 ③ 体育館へ避難する。 ④ 学年ごとに整列する。 | 【ポイント】 ○非常ベルが鳴ったらその場にとどまり、口を閉じて放送を聞く。 ○近くの教職員の指示に従い、口を開かずに落ち着いて避難する。 ○火元を避けて避難する。 |
| 【導入】 3分 | 2. 授業の趣旨説明 この授業で、熊本の避難所の話を聞くことと、整列訓練することを知らせる。 | ・この授業のねらいの説明 ・コンソーシアムの紹介 ・地域の消防団、自治会長さんの紹介 |
| 【展開】 ① 15分 | 3. 熊本の避難所の話（講師：コンソーシアム） ① 実際に避難所になったところの学校の様子を学ぶ ② 避難所での小・中学生の行動を学ぶ | 【ポイント】 ○ 災害が起こった時には、丸山小学校が避難所になることを知らせる。 ○熊本の小学校が実際に避難所になったときの人々の様子を具体的に伝える。 ○子どもたちの不安を大きくしないよう、資料を精選する。 【資料】熊本の避難所の様子（写真） ○いつも学校でやっている活動が、いざというときに役立っている。 |
| 【展開】 ② 15分 | 4. 整列訓練 <流れ> ①学級ごとに並んでいる状態から町内表示のところに移動し、 <u>登校班ごとに整列する</u> 。 （「おはしも」の法則で行動する） ②班長が、人数を担当の先生に報告する。 ③ <u>班長が抜けた状態で整列する</u> 。 ④班長はステージ上へ移動する。 ⑤副班長が、人数・いない人の名前を担当の先生に報告する。 ⑥学年ごとの整列に戻る | 【問いかけの例】 ・「おはしも」の約束を守って、行動しましょう。 ・登校班長は、「○人全員そろいました。」「○人欠席、○人そろいました。」と報告しましょう。 |

| | | |
|---------------------------|--|--|
| <p>【展開】 ③ 15分</p> | <p>5. 地域の消防団の方・自治会長さんのお話 ①消防団の活動内容 ②消防団に入ったきっかけ・想い ③小学生へのメッセージ ④10/2の地域防災訓練の紹介（自治会長さん）</p> | <p>【ポイント】 ○災害が起こったときは、安全のために、小学生のみなさんはまず落ち着いて行動して欲しい。</p> |
| <p>【まとめ】</p> | <p>6. 振り返り 教室で今日の避難訓練と活動について振り返りをする。</p> | <p>【ポイント】 ○「おはしも」の約束を守る。 ○日頃の活動が役に立つ。</p> |
| <p>【評価】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練で、適切に身を守ったり、「おはしも」の約束を守って避難したりすることができたか。 ・熊本の避難所の様子から、実際に災害が起こったら丸山小学校が避難所になることを理解することができたか。 ・避難訓練や日頃の学習活動が避難時に役立つことを理解することができたか。 | |

【授業実践の様子】



【スライド画像】

| | | | |
|------------------|---|--|--|
| <p>くまとのひなんじょ</p> | <p>くまとのひなんじょ いつものせいかつとくらべて どんなようすでしょうか？</p> | | <p>こどもたちのようす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの水くみ ・たいいくんのそうじ ・たべものをくぼるてつだい <p>→かつやくしていた！ →こどもたちのがんばりにはげまされている人もたくさんいた！</p> |
|------------------|---|--|--|

<大淵小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <p>○校区は阿賀野川に隣接しており、水害が最も懸念される地域である。学校は、地域の避難場所となっている。</p> <p>○平成27年度には、大雨により阿賀野川が増水し、避難勧告の寸前までいったことがあった。そのため、児童を保護者引き渡しとした経験がある。</p> |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <p>○避難訓練等にかかわって保護者や地域からの要望は出ていない。地域の自治会は毎年「防災訓練」を行っている。</p> <p>○学校の避難訓練では、火災、地震、不審者を想定し、年3回行っている。地震の訓練の際に、「大津波警報」が発令されたことを想定した二次避難の訓練も行っている。しかし、「洪水」の際にどのように避難をし、どこで待機をするのかが職員や児童等に周知されていない現状がある。万が一、災害が起こった場合、自分の身は自分で守らなければならない。そのため、「洪水」の際に自分で避難ができるようにさせたいと願っている。</p> |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <p>校区において洪水による災害が起き得る可能性が高いことを理解し、自分の身の安全を確保しながら避難をすることができる子ども。</p> |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <p>○年間4回（4月、6月、9月、1月）の避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月は地震を想定した屋外への避難の後、二次災害として「大津波警報」が発令されたことを想定し、屋上へ避難する訓練を行った。その後、保護者への引き渡し訓練というように、三つの流れを想定した訓練を実施した。 |
| <p>自校プランの内容</p> | <p>○現在、第4学年の総合的な学習の時間において、校区に隣接する「阿賀野川」についての学習を行っている。昨年度までは、「川の恵み」に焦点を当てて学習を行ってきた。この学習の中に「洪水」についての学習を取り入れ、防災に焦点を当てた学習ができるようにする。</p> |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <p>○第4学年の総合的な学習の時間に位置付け、毎年4年生で「洪水」についての学習を行う。</p> <p>○6月の避難訓練においては、毎年全市一斉訓練が行われる6月16日に行うこととして、年間行事予定に組んでいる。</p> |

3.大淵小学校 防災教育指導例

| | |
|---|---|
| A-1 小学校第4学年 ※洪-必須-1~4対応 | (学習のねらい) 街が浸水する理由について、資料や映像を見て話し合う活動を通して、大雨が降ったら、どのように身を守るか考えることができる。 |
|---|---|

| | 学習内容（展開例） | 資料や学習のポイント等 |
|--------|--|---|
| 【導入】 | 1. 雨のたくさん降る季節について考える。 ①時期によってたくさん雨が降ることを想起させ、「 30mm以上の雨が降ることもある 」ことをおさえる | 【問いかけの例】 ・たくさん雨が降る日が多いのは何月でしょうか。 【想定される答え】 ・冬の12月ごろ。 【ポイント】 ○梅雨や台風、雪等の気候条件や災害によって雨の多い時期があることを押さえる。 【資料1】 30mm以上の降雨日数平均 |
| 【展開】 | 2. 洪水や浸水の起こる様子を知る。 ①大雨が降った時の土地の様子を考え、「 街が浸水して危険な状況になる 」ことをおさえる。 3. 自分の身の守り方を考える。 ①学習課題「 大雨が降ったら、身を守るためにどうしたらよいか 」をおさえる。 4. 大雨が降った時の安全な行動の確認と避難時に注意することを知る。 ①自分たちの考えた行動が正しいかどうかについて比べながら確認する。 ②大雨が降った時には、「 高いところにいる、流れる水に近づかない、情報に注意する 」ことをおさえる。 ③洪水が起こった時は、「 水の中を歩かない、近くの人と声をかけ合って避難する 」ことをおさえる。 | 【問いかけの例】 ・大雨が降ると、どのようなことが起こるのでしょうか。 【想定される答え】 ・川の水があふれる。 ・土地の低いところに水が溜まる。 【ポイント】 ・浸水する理由として「排水路の水が溢れる」「土地が低いところに水がたまる」「大きな川も溢れる」ことを押さえる。 【資料2】 水の流れて見る洪水と対策のしくみ 【問いかけの例】 ・大雨が降ったら、自分の身を守るためにどうしたらよいのでしょうか。 【想定される答え】 ・外出しないで、家の中にいる。 ・高いところにいる。 ・川に近づかない。 【問いかけの例】 ・みなさんの考えた行動と、安全な行動とを比べながら確認していきましょう。 【想定される答え】 ・やっぱり、高いところに行くことが大切だね。 ・あわてずに、情報に注意することが大切なんだね。 |
| 【おさえる】 | 5. 学習して分かったことを確認する ①総合ノートに、授業で分かったことと感想を書く。 | 【ポイント】 ・安全な身の守り方について、はじめの考え以外に分かったことを書くことができる。 |

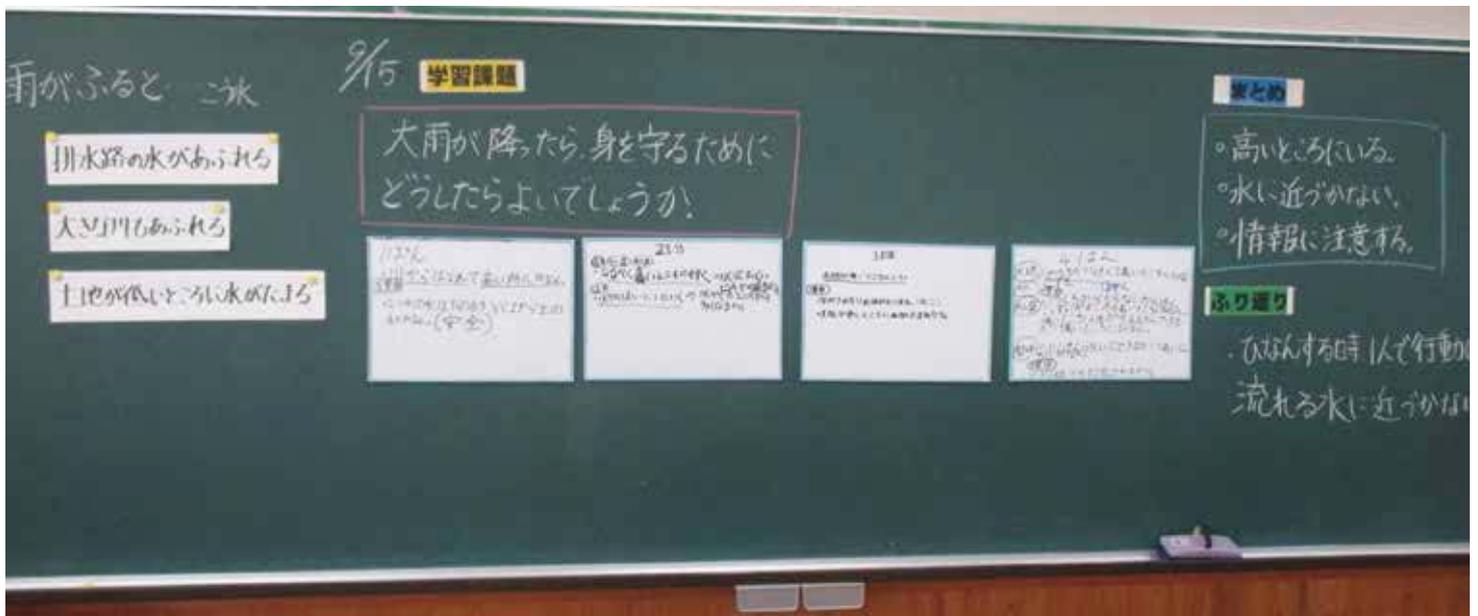
【評価】

- ・降雨量が 30 mm 以上になる時期を理解することができたか。
- ・浸水する理由を理解することができたか。
- ・浸水する理由をもとに大雨が降ったら、どのように身を守るか考えることができたか。

【授業実践の様子】



【板書の様子】



7) 新津第一中学校区（秋葉区）

対象校：新津第一中学校・新津第一小学校・新津第三小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

| | 実施日・会場 | 検討内容 |
|-----|---|--|
| 第1回 | 平成28年6月21日 15:30～16:45 会場:新津第一中学校 | 1. 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2. 各校における防災教育の進捗確認 3. 取組についての情報共有 4. その他（次回の日程調整） |
| 第2回 | 平成28年11月8日 15:30～16:45 会場:新津第一中学校 | 1. 各校における防災教育の進捗確認 2. 取組についての情報共有 3. その他（次回の日程調整） |
| 第3回 | 平成29年1月17日 15:30～16:30 会場:新津第一中学校 | 1. 来年度以降、取組を継続していくために（課題抽出と意見交換） |

② 各学校へのサポート事例

| 対象校 | 実施日 | サポート種別 | サポート内容 |
|---------|-----------------|--------|--|
| 新津第一小学校 | 平成28年 5月16日 | 打ち合わせ | 講師謝金の取り扱いについて。コンソーシアムのコーディネーターは対象外であること等を伝えた。 |
| 新津第一小学校 | 平成28年 6月21日 | 講座実施 | 対象は全校児童417名と保護者、地域住民を対象とし、家庭での防災意識を高める目的で講座を実施。東日本大震災時の家族の事例を挙げ、家庭でおさえておきたいポイント等を盛り込んだ。 |
| 新津第三小学校 | 平成28年 8月1日 | 打ち合わせ | 防災教育の年間計画についての打ち合わせ。コーディネーター派遣の日程調整等を行った。 |
| 新津第三小学校 | 平成28年 11月3日 | 講座実施 | 小学校の文化祭にあわせ、非常食と紙食器の作り方を学ぶ講座を実施。その他、小学校で防災コーナーを設け、以下の内容を実施した。 ・4年生の防災教室の写真掲示 ・新津の各種ハザードマップの掲示 ・防災用品・非常食の展示や紹介 |
| 新津第三小学校 | 平成28年 11月18日 | 講座実施 | 5年1,2組児童と保護者を対象に「家庭において災害にどう備えるか」をテーマに、非常用持ち出し品を考えるワークショップ形式の講座を実施した。 |
| 新津第三小学校 | 平成29年 1月19日 | 講座実施 | 5年3,4組児童と保護者を対象に「家庭において災害にどう備えるか」をテーマに、非常用持ち出し品を考えるワークショップ形式の講座を実施した。 |

【6/21 新津第一小学校 防災講座】



【11/8 第2回中学校区ミーティング】



【11/8 第2回中学校区ミーティング】



【11/18 新津第三小学校 防災講座】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

本事業では各校の地域性を考慮し、学校・地域・家庭の連携した防災教育の進め方や、地域の人材資源や相談窓口について情報共有を進めた。また、家庭の防災意識を高めたいという願いから、保護者が学校に集まる既存行事等を工夫して、防災教育を行った。区が推奨している新潟薬科大学との連携時に防災教育の要素を加えたり、文化祭や学習参観日に保護者とともに学ぶ防災教育に取り組んだりして、地域・家庭を巻き込み、地域ぐるみで防災意識を向上させることに力を注いだ。

また、校区が広く、地域連携が難しい学校は、「コミュニティ協議会経由で学校近隣の自治会長を紹介してもらい、連携することができた。学校近隣の地域の実態や自治会の防災活動についても知ることができた。今後も段階的に連携を深めていきたい。」といった、連携の糸口を見つけたという声を聞くことができた。

継続できる地域・家庭と連携した防災教育のあり方をイメージできており、次年度以降、発展した取組が進められると感じた。

<新津第一中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・南東には、山間丘陵部を抱えており、土砂災害警戒区域の指定を受けている地区がある。信濃川、能代川に挟まれ、河川の増水の際には1m未満の浸水も想定されている。地震の際には液状化の危険度も極めて高い。 ・当校では年に2回、地震と火災を想定して避難訓練を行ってきた。訓練は職員の意識を高め、生徒は真剣に行動していた。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・災害が発生した時には、最小限の被害にとどめられるように願っている。 ・当校が立地する町内会では年に1回、避難訓練を実施し当校を2次避難先として指定している。当校が避難所として開設された時には中学生にもできる援助活動を望んでいる。 |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住む地域風土を理解し、起こりうる災害を想定し、正しい情報の元で判断し、自主的に避難できる生徒。 ・将来、この地を離れたとしても、災害に遭った時には適切な行動を取り、その地域を支えていける生徒。 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（2回）、通報訓練の実施。第2回避難訓練は事前連絡なしで実施。 ・町内会長への地域防災の実態の聞き取りとそれを生かした防災学習。 ・防災集会（2回）の実施。 ・秋葉区総務課より非常食（アルファ化米）の提供を受け、避難所の想定での試食会の実施（1学年）。 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・県の防災教育プログラムを指導の中核とし、確実な指導を図る。 ・避難訓練の事前指導を充実させる。 ・避難所の実態を知り、自分たちにできることを考えさせる。 ・理科等の教科の中でも災害について考えさせる。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校防災計画の見直しと改善を毎年実施する。 いざという時の行動マニュアルについての共通理解を図る。 ・1学年は総合的な学習の時間で「米」を学習テーマとしている。秋葉区総務課と連携し、避難所についての学習の際に非常食を試食する機会を設ける。 ・避難訓練の際には、防災集会を開き、事前指導でねらいと注意点を明確にし、確かな行動が取れるよう指導する。 |

2. 新津第一中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|--|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 第1学年 | 年間を通じて、県の防災教育プログラムにのっとった指導を行う。 | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | <p>避難訓練（地震想定） 防災集会・避難訓練の意義と地震時の逃げ方</p> | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | <p>年間を通じて、県の防災教育プログラムにのっとった指導を行う。</p> <p>避難訓練（火災想定・事前連絡なし） 防災集会・避難訓練の意義と緊急時の逃げ方</p> <p>地域連携防災学習・1学年（避難所について） 一 地震から災害について考える 二 自助、共助、公助とは 共助について、できることを考えよう 三 非常食試食会 ※コミ協、町内会長さんからお話を伺い、共助についてご指導いただきました。</p> <p>防災集会・積雪時の災害について</p> | | | | | | | | | | | |

3.新津第一中学校 防災教育指導例

| | |
|-------------------------------------|--|
| 中学1年生 全4時間 本時は2,3時間目 | (学習のねらい)「避難所で自分たち(中学生)ができることを考える」 ・中学生が可能な共助の活動について知る |
|-------------------------------------|--|

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|-------|--|--|
| 【導入】 | 1. 学習のねらいを伝える ① 阪神・淡路大震災を例に、自助・共助・公助という言葉の意味を知る。災害時にどのような行動を取れば良かったのか、前時のプリントを見て確認する。「 まず、自分で身を守ることを、気を付ける行動をとる必要がある 」ことをおさえる。 ② 学習のねらい「 共助について、避難所での生活から考えてみる こと」をおさえる。 | 【問いかけ】 ・阪神・淡路大震災の時、生き埋めになった人は誰から助けられましたか？ 【想定される答え】 ・自衛隊、消防署員等。 【ポイント】 ○ 自助、共助、公助の意味を知る。 まず、自分で助かる。その後、避難した先で互いに助け合うことが大切だ。 ※町内会の共助のシステムについて紹介 |
| 【展開】 | 2. 避難所の生活について考える ① 避難所の写真を見て、「 どんなトラブルが起こりそうか 」考えさせる。 ② ワークシートを使用する。 高齢者、障がいをもつ人、小さな子どもをもつ人等の視点で次のことを考える。 1) 「 困ること、不便を感じる こと」 2) 「 解決方法 」 3) 「 中学生にできることは何だろう 」 3. グループで考えを広める ① 班ごとになって、各自の意見を集約する。 1) 「 自分が気づけなかった、共助を気づこう 」 ② 発表する。 | 新潟県防災教育プログラム【地震災害編】 資料205:「避難所での様子」を使用 【問いかけ】 ・避難先でどのようなトラブルが起こりそうでしょうか？ 【想定される答え】 ・周りの人の声や音がうるさい。 ・落ち着いて眠ることができない。 「地_ワークシート04-2」を使用 【ポイント】 ○ 中学生は避難所において貴重な働き手であり、避難してきた人を支えることができることを知ろう。 |
| 【まとめ】 | 4. 学習してわかったことを確認する ① ワークシートに、「授業の感想」等を書かせて、発表させる。 | 【ポイント】 ○ 「気遣う」「声をかける」「並ぶ」「配る」「運ぶ」「力を貸す」等「 中学生にできること 」を確認する。 ○ 共助とは「 周りを気遣い、できる範囲で人を助ける行動が取れること 」であり、そのために、実際に手や足を使った行動が必要であることを確認する。 |

【評価】

- ・避難所の写真から、避難所の生活の困難さを読み取り、理解したか。
- ・ワークシートを記入しながら、立場が違えば困ることも異なることに気づいたか。
- ・避難する側から、避難してきた人を支える行動があることに気づいたか。
- ・人を支えるには、その人が何を困っているのか気づいて、実際に行動が必要なことを理解したか。

【授業実践の様子】

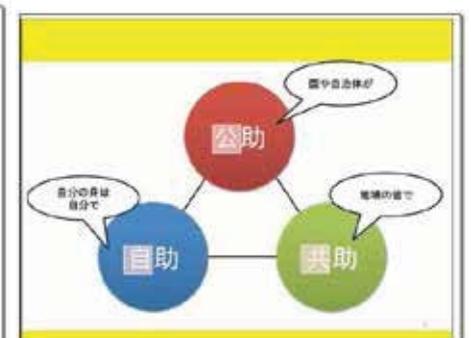
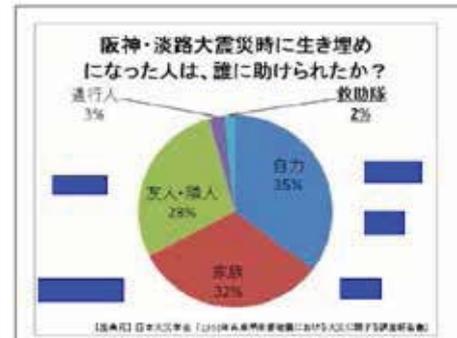
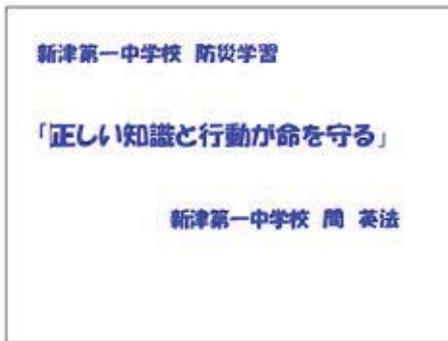
6/6 「防災集会」

9/27 「避難所について考えよう」

11/18 「非常食試食会」



【スライド資料】



<新津第一小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・当校は、海岸線からは離れているが、信濃川と能代川に挟まれた立地であり、河川の増水による水害が最も懸念される地域と言える。 ・雨量が増えると、増水が見られることもあり、近年、学区の住民に避難情報が出されることがあり、学校が避難所として開設されたことがあった。 ・東日本大震災や熊本地震等、身近に教訓となる地震の例もあり、避難訓練時には真剣な取組が見られる。2年前から、地域の方、隣接する幼稚園とも連携しながら避難訓練を実施している。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・年3回の避難訓練と児童引き渡し訓練が、万が一の時にしっかりと機能するように毎年検討し、改善を図っていく。 ・隣接する幼稚園はもちろんのこと、地域住民とともに避難訓練を実施することで切実感をもったものにする。 |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の住む地域の様子や危険性について知り、安全な行動に必要な知識を身に付け、主体的に判断しながら「自分の命は自分で守る」ことができる子ども。 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・通報訓練，避難訓練の実施（全校児童） ・避難訓練時，児童引き渡し訓練時の講話（全校児童，幼稚園児，一部地域住民，保護者） ・リトルファイヤースクール（4年） ・一小祭（文化祭・ウェルカム参観日）での「わくわくサイエンス」実施 ※防災に関連した実験（濾過実験）を地域の薬科大学と連携して実施。新潟市防災マスコットキャラクター“ジージョ”“キョージョ”も参加した。 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校における防災だけでなく、各家庭・地域での防災意識を高めることを根底に据えた防災教育プログラムを実施していく。 ・避難訓練の際に体験談を聞き、その後、県の防災教育プログラムの活用を図ったり、体験談を基にした授業を行ったりする。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、学校の避難訓練に地域住民への参加をお願いし、地域と一体となって防災への意識を高めていく。 ・学習参観等保護者が来校する際に併せて防災意識を高めるような講話や防災グッズの紹介等を行う。 |

2. 新津第一小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|--------------------|-------------------------|--------------------------|---|--|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 第1学年 | 通報訓練・第一回避難訓練（火災想定） | 第二回避難訓練（地震想定）・地域の方による講話 | 児童引き渡し訓練・コンソーシアム担当者による講話 | <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> 県防災教育プログラムに基づいた防災教育（各学級での授業） </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 第三回避難訓練（不審者想定） </div> | | | | | | | |
| 第2学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第4学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第5学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第6学年 | | | | | | | | | | | | |

3.新津第一小学校 防災教育指導例

小学校高学年

※地一選択一6対応

(学習のねらい)「改めて考えよう!地震の時の自分の行動」

- ・地震が起きた時の生活インフラ(電気,水道等)の被害を知る。
- ・地震時の生活インフラ被害にはどのようなものがあるかを知り,その際の行動を考える。

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|------|--|---|
| 【導入】 | <p>1 地震による生活インフラへの影響を考える</p> <p>T「今年も大きな地震がありました。」 ・熊本地震だ</p> <p>T「新潟でも過去に大きな地震がありました。」 ・新潟地震・中越地震・中越沖地震</p> <p>T「いつ大きな地震があるのか分かりません。地震について改めて考えてみましょう。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○ 地震になった時の生活への影響はどのようなことがあるか?</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・食料→道路が止まって食料が届かない ・水→水道が止まって水が飲めない,使えない ・電気→電線が切れて,電気が使えない ・ガス→ガス管が壊れて火事等が起きる | <ul style="list-style-type: none"> ・導入で地震の画像を提示し,興味関心を促す。 ・HPより「熊本地震」画像 ・新潟県防災教育プログラム【地震災害編】地震資料215~266より選択 |
| 【展開】 | <p>2 生活インフラがストップした際,自分はどの行動したらいいかを考える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎ 地震で電気や水等が使えなくなったら,どうすればよいか。</p> </div> <p>T「電気,水道,ガスにプラスして電話・インターネットが止まったら普段の生活とどう違うのかを班の人とまず話し合みましょう。」</p> <p>電気</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜は真っ暗で活動できない。 ・電化製品が使えない →調理ができない →テレビが使えず情報が得られない ・信号がつかない →事故が起きる <p>水道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道が使えない →トイレが使えない →食器が洗えない →水が飲めない →風呂に入れない <p>電話・インターネット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡が取れない ・状況が分からない ・調べ物ができない ・遠くの人と連絡がとれない ・情報が得られない | <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県防災教育プログラム【地震災害編】児童生徒用ワークシートより「地一ワークシートD」を利用 ・グループごとに話し合うことで,全員がプリントに確実に書けるようにする。 ・まず「普段の生活と比べてできなくなることをグループごとに話し合い,クラスに発表し,クラスで共有する。 ・共有したことを受けて「どんな工夫や対応が必要だろうか」について再びグループで話し合い,クラスで発表,共有する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>できなくなることを受けて, グループで話し合ったこと</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【工夫や対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯,ソーラーパネル ・あまり活動をしな ・外に出ない </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>できなくなることを受けて, グループで話し合ったこと</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【工夫や対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水を保存しておく ・ろ過して水を作る </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>できなくなることを受けて, グループで話し合ったこと</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【工夫や対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞で情報を得る ・ラジオから情報を得る ・近くの人と情報交換する ・メディアを使わず自分で確認 ・手紙や本を使う </div> </div> |

| | | |
|------|--|--|
| 【事例】 | <p>T「地震で電気や水等が使えなくなったとき大切なことは何ですか。」</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>【まとめ】 地震が起きる前から準備をしたり、あまり活動範囲を広げず、エネルギーの節約に努めたりすればよい。</p> </div> | |
| 【事例】 | <p>①地震が起きた時、生活に必要なもので、どんなものが使えなくなるのかが分かる。 ②災害に見舞われた際に、様々な生活に必要なものが使えなくなることが分かり、その際にどうしたらよいか。また、そのためにどういった準備が必要かを考えられる。</p> | |

【A 児の振り返り】

地震が起きた時に電気が止まったり、水が使えなくなったり、ガスやインターネットが使えなくなったら私はその場で判断して、どうすべきかを考えて行動したいです。懐中電灯がない時はそのままじっとしている等、しっかり判断したいです。

【B 児の振り返り】

私は災害が起こったときのために普段から準備をした方がよいと思いました。なぜかという、地震等はいつ起こるかが分からないからです。起こったときのために普段から水をためておいたり、地震のことについて考えていたりした方があせらなくていいと思いました。

【C 児の振り返り】

自分ができることは、あらかじめ準備することだけだと思いました。でも、5班の人の意見等友達の意見を聞いてみて、避難所から外に出ないということやむやみに活動しないということも大切なことと思いました。そして、あらかじめ準備もしたいです。

【授業実践の様子】



<新津第三小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・新津第三小学校は新津駅西側に位置する。信濃川，阿賀野川，小阿賀野川，能代川に囲まれた地域であり，河川の増水やゲリラ豪雨による水害が最も懸念される地域と言える。過去にも大雨による冠水被害が報告されている。 ・長岡平野西縁断層帯及び新津断層による震度6強の地震が予見される地域となっているが，その発生の確率は極めて低い。 ・学区の2/3は新興住宅街で，児童のほとんどがこの地域に居住している。比較的古くからある地域では，祭や地域行事等も行われコミ協等も組織されているが，新しい地域には地域を代表するような組織は十分に組織されているとは言い難い。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・居住する地域の危険の可能性や避難の方法等について正しく知りたい(保護者・地域)。 ・子どもたちに，災害が発生した際に安全に身を守る行動・避難の仕方や手順，日ごろからそれにそなえる方法を学ばせたい(保護者・教職員)。 ・災害が起こった際に地域が協力して対応できる組織が作られ，安心して居住できる地域となって欲しい(地域・保護者)。 |
| <p>防災教育において，目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・災害が起こった際に自分で自分の命を守る行動を身に付けた子ども。 ・自分の住む地域に起こりうる災害，危険な箇所，避難する場所や方法等について正しく理解し行動できる子ども。 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練，放送の聞き取り訓練，身を守る行動をとる訓練(全校児童・幼稚園児) ・非常時の引き渡し訓練(全校児童) ・参観日の親子防災教室(4学年・5学年) ・リトルファイヤースクール(4学年) ・文化祭での防災ブース設営，親子防災教室 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学区の地域全体の防災体制ができるまでには時間が必要となるため，保護者の啓発に重点を置き，地域の人が参加する行事等でも広く啓発を行う。 ・学校における避難訓練では防災教育プログラムにより児童の発達段階に応じた指導を充実させていく。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・4学年を対象とした親子防災教室を参観日に実施することを定例化し，全児童及びその保護者が卒業までに1回以上の防災教室を体験できるようにする。 ・文化祭に防災に関するブースを設けたり防災教室を実施したりすることを継続する。 |

2. 新津第三小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
|------|--|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|--|
| 第1学年 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">第一回 避難訓練（火災）</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">親子防災教室</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">児童引き渡し訓練</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">県防災教育プログラムに基づいた指導</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">第二回 避難訓練（地震）</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">第三回 避難訓練（火災・休憩時間）</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">親子防災教室</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">親子防災教室</div> | | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | | | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | | | | | | | | | | | | | |
| 第4学年 | | | | | | | | | | | | | |
| 第5学年 | | | | | | | | | | | | | |
| 第6学年 | | | | | | | | | | | | | |

3.新津第三小学校 防災教育指導例

小学校高学年
※地一選択一6

(学習のねらい)

- 地震によってどんなことが起きて、ライフラインが断たれた時の生活について考える。
- 持ち出し品のリストから家庭で必要となるものについて話し合う。

| | 学習内容（展開例） | 資料や学習のポイント等 |
|---------|--|--|
| 【導入10分】 | <p>1. 地震による被害とライフラインを考える</p> <p>・熊本地震、中越地震等の被害の状況を写真で紹介する。</p>  | <p>・災害が起こるといつもの生活ができなくなることにつながるように写真を選択する。</p> <p>【資料】熊本地震写真（直後） 熊本地震写真（3か月後） 中越地震写真</p> |
| 【展開30分】 | <p>2. ライフラインが止まった時の困りごとを考え、グループで共有する。</p> <p>①個人ワーク...困りごとシートに記入 ②グループ内で発表・共有 ③全体で共有（何人か指名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暖房がとまってしまう。 ・明かりがなく真っ暗。 ・温かい食事が作れない。 ・風呂に入れない。 等 <p>3. 「非常用持ち出し品」のリストから、自分の家で必要な物を考える</p> <p>①個人ワーク... 5個選択 ②グループワーク...個々の物を持ち寄り、10個を選択 ③全体で共有（数グループ発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水を選んだ。水がないと生きていけないから。 ・非常食を選んだ。食べないわけにいかない。 ・懐中電灯。暗いと危険だから。 ・携帯ラジオ。情報が欲しいから。 等 | <p>・「1月の休日の夕方」という設定にして、どんなことに困るのかを考えさせる。</p> <p>・理由をつけて考えさせる。</p> <p>・参観に来ている保護者には、ここから参加してもらい、選ぶ際の判断等の補助をしてもらう。</p> <p>【資料】防災グッズチェックリスト</p> |
| 【まとめ5分】 | <p>4. 学習をふり返りおうちの人に伝えることをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このチェックリストで、もう一度家族で話し合おう。 ・家にはどんなものが備えられているか確認しよう。等 | |
| 【評価】 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時にライフラインが止まると、具体的に「こういうことが困る」と考えることができたか。 ・どのような物が備えてあれば安心なのかを考えることができたか。 | |

8) 白南中学校区（南区）

対象校：白南中学校・新飯田小学校・庄瀬小学校・茨曾根小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

| | 実施日・会場 | 検討内容 |
|-----|--|---|
| 第1回 | 平成28年6月21日 16:00～17:00 会場：白南中学校 | 1. 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2. 各校の防災教育，区総務課及び公民館の関連事業について (情報共有・意見交換) 3. 今後の中学校区ミーティングのあり方について（意見交換） 4. その他（次回の日程調整等） |
| 第2回 | 平成28年11月18日 16:00～17:00 会場：白南中学校 | 1. 第1回ミーティングの振り返り・確認 2. 各校における防災教育の進捗及び予算活用状況について (情報共有) 3. その他（次回の日程調整等） |
| 第3回 | 平成29年1月26日 16:00～16:45 会場：白南中学校 | 1. 第2回ミーティングの振り返り・確認 2. 次年度以降，取組を継続していくために（課題抽出・意見交換） |

② 各学校等へのサポート事例

| 対象校 | 実施日 | サポート種別 | サポート内容 |
|------------------------------------|-----------------|----------------|--|
| 白南中学校 新飯田小学校 庄瀬小学校 茨曾根小学校 | 平成28年 6月22日 | 資料提供 | ・自然災害及び避難所に関する資料データを提供した。 ・夏休み期間の訪問日程について調整を行った。（希望制） |
| 新飯田小学校 | 平成28年 7月20日 | 講座実施 | ・「地震災害から自分の命を守る方法を考える」をねらいに，全校児童対象（縦割り班）での防災講座を実施した。 |
| 新飯田小学校 | 平成28年 8月1日 | 打ち合わせ・コーディネーター | ・外部講師や防災士を活用した体験型防災学習内容について助言と提案を行った。 ・洪水災害に関する語り部をコーディネートした。 |
| 新飯田小学校 | 平成28年 9月8日 | 打ち合わせ | ・南区の防災士と10/3，26，31に実施する低・中・高学年別の体験型防災学習の打ち合わせと事前レクチャーを行った。 |
| 白南中学校 | 平成28年 9月20日 | 打ち合わせ・コーディネーター | ・11月に実施予定の中越地震関連施設訪問を活用した学習内容についての助言と提案を行った。 ・訪問予定施設とのコーディネートを行った。 |
| 新飯田小学校 | 平成28年 10月3日 | 講座実施 | ・「身近なもので防災グッズが作れることを知る」をねらいに，以下の活動を低学年対象に防災士と実施した。 ○新聞紙スリッパ ○紙食器づくり |
| 新飯田小学校 | 平成28年 10月26日 | 講座実施 | ・「身近なもので防災グッズが作れることを知る」「災害時の避難所で，自分たちにできることを考える」をね |

| | | | |
|--------|----------------------|--------|--|
| | | | <p>らいに、高学年対象に防災講座を防災士と実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛布たんかづくりと搬送体験 ○段ボールベッドの組み立て体験 ○熊本地震の避難所で活躍していた小学生について |
| 新飯田小学校 | 平成 28 年 10 月 31 日 | 講座実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・「身近なもので防災グッズが作れることを知る」「災害時の避難所で、自分たちにできることを考える」をねらいに、中学年対象に防災講座を防災士と実施した。 ○毛布たんかづくりと搬送体験 ○段ボールベッドの組み立て体験 ○熊本地震の避難所で活躍していた小学生について |
| 茨曾根小学校 | 平成 28 年 11 月 9 日 | 打ち合わせ | <ul style="list-style-type: none"> ・11/15 に実施するウェルカム参観日での公開防災学習内容について打ち合わせを行い、助言と提案を行った。 |
| 新飯田小学校 | 平成 28 年 11 月 10 日 | 講座サポート | <ul style="list-style-type: none"> ・「洪水災害について知る」をねらいに、平成 16 年 7. 13 水害の体験談を語り部からお話しいただいた。 |
| 茨曾根小学校 | 平成 28 年 11 月 15 日 | 講座実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・「熊本地震の避難所の様子から、自分たちにできることを考える」「地震の被害を知り、危険を回避する対処行動を考える」をねらいにウェルカム参観日での公開授業にて、中学年・高学年を対象に防災講座を実施した。 |

【7/20 新飯田小学校 全校防災講座】



【11/10 新飯田小学校 全校防災講座】



【11/15 茨曾根小学校 ウェルカム参観日】



【11/15 茨曾根小学校 ウェルカム参観日】



【11/15 茨曾根小学校 ウェルカム参観日】



【11/8 白南中学校 災害関連施設の訪問】



【11/11 白南中学校 全校防災学習】



【 11/18 第2回防災教育ミーティング】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

白南中学校区では、学校・地域・家庭が連携した活動に関する情報共有、外部講師の紹介、防災関連施設を活用した学習の進め方について検討した。また、今年度は、防災教育を次年度以降も継続した取組にしていくための試験的実践期間であることを明確にし、地域の防災士、消防署、自治会、区総務課、外部講師と連携した活動の実践と情報共有を進めた。その過程で、「学区全地域との連携は難しいため、学校近隣の自治会との連携を進める。」「地域の防災訓練を検討する場に参加した。」「防災士に、防災技能に関する体験型の講座を依頼した。」「参観日に防災教育を行い、授業の振り返り時間に、家族と話し合わせる機会を加える。」等、緩やかに地域・家庭との連携を進めている声が聞かれた。

学校・地域・家庭共通の課題である防災を、学校だけで取り組むのではなく、様々な人を巻き込み、地域ぐるみで防災意識を高めていくことが、地域に根差した防災教育の継続につながることを確認する機会となった。

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒の125名の小規模校である。 ・学校は、信濃川と中ノロ川に囲まれた輪中地域にあり、2つの川は天井川のため、洪水が起きた場合、浸水が長期化する恐れがある。 ・地盤が軟弱なため、地震が起きた場合は液状化現象や建物の倒壊等の恐れがある。 ・柏崎原子力発電所から直線で50km圏内にあるため、原子力災害が発生した場合は、屋内待避計画地域である。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・当校の保護者・高校生は、学区外への通勤・通学者が多い。輪中地域であり、低地の学区であるため、災害が発生した場合は、保護者や高校生が帰宅困難になる可能性が高い。そこで、平日に発災した場合、地域にいる中学生が地域防災の大きな担い手となる。そのため、中学生には、各地域の防災訓練に参加し、防災に関する知識を身につけてほしいという地域の願いがある。 |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・防災への取組や発災後の対応、避難所運営等地域を支える一員として中学生ができることに取り組むための視点や意欲・態度を育成する。 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・<過去に学ぶ> 中越地震、三条水害で、住民の避難に関して、陣頭指揮をとった元新潟県警機動隊長の話聞いた。 ・<現地に学ぶ> 4人1組を基本とする学年混合の班を30班編成し、小千谷、山古志、川口、三条に同じグループの班員がそれぞれ異なる施設を見学したり、話を聞いたりした。その後グループ内で情報交換を行った。 ・<自分たちにできることを考える> 区役所総務課、日本赤十字社、自衛隊、消防署、自治会会長会の方々から、それぞれの立場での防災、減災、救助、救護活動の取組と活動の限界の話を聞き、自分たちにできることを防災士のアドバイスを受けながら考えた。 ・<専門家を受け、地域に発信する> 新潟大学災害・復興科学研究所、NPO法人ふるさと未来創造堂の方から今までの学習の振り返りを行い、自分たちでできることや地域への提言内容を練り上げた。 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区内の地域と連携し、学校・地域合同防災訓練を毎年実施する。 ・避難所や家庭で他の人に役立つために、救命講習やサバイバル講習等を実施する。 |
| <p>を継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の地域のねらいと学校のねらいの情報交換を行い、地域住民にとっては防災訓練に参加したくなるような内容、生徒にとっては自己有用感が高まる防災訓練を実施する。 |

2. 白南中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|--------------|----|-------------------------------------|----|----|----|-----|------------------------|-----|----|----|----|
| 第1学年 | 避難訓練 (火災) | | 全市一斉避難訓練 防災教育プログラム (地震・雪災害) | | | | | 地域合同防災訓練 救命・サバイバル講習 | | | | |
| 第2学年 | 避難訓練 (火災) | | 全市一斉避難訓練 防災教育プログラム (洪水・土砂災害) | | | | | 地域合同防災訓練 救命・サバイバル講習 | | | | |
| 第3学年 | 避難訓練 (火災) | | 全市一斉避難訓練 防災教育プログラム (津波・原子力災害) | | | | | 地域合同防災訓練 救命・サバイバル講習 | | | | |

3.白南中学校 防災教育指導例

全校生徒
(5時間)

(学習のねらい) 地域の防災リーダーとして、自分たちでできることに取り組む意欲や態度を身に付ける。

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|--------|---|--|
| 【導入】 | 1. 過去に学ぶ 中越地震や三条の水害の様子を知る。 (元新潟県警機動隊長の講演) | 【問いかけの例】 ・中越地震でライフラインや道路、通信手段が途絶えている中、当時の村長はなぜ被害の状況を把握できたのだろうか。 【ポイント】 ○若い人を中心として村民が自分たちで考え行動した。 |
| 【展開】 | 2. 現地に学ぶ ①発災前のそなえ(おちや震災ミュージアムそなえ館) ②避難所生活の実際(やまこし復興交流館おらたる) ③復興過程で生まれた絆(川口きずな館) ④水害における防災(三条市水防学習館) 3. 専門家に学ぶ ①南区役所総務課安心安全係 (防災への取組, 災害対策本部) ②日本赤十字社新潟県支部(災害救護活動) ③自衛隊新潟地方協力本部(災害派遣活動) ④新潟市南消防署(救助活動) ⑤3地区自治会会長会会長(避難訓練, 復興) 4. 自分たちでできることを考える 自分たちでできることや, 地域へ発信したい内容を各班ごとに考え, まとめる。 | 【ポイント】 ○グループを学年混合の班にし, 班員がそれぞれ異なる施設や立場について学習し, 班内で情報交換を行う。 ○発災前の取組や発災後の活動について専門家から話を聞き, 各機関の活動の限界を知る。 ○防災士のアドバイスをもとに, 抽象的な内容から具体的な内容にしていく。 |
| 【おひらき】 | 5. 提言内容を練り上げる 新潟大学災害・復興科学研究所やNPO法人ふるさと未来創造堂の方からそれまでの学習の振り返りの講演をいただき, 最終的に自分たちでできることや提言内容, 地域への発信方法を決める。 | ○学区内全家庭に発信する。 |
| 【評価】 | <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学習活動で, 新たな発見や感じたことをワークシートに書くことができたか。 ・発災前や発災後の取組に自分たちでできる具体的な活動をワークシートに書くことができたか。 ・地域が抱える課題を克服するための具体的な提言を適切な方法で発信することができたか。 | |

【授業実践の様子】

<過去に学ぶ>



<現地に学ぶ>①



おぢや震災ミュージアムそなえ館

<現地に学ぶ>②



やまこし復興交流館おらたる

<現地に学ぶ>③



川口きずな館

<現地に学ぶ>④



三条市水防学習館

<専門家に学ぶ>



<情報交換しよう>



<自分たちでできることを考えよう>



<地域の方に提言しよう>



<新飯田小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・全校児童93名の小規模校である。子どもたちは、明るく素直である。 ・学校は、信濃川とその支流の中ノロ川に囲まれた旧白根市の南端に位置している。昔から農業地域であるが、特に梨や葡萄は全国的にも有数の産地である。 ・信濃川下流の洪水及び鷲ノ木大通川・西大通川流域の洪水によって、地域の広い範囲で浸水の可能性がある。災害の中でも水害に注意が必要な地域である。また、地区の広い範囲に軟らかい地盤が分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性がある。津波の浸水は想定されていない。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <p>新飯田地区では、毎年自主防災訓練を行っている。希望する地域の方や保護者、中学生、小学生が参加している。今年度は400名以上の参加があった。しかし、保護者によって防災への意識には差がある。全校で「防災教室」を実施したり、学年部で「防災講座」を実施したりして、家庭でも日頃から防災について話し合う場を広げ、自然災害に対する心構えや防災への関心を高めていきたい。</p> |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <p>自分たちの住む地域で地震等が起きたときに備え、安全に避難する方法を学校及び家庭と連携して身につけるとともに、地域の防災訓練等に積極的に参加しようとする児童。</p> |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地震や洪水を想定した避難訓練に合わせて、新潟県防災教育プログラムを活用した授業を行う。 ・外部講師を招いて、縦割り班ごとにグループになって学ぶ「防災教室」を行い、防災への関心を高めたり、自分にできることを考えたりする。（7月） ・学年部ごとに防災士を招いて、体験的な活動を通して学ぶ「防災講座」を行い、防災グッズを作ったり、お話を聞いたりする。（9月～10月） ・外部講師を招いて、避難訓練の後、地震についてのお話を聞く。（11月） |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施に合わせて、想定した災害に関する防災学習（新潟県防災教育プログラム）を各学年で行う。 ・フリー参観で防災に関する授業を公開し、子どもや保護者の防災に対する意識を高める。 ・避難訓練後の引き渡し訓練ができるように準備していく。 ・地域子ども会で地域ごとの防災マップ作りに取り組む。 ・来年度以降は、地区の自主防災訓練とどの程度連携が図れるか検討していく。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師や活動内容について、防災教育コンソーシアムや南区役所総務課安心安全係と連携し、取り組んでいく。 ・今ある教育活動に、防災教育の視点を絡めた取組や実践をしていく。 ・反省や見直しを行い、次年度に引き継いでいく。 |

2. 新飯田小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 第1学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第4学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第5学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第6学年 | | | | | | | | | | | | |

3.新飯田小学校 防災教育指導例

| | |
|-----------------------|---|
| 全校児童 (45分) | (学習のねらい)「地震から自分の命を守る方法を考える」 ・身近な場所の写真を使い、クイズ形式で地震発生時の危険を予測する視点を育む ・様々な場所での自分の命の守り方を考え、防災の意識を高める |
|-----------------------|---|

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|-------|--|---|
| 【導入】 | 1. ゲーム形式で災害から自分の身を守る対処行動を体験し、学習のねらいを伝える ① カードゲーム「防災ダック」で、災害から自分の身を守る対処行動を体験させる。 ② 地震は「いつ・どこで・どのくらいの強さの地震が起こるのか、だれにもわからないこと」を伝え、本時のねらい「地震から自分の命を守る方法を考える」をおさえる。 | ※縦割り班によるグループを想定。 【資料】カードゲーム「防災ダック」 【資料】地震の被害に関する写真等 ワークシート①, ② (印刷して、事前に配布) |
| 【展開】 | 2. クイズ形式で地震から自分の命を守る方法を考える ① 学校内の写真やイラスト資料等を見せて、クイズ形式で以下の場所にいるときに大きなゆれの地震が起きたら「どのような危険があるのか」「どのように行動して自分の身を守るのか」をグループで考えさせて発表させる。 1) 理科室または家庭科室 2) 図書室 3) 音楽室 ② 地震の起こったときに自分の命を守る方法として、ゆれがおさまるまで「3つのない場所でしゃがんで頭を守ること」をおさえる。 ③ 自宅の中や学校の通学路等にも地震が起こると様々な危険があることに気づかせ、今日帰ったら家族と相談することを伝える。 | 【資料】学校内の写真と地震発生時の被害写真 【資料】ワークシート①(A3サイズ) ※校内の写真が掲載されている資料にグループで危険箇所を書き込ませる。グループで1枚を予定 【ポイント】 ○子どもの身近な場所の写真を使用し、地震による被害写真と比較させることで、地震が発生した時の危険を予測する視点を育む。 ※「3つのない場所」とは・・・ 「もの」が、落ちない・倒れない・動かない場所 【子どもの思考】 ・家の中は危険だらけだ。 ・帰り道で地震が起きたらどうしよう。 ・家族で話し合って、何か方法を考えなきゃ・・・。 |
| 【まとめ】 | 3. 学習してわかったことを確認する ① ワークシート②に、わかったことや感想等を書かせて、発表させる。 | 【資料】ワークシート② |
| 【評価】 | ・自然災害から自分の身を守る基本的な対処行動について、理解が深まったか。(全学年) ・地震発生時には、3つのない場所(落ちてこない・倒れてこない・動いてこない)でしゃがんで頭を守ることを理解することができたか。(全学年) ・地震発生時に起こる被害について理解し、身近な場所の写真から危険を予測することができたか。(全学年) ・地震発生時の危険や対処行動、避難場所について家族と話し合うことができたか。(全学年) ・学んだことを生かして、自宅の中や通学路等で地震発生時の危険を予測することができたか。(全学年) ・家族と話し合い、事前に来る被害の軽減方法を考えることができたか。(中・高学年のみ) | |

【授業実践の様子】



【授業後の児童の反応】（ワークシートより抜粋）

- ・ものがおちない、たおれない、うごかないばしょで、じぶんのいのちのまもりかたがわかりました。（1年生）
- ・万が一のときのため、ぼうさいくんれんに行き、ぼうさいグッズやひなん場所をかくにんしておきたいです。（3年生）
- ・地しんが起きたときの身の守り方を楽しく覚えられました。学校の中にもきけんな場所がたくさんあったので、これからも気をつけたいです。（5年生）
- ・地しんは予測できないから、ふだんから自分を守る「3つのない場所」をチェックしておこうと思いました。もし、地しんが起きたら、今回学んだことやひなん訓練を生かしたいです。（6年生）

<茨曾根小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <p>校区の西側には中ノロ川が流れ、校区は水田や用排水路に囲まれていることから、水害が想定される地域である。2011年7月の豪雨では、中ノロ川の水位が上昇し、避難指示が出されたが、避難場所に避難した家庭は多くはなかった。同年3月に発生した東日本大震災からも5年を経ていることから、大半の児童が災害に対する危機意識を強く持っていると言いがたい。</p> |
| <p>護者・地域・教職員等の願い</p> | <p>茨曾根地区は、毎年、自主防災訓練が実施されているが、学校として恒常的には参加していない。しかし、3年前、当校が市のトライアル事業として防災教育の指定を受けたときに、地域の防災訓練に参加した。また、今年度、ウェルカム参観日として地域・家庭にも協力を求めて「1日防災の日」を実施し、初めて児童の引き渡し訓練を実施した。今まで単発的な活動が多かったので、今後は、継続的に地域・家庭と協力して防災教育を進めていくことが必要である。</p> |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・災害により引き起こされる危険について関心をもち、自ら危険を回避する方法を理解する。 ・災害発生後、家族や友達、周囲の人々と協力して危険を回避したり、避難生活を送ったりすることができる。 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェルカム参観日として「避難場所で児童でもできること」をテーマに「1日防災の日」を実施した。防災学習の授業公開、地震発生時の避難訓練、児童による非常食作りやテント設営、保護者への児童の引き渡しを行った。 ・外部講師を招いた活動として、中越地震を経験した方の話を聞き、自分たちでできることについて考えた。今後は、防災士を招いて、避難場所で使う簡易ベッド作りやスリッパ作り等を学年部単位で実施する予定である。 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ol style="list-style-type: none"> ① 県の防災教育プログラムを活用し、年間計画に従って全学年が6項目を学ぶ。その際、避難訓練と関連させられる内容については、避難訓練と同日に行う。(地震、雪害) ② 11月の学習参観では、学習終了に合わせ、避難訓練を実施し、その後、児童の引き渡し訓練を行う。 ③ 高学年のPTA学年行事では、可能な範囲で、非常食作りやテント設営の活動をその中に入れてもらえるように呼びかける。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招聘する場合は、防災教育コンソーシアムや南区役所安心安全係と連携しながら進めていく。 ・防災教育の学習がマンネリにならないように、上記団体に問い合わせ、新しい資料の収集に努める。 |

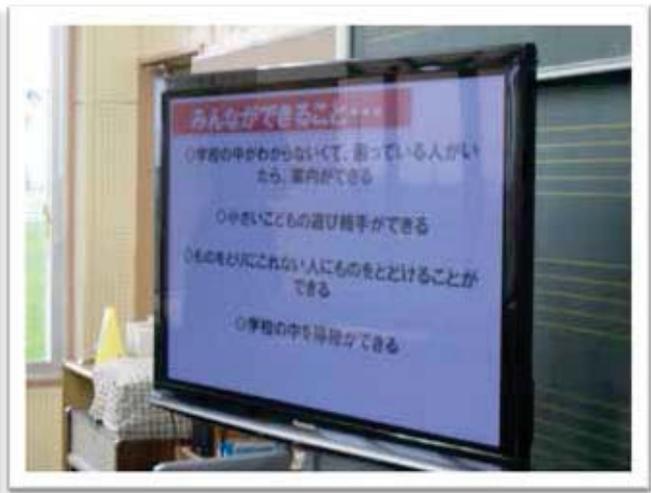
3.茨曾根小学校 防災教育指導例

| 小学校高学年 地震 (1時間) | | (学習のねらい) 地震から身を守るためにどんな行動を取ればよいか、また、学校が避難所になったとき、自分たちでもできることは何かについて考え、理解する。 |
|-----------------------|---|---|
| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
| 【導入】 | 1. 地震の被害写真を見て話し合い、本時のねらいについて知る。 ①「地震の被害写真を見てどんなことを感じたか。」 ② 本時に学習すること <ul style="list-style-type: none"> ・地震から身を守るために大切なこと ・学校が避難所になったとき、自分たちにもできること | 【資料】 ・ガラス器具が散乱した理科室 ・本棚が倒れた図書室(熊本地震の写真より) 【児童の反応】 ・こわい。 ・ガラスでけがをする。 ・物の下敷きになると大けがをする。 |
| 【展開】 | 2. 地震から身を守るために大切なことについて知る。 ①「今年起きた熊本地震と同じ規模の地震が、もし新潟で起きたら、茨曾根小の校舎で危険な場所はどこか。その場所はなぜ危険なのか。」 ② 地震から身を守るために大切なことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・物が落ちてこない場所 ・物が倒れてこない場所 ・物が移動してこない場所 に近づかない。 | 【資料】 ・校舎内で危険そうな場所の写真(たくさん用意) ・ワークシート① 【児童の反応】 ・理科室・ガラス器具が多い。 ・図書室・重い棚がたくさんあり、本が多い。 ・ガラス窓の近く・ガラスが割れたら危険。 ・体育館・バスケットボール下は落ちてきたら危険。 ※子どもたちが②で発表した内容を元にまとめる。 ※時間があれば、該当する場所で危険が想定される場所を確認する。 |
| 【まとめ】 | 3. 大きな地震が起き、避難所となった学校に大勢の人が避難した場合、自分たちにもできることは何か考える。 ① 避難所に大勢の人が避難している写真を見て話し合う。 ② 「大きな地震が起き茨曾根小も避難所になることが考えられる。もし、お年寄りがあなたに、『避難する途中で足をけがした。』とうったえたらどうするか。」 ③ 「学校をよく知るあなたたちは、他にどんなことができるだろうか。」 | 【写真】 ・避難所の写真(大勢の人が避難) ・ワークシート② 【児童の反応】 ・きゅうくつそうだ。 ・冬だと寒い。 ・食べ物はどうしているのか。 ・寝られない。 ・保健室に連れて行く。 ・大人を呼ぶ。 ・気持ちが暗くならないように励ます。 ・掃除。 ・食事の配付 ・学校の中を案内。 ・小さな子の遊び相手。 |
| 【まとめ】 | 4. 学習してわかったことをふりかえらせる。 ○ ワークシートに、「授業の感想」を書かせて、発表させる。 | 【資料】 ・ワークシート③ ※児童の感想は下記参照 |

【画】

- ・地震が起きたとき、自分の身を守るためにどんな行動を取ればよいかを理解することができたか。
- ・学校が避難所になったとき、普段生活している利点を生かし、自分でもできることについて考え、理解することができたか。

【授業実践の様子】



【児童の感想】

- ・熊本地震は予想以上にすごい被害で、ひなん所では小学生でもやれることがたくさんあることが分かった。ひなん所では、仕事をやりながら新しい仕事も考えたいと思った。
- ・地震では、たくさんの人がこまっていることが分かった。もし、自分が災害にあったら、まず自分の命を守り、その後で自分ができることをやり、みんなで助け合って過ごしたい。
- ・自分のことだけでなく、お年寄りや小さい赤ちゃんを育てている大人のこと考えながら行動しなければいけないと分かった。
- ・災害が起きたときに、自分がどのように動いたらいいのかを改めて考えることができたので、もしものときに生かしたい。日頃から他の人とコミュニケーションを取ったり、自ら行動したりすることを心がけたい。

<庄瀬小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <p>学校は、南区の南側，豊かな田園地帯に位置し，信濃川に面している。川には3mの土手があり，さらには学校までは広く田畑が広がっている。これらのことから，洪水時浸水の可能性は低いとされているが日頃の備えは欠かせない。</p> <p>保護者・地域は，学校に関心があり協力的である。学校・地域合同の防災訓練では，事前の打ち合わせを綿密に行い，学校の要望に臨機応変に対応してくれている。</p> |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <p>地域の自主防災会と学校とが連携し，地域ぐるみで防災意識の高揚を図っている。学校・地域合同防災訓練を毎年行っている。合同で行うことにより，参加者は600名を超え，保護者や地域，教職員にとって有意義な訓練となっている。</p> |
| <p>防災教育において，目指す児童生徒像</p> | <p><低学年> ○安全な行動の大切さが分かり，安全のためのきまりや約束を守ることや身の回りの危険に気づくことができる。○危険な状態を見付けた場合や災害時には，近くの大人に速やかに連絡し，指示に従う等の適切な行動ができる。</p> <p><中学年> ○災害に関する様々な危険の原因や事故の防止について理解し，危険に気づき，自ら安全な行動をとることができる。</p> <p><高学年> ○中学年までに学習した内容を一層深め，様々な場面で発生する危険を予知し安全な行動ができる。○自分の安全だけでなく，家族等の身近な人々の安全にも気配りできる。○簡単な応急手当ができる。</p> |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <p>○火災発生時の避難訓練 ○不審者対応の避難訓練 ○全学級での防災学習</p> <p>○学校・地域合同防災訓練（10月2日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域からの避難（グラウンド→屋上） ・防災講話（講師：地域住民の元消防士） ・防災体験（起震車，防災グッズ作成，AED，土のう作り，炊き出し） ・児童引き渡し |
| <p>自校プランの内容</p> | <p>地域の自主防災会やコミュニティ協議会と連携し，学校・地域合同防災訓練を毎年実施する。内容を充実させ，実効力のある訓練となるように改善していく。また，校内での訓練では，外部指導者を有効に活用していく。</p> |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <p>防災訓練の地域のプランと学校の意図をそれぞれ明確にし，連携を密にしている。実施後には，改善点を指摘しあい，次年度に生かすことができるようにしていく。</p> <p>日頃から地域と学校の交流を図り，地域の人材を把握し，適材適所に活用できるように，情報収集していく。</p> |

2. 庄瀬小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|-------------------|-------------------|----------------|----|----|---------------|-------------------|--------------------|--------------|----|------------|----|
| 第1学年 | 地震災害・津波災害学級活動（全校） | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | | 地震・火災発生時の避難訓練（全校） | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | | | 全市一斉地震対応訓練（全校） | | | | | | | | | |
| 第4学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第5学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第6学年 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 不審者対応避難訓練（全校） | 洪水災害・土砂災害学級活動（全校） | 学校・地域合同防災訓練（全校・地域） | 緊急地震速報訓練（全校） | | 雪害学級活動（全校） | |

3.庄瀬小学校 防災教育指導例

| | |
|-----------------------|--|
| 全校児童 (3時間) | (学習のねらい) 災害が発生した時に家庭から学校までの避難の方法を確認したり、防災活動を体験したりすることを通して、地域の人たちと助け合い、自分たちの安全は自分たちで守るという防災意識を高める。 |
|-----------------------|--|

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|--------------|---|--|
| 【導入】 | 1. 避難訓練をする。 災害発生のため地域ごとに学校へ避難する。(グループ)【1次避難】 地域ごとの避難完了確認後、学年ごとに招集する。 学年の人数の確認後、児童は屋上へ避難する。【2次避難】 | 【ポイント】 ○ 地域のリーダーの指示に従うことやお年寄りや体の不自由な人を助けようとするを事前に指導しておく。 ○ 移動は整然と「お・か・し・も」の大原則をしっかり守らせる。 |
| 【展開】 | 2. 防災講話を聴く。 屋上から、ランチルームに移動する。 防災講話を聴く。 講師：地域住民元消防士 内容：災害時に留意すること | 【ポイント】 ○ 講師には、具体的な例示や行動を示して話をしてもらうように依頼しておく。 |
| | 3. 防災体験をする。 1～4年は、地域住民とともに、次の4つを順番に体験する。 ①起震車 ②AED体験と心肺蘇生法 ③土のう作り ④防災グッズ作成 5・6年は、炊き出しの手伝いを体験する。 給水体験は、それぞれの体験と並行して行う。 | 【準備】 ○ 起震車の確保 ○ AED ○ 土のう袋 ○ 防災グッズ作成道具 ○ 炊き出しにかかわる道具 【ポイント】 ○ 自主防災会の役員の方から、それぞれの体験ができるように役員等に協力を依頼しておく。 |
| | 4. 学習してわかったこと等を確認する ワークシートに、「授業の感想」等を書かせて、発表させる等して学年内で共有する。 | 【ポイント】 ○ それぞれの訓練や体験毎に感想を書かせる。発表し合い、考えを共有させる。 |
| 【まとめ】 | 5. 児童引き渡し訓練をする。 保護者へ児童を引き渡す。 引き渡しカードで、一人一人確認する。 | 【ポイント】 ○ 事前に各家庭への引き渡しカードの配付と引き渡し名簿を作成し、確実に迎えの人に引き渡す。 |
| 【評価】 | ・地域の皆さんと協力し、助け合いながら学校まで避難することができたか。 ・各防災体験に積極的に活動することができたか。 ・防災訓練を通して、防災に対する関心を高め、自分がすべきことを自覚することができたか。 | |

【授業実践の様子】



9) 臼井中学校区（南区）

対象校：臼井中学校・臼井小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

| | 実施日・会場 | 検討内容 |
|-----|---------------------------------------|---|
| 第1回 | 平成28年6月13日 17:00～18:15 会場：臼井中学校 | 1. 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2. 各校の防災教育，区総務課及び公民館の関連事業について (情報共有・意見交換) 3. 今後の中学校区ミーティングのあり方について（意見交換） 4. その他（次回の日程調整等） |
| 第2回 | 平成28年8月24日 17:00～18:15 会場：臼井中学校 | 1. 第1回ミーティングの振り返り・確認 2. 専門的知識を持つ外部講師について（情報提供） 3. 小・中合同避難訓練について（意見交換・役割分担） 4. その他（次回の日程調整等） |
| 第3回 | 平成28年9月16日 17:30～18:30 会場：臼井中学校 | 1. 第2回ミーティングの振り返り・確認 2. 小・中合同訓練時の縦割り学習内容について（意見交換・確認） 3. その他（次回の日程調整等） |
| 第4回 | 平成28年11月7日 17:00～18:00 会場：臼井中学校 | 1. 10/14（金）保・中学校合同避難訓練及び11/6（日）臼井地区防災訓練について（情報共有） 2. 10/13（木）小・中合同訓練の振り返り 3. 次年度以降，取組を継続していくために（課題抽出・意見交換） |

② 各学校へのサポート事例

| 対象校 | 実施日 | サポート種別 | サポート内容 |
|----------------|-----------------|--------|--|
| 臼井中学校 | 平成28年 6月13日 | 打ち合わせ | ・学校で活用できる防災教育教材に関する助言と提案を行った。 |
| 臼井小学校 臼井中学校 | 平成28年 8月24日 | 資料提供 | ・合同避難訓練時の活動として参考になる活動案等の資料を提供した。 |
| 臼井中学校 | 平成28年 9月27日 | 講座実施 | ・「保育園児に災害時の対処行動をわかりやすく伝える」「地域ぐるみで防災意識を高める」をねらいに，第3学年を対象に防災カードゲームを活用したコミュニケーションスキルを高める講座を実施した。 |
| 臼井小学校 臼井中学校 | 平成28年 10月13日 | 講座実施 | ・小・中合同避難訓練にて，「地震から自分の身を守る『3つのない場所（落ちない・倒れない・動かない）』を知る」「学校を探検し，危険箇所と安全な場所を調べる」をねらいに，小・中学生混合の縦割り班で以下の講座を実施した。 ○学校探検をして調べたことをプリントにまとめる ○その場所にいるときどどのように行動して自分の身を守るかを考える |
| 臼井中学校 | 平成28年 10月14日 | 見学 | ・保育園・中学校の合同避難訓練に参加し，活動の様子を見学した。 |

【9/27 臼井中学校 第3学年防災講座】



【10/14 臼井保育園・中学校 合同防災訓練】



【10/13 臼井小・中学校 合同防災訓練】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

臼井中学校区では小・中合同防災訓練を計画しており、地震・洪水災害を題材に、小・中学校が連携した教育活動について検討した。避難訓練終了後、小・中学生混合の縦割り班で「臼井小学校内の危険箇所調べ」を実施した。危険回避能力の育成の他、中学生は「小学生の活動を支え、地域のリーダーとしての自覚を高める」、小学生は「中学生の姿から、自分の将来像を思い描く」こともねらいに位置付けた。

振り返りでは、「学校探検で気づいた危険箇所をグループで話し合う過程で、自分の家の状況と比較し、『学校も家も一緒だから注意しようね。』と発言していた子どもの姿に感動した。」「地域の役に立つ小学生と中学生の姿がより明確になった。」等の声を聞くことができた。また、保育園や地域の防災訓練にも積極的に参加し、地域とのつながりをさらに深めた。

「合同訓練を継続するのであれば、毎年テーマを変えて実施できると教育効果が高まる。」「地震・洪水・火災・災害時の避難所等についても学べるとよい。」といった意見もあり、今後も小・中学校が連携した防災教育を継続していく予定である。

<臼井中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> 信濃川沿いにあり、平成23年7月の新潟・福島豪雨で、近くの旧臼井橋の河川敷部が水没し、一時通行止めとなった。（平成27年10月、新臼井橋が完成し、信濃川の水位が上昇しても通行可能な橋になり、災害時の緊急輸送路として重要な役目を担っている。）地震や火災のほか、洪水に対する警戒と備えが必要な地域である。 3世代同居の家庭が多く、体育祭や文化祭等の学校行事に、保護者の他、祖父母が来校する姿が多く見られる。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> 住民の、地域子どもたちをみんなで見守り育てていこうとする意識が高い。また、周辺の介護施設や保育園から、中学生が災害時の避難補助者として期待されている。 教職員としては、生徒に「自分の命は自分で守る」という主体的な態度を身に付けてほしいと願っている。 |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> 災害による被害を少なくするため、自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合う「共助」を心がける生徒。 地域の施設との連携を通じて、自己有用感・自己肯定感を実感できる生徒。 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> 洪水を想定した避難訓練を実施する。中学生が臼井小学校(臼井中学校区でもっとも高い建物)へ避難した後、NPO法人ふるさと未来創造堂を講師に、小学生（4～6年）と一緒にグループワークを行った。 外部講師を招き、臼井保育園との合同避難訓練・防災学習に備え、3年生が「防災ダック」の使い方の指導を受けた。 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> 6月の地震を想定した避難訓練で、隣接するデイサービスセンター・うすいの車いす入所者の避難補助を行う(3年生)。また、訓練当日に向け、デイサービスセンター・うすいの職員を講師として全校生徒を対象に車いす講習を実施する。（平成26年度から行っている。） 生徒が、近隣の保育園の園児の避難補助にあたり、園児へ防災教育を行ったりする。 地域の防災訓練に参加(希望者)し、避難所開設・運営のしかた等について、地域の方と一っしょに学ぶ機会を持つ。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> 6月の地震を想定した避難訓練については、デイサービスセンター・うすいとの連携が3年目となり、来年以降も継続して実施する予定である。 秋の保育園との合同避難訓練・防災学習については、今年度初めての試みであったが、地域教育コーディネーターとも連携して継続可能な形を作った。 |

2. 臼井中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----|-------------------|--------------------|-------------------------|----|----|------------------------|---------------------------|-----|----|----|----|
| 第1学年 | | 防災教室（地震に関するDVD視聴） | 車いす講習（6月の避難訓練に向けて） | 地震・火災を想定した避難訓練（介護施設と連携） | | | 地震・洪水を想定した避難訓練（保育園と連携） | 地震・洪水を想定した小学校への避難訓練及び防災教室 | | | | |
| 第2学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | | | | | | | | | | | | |

3. 臼井中学校 防災教育指導例

中学生全員
小学生4～6年

(学習のねらい) 「地震に伴う水害発生時について、小学生と一緒に活動することを通して、避難先や避難方法、避難所での過ごし方等を理解することができる。」

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|-------|---|---|
| 【導入】 | <p>1. 地震・洪水を想定した避難訓練を実施する。</p> <p>① 想定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新潟地方を中心とするマグニチュード7クラスの地震が発生し、南区も震度6強の揺れに見舞われる。「信濃川堤防決壊の危険性がある」との情報が入り、高い建物への避難を急がなければならぬ状況である。</p> </div> <p>② 「地震」発生・訓練開始</p> <p>1) その場で身の安全を図る。 2) 2階・ホールへ避難する。→点呼</p> | <p>・事前に「シェイクアウト」訓練を実施する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 教室等において、机等が近くにある場合 →机の下に入って安全確保</p> <p>② 机等が近くでない場合 →倒れる可能性のあるものから離れ、低い体勢をとり、手で頭を覆って安全確保</p> </div> <p>・昼休み終了から、5時間目開始までの5分の間に実施する。(生徒が、様々な場所にいる時)</p> <p>・状況を説明し、臼井小学校への避難を指示する。</p> |
| 【展開】 | <p>2. 臼井小学校へ避難する。</p> <p>① 3年→1年→2年の順に避難する。 ② 臼井小到着 (3階5年生教室前オープンスペースへ) →点呼 ③ 防災学習のため、体育館へ移動する。</p> <p>3. 小・中合同防災学習を実施する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>活動テーマ: 「臼井小学校の危険箇所を調べて、自分の命を守ろう！」 講師: NPO法人ふるさと未来創造堂</p> </div> <p>① スライドを見ながら、地震のときは「3つのない場所(ものが落ちない・倒れない・動かない)」で自分の命を守ることを理解する。 ② 小・中合同の防災学習を実施する。 1) 臼井小学校の危険箇所を調べる。 2) その場所にいるときに地震が起きたら、どのようにして自分の命を守るのかを話し合う。 3) 異なる場所を調べてきた班同士で、それぞれが調べてきた場所の危険箇所と、その場所での身の守り方について発表し合う。</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【注意事項】</p> <p>① 原則、一列右側通行 ② 私語なく、真剣に行動する</p> </div> <p>・事前に「防災特別委員(3年生の希望者4名)」が考えたルートで、防災特別委員を先頭に避難する。</p> <p>・小学校の「たけのこ班(縦割り班)」と、中学校の「清掃班(縦割り班)」を基に、小中合同班を16班編制する。(防災特別委員)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【グループワークの内容】</p> <p>① 調べる場所を予め各班2か所指定しておき、「グループ活動用ワークシート」に次の内容について話し合い、書き込む。 1) 地震が起きたら、どこが危ないか 2) そのとき、どのようにして自分の身を守るか</p> </div> <p>・発表は、各班、中学生のリーダー1名と、小学生のリーダー1名が発表する。 (中学生には、リーダー任せにせず、進んで活動することや、小学生のリーダーの発表をフォローするよう事前に指導)</p> |
| 【まとめ】 | <p>4. 学習してわかったことを確認する</p> <p>① 日ごろから、自分の家の中や地域の危険箇所等を点検して、身を守る方法を考えること。 ② 地震や洪水災害時の行動について、日ごろから家族と話し合い、避難場所等を決めておくこと。</p> | <p>・翌日に行われる、「臼井保育園との合同避難訓練・防災学習」と合わせ、活動の振り返りをする。</p> |

<臼井小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <p>統合後22年目の学校で、信濃川の西側に沿うように、南北約5kmに校区が広がっている。堤防から約0.2kmの場所に校舎がある。臼井小学校は校区における最も高い建物として、水害が発生した場合は校区住民の避難場所になる。</p> <p>児童の通学は徒歩に加え、バス・自転車（4～6年生）がある。通学路は狭い道路が多く、災害時の通行に困難をきたす可能性がある。</p> |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <p>信濃川より低地に校地・校区がある状況から、保護者・地域住民・教職員は、そのことを児童に教え、災害時に適切な避難行動が取れるように教えていく必要があると考えている。水害や地震による堤防決壊で発生する洪水に対する訓練が必要と考え、地域でも南区と連携した防災訓練を実施している。</p> <p>生徒・児童（特に中学校の生徒）には災害時に立場の弱い保育園児や老人介護施設利用者・地域のお年寄りの援助を期待されており、地域の防災訓練への参加を切望している。</p> |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○災害発生時に、知識や情報を生かし、より安全な方法を考えて避難することができる児童 ○日常に潜む危険を予測し、その危険を回避することができる児童 ○地域の安全・危険箇所に関心を持ち、災害時に適切な避難ができる児童 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○5・6年生の水害教室 ○小・中合同避難訓練と防災教室 ○防災DVDの購入と活用 |
| <p>自校プランの内容</p> | <p>◎小中合同での防災教室を、秋に実施する。「地震発生 → 信濃川の堤防決壊の危険発生 → 中学生が小学校に避難」を想定した。その後、4～6年生児童と中学校生徒で防災教室を行う。内容は、地震発生時の危険についてのワークショップ等3種類をローテーションで行い、6年の間に3つの内容について2回ずつ学ぶことができるようにする。</p> |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <p>NPO法人 ふるさと未来創造堂や南区役所と連携し、最新の情報を交換しながら取り組んでいく。防災教育プログラムを活用した授業を定期的に行うように学校安全計画に位置付けており、その確実な実施に向け担当が確認を行う。中学校との合同訓練を継続させるために、教育計画の見直しを図る。</p> |

2. 臼井小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|--|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 第1学年 | 第1回避難訓練（学習中 地震→火災発生 of 想定） | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | 防災教育プログラム活用授業 | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | 第2回避難訓練（全市一斉訓練とリンク 昼休み 地震 of 想定） | | | | | | | | | | | |
| 第4学年 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">6/17</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; color: white; background-color: red; margin-left: 10px;">「保護者引き渡し訓練」 of 同日実施</div> | | | | | | | | | | | |
| 第5学年 | 小中合同避難訓練・防災教室（小4年～中3 堤防決壊 of 危険想定） | | | | | | | | | | | |
| 第6学年 | <div style="background-color: yellow; padding: 5px;">第3回避難訓練（不審者対応 6学年 of 模擬訓練→各学級での訓練）</div> | | | | | | | | | | | |
| | 防災教育プログラム活用授業 | | | | | | | | | | | |

3.臼井小学校 防災教育指導例

小学校低学年

※地一必須一応用

(学習のねらい)「学校にいる時間に発生した地震で起こる危険について知る」

・3つの「ない場所」で自分の命を守る

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|-------|---|--|
| 【導入】 | <p>1. 過去に発生した地震の画像を見て、建物への影響を確認する。</p> <p>① 地震の強い揺れにより生ずる、</p> <p>①上から物が落ちてくる</p> <p>②棚や柱・壁等が倒れてくる</p> <p>③置いてある物が動く</p> <p>という3つの事態を確認する。</p> <p>② 学習のねらい「地震から自分の命を守ろう」のための学習課題「<u>学校中にはどのような危険が隠れているだろうか?</u>」を確認する。</p> | <p>【問いかけの例】</p> <p>・強い地震が発生すると、建物はどうなるでしょうか?</p> <p>【想定される答え】</p> <p>・倒れる ・崩れる</p> <p>【ポイント】</p> <p>○ 地震発生 → ①落ちる ②倒れる ③動く</p> |
| 【展開】 | <p>2. 校舎内の具体的な危険について知る。</p> <p>・『割れたガラス』や『棚の中の物』『棚の上にあるもの』が<u>落ちてくる</u>ことを知る。</p> <p>・『棚』が<u>倒れてくる</u>ことを知る。</p> <p>・『重たい物』でも<u>動いてくる</u>ことを知る。</p> <p>3. 校内の各教室を周り、落ちる物、倒れる物、動く物を確認する。</p> <p>(ワークシートから)</p> <p>①普通教室…窓ガラスが割れて落ちてくる、蛍光灯が落ちてくる、棚が倒れてくる、テレビが動く → 机の下に入る</p> <p>②音楽室…窓ガラスが割れて落ちてくる、スピーカーが落ちてくる、ピアノが動いてくる → 教室の真ん中でしゃがみ頭を守る</p> <p>③図書室…本棚から本が落ちてくる、本棚が倒れてくる → 机の下に入る、図書室から出る</p> | <p>【問いかけの例】</p> <p>・私たちが校舎内にいる時に地震が発生したらどんなことが起こるでしょう?</p> <p>【想定される答え】</p> <p>・ガラスが割れる ・壁にひびが入る</p> <p>【ポイント】</p> <p>○ 落ちる、倒れる、動く → 「落ちない」「倒れない」「動かない」場所に避難することが大事である。</p> <p>小4から中3までの児童・生徒約10人のグループを作り、校舎内を周る(1グループ2カ所を調べる)。その教室にいる際に地震が発生したら、</p> <p>(1) どこが危険なのか?</p> <p>(2) どのようにして自分の身を守るのか?</p> <p>の2点について意見を出し合い確認する。</p> |
| 【まとめ】 | <p>4. 学習してわかったことを確認する</p> <p>① 2グループで調べてきたことを共有する。</p> <p>② ワークシートに、「授業の感想」等を書く。</p> | <p>【ポイント】</p> <p>○ 他のグループが調べてきたことを共有することにより、様々な危険と身の守り方を確認する</p> <p>○ 「<u>日頃から訓練等を通じて、避難方法を確認しておく</u>」ことを確認する</p> |
| 【評価】 | <p>・地震発生時の校舎内(教室)における危険な場所と、身の守り方を理解することができたか。</p> | |

【授業実践の様子】



学校たんけんをします！

1 たてわりはんで活動します。

- ①プリントの教室を調べます。
- ②各はんで調べる教室は2つ



2 調べて考えたことをプリントに書きます。

- ①地しんが起きたら、
“どこ”がどのように
あぶないのか？

- ②その場所にいるときに
地しんが起きたら、“どこ”
で“どのように”して自分の身を守るのか？

| | | |
|---------------|--|--|
| 地震から自分の命を守ろう！ | | 1 班 |
| 調べる場所く家庭科室> |  | 1. 地震が起きたら、どこが危ない？ |
| | | 2. そのとき、どのようにして自分の身を守る？ ①呼ばれているときは？ |
| | | ②呼ばれなかったら、放送などの指示に従って行動する。 |

臼井中学校区【南区】

10) 坂井輪中学校区（西区）

対象校：坂井輪中学校・新通小学校・坂井東小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

| | 実施日・会場 | 検討内容 |
|-----|--|--|
| 第1回 | 平成28年6月10日 15:30～16:30 会場：坂井輪中学校 | 1. 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2. 各校における防災教育の進捗確認・情報共有 3. その他（次回の日程調整等） |
| 第2回 | 平成28年9月21日 16:30～17:45 会場：坂井輪中学校 | 1. 各校における防災教育の進捗確認・情報共有 2. その他（次回の日程調整等） |
| 第3回 | 平成29年2月21日 15:30～16:30 会場：坂井輪中学校 | 1. 学校実践の振り返り 2. 次年度以降の自校化に向けて 3. その他（防災教育に関する意見交換等） |

② 各学校へのサポート事例

| 対象校 | 実施日 | サポート種別 | サポート内容 |
|--------|-----------------|--------|--|
| 坂井輪中学校 | 平成28年 7月14日 | 打ち合わせ | 7月22日開催の3年生対象防災講座について。校区のコミュニティ協議会の方・防災士の方も打ち合わせから参加し、当日も見学で参加。 |
| 坂井輪中学校 | 平成28年 7月22日 | 講座実施 | 避難所における中学生の役割について災害時、実際に起こりうる食料とトイレの課題についてクロスロード+グループワークを実施。地域のコミ協・防災士の参観。 |
| 坂井輪中学校 | 平成28年 10月24日 | 電話サポート | 全校生徒を対象とした火災訓練後の防災学習について学習内容を相談。 |
| 新通小学校 | 平成28年 11月7日 | 打ち合わせ | 12月～1月に行う授業についての進捗状況を確認。 |
| 坂井東小学校 | 平成28年 11月15日 | 打ち合わせ | 地域教育コーディネーターと進捗状況について確認。 |
| 坂井輪中学校 | 平成28年 11月17日 | 打ち合わせ | 11月21日に実施する防災学習について語り部と学習内容の打ち合わせを実施。 |
| 坂井輪中学校 | 平成28年 11月21日 | 講座実施 | 防災について自分事として捉えられるよう、避難訓練実施後に「水害からの身の守り方を学ぼう」というテーマでワークショップ形式の講座を実施。 |

【6/10 第1回坂井輪中学校区ミーティング】



【7/22 坂井輪中学校3年生防災講座】



【11/21 坂井輪中学校全校防災講座】



【7/22 坂井輪中学校3年生防災講座】



【7/22 坂井輪中学校3年生防災講座】



【11/21 坂井輪中学校全校防災講座】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

坂井輪中学校区は大規模校2校を含む学校区である。そのため全校一斉での体験活動等は実施が難しく、自校化の観点からも当初から学年単位での取組が検討された。

一方で、3年前から全学年の希望者を対象に防災キャンプに取り組んでいる学校からは、①自治会の方と避難経路を通り、危険箇所の確認をしながら会場へ集合②プレジュニアレスキュー訓練③静かに遊ぶ練習④伝言ゲーム⑤クロスロードゲーム等、グループ単位で実施すれば大規模校でも応用できるプログラムが紹介され、他の学校でも参考にしてもらいたいと感じた。

また、地域として洪水災害の被災経験があり、今後も被災する可能性のある学校では、防災教育プログラムを活用した授業のほかに、平成10年の8.4水害の様子を地域住民から被害写真をもとに体験談を聞く活動を行った。地域住民から当時の体験談を聞くことで、身近に災害を感じることができたことや、防災教育プログラムで学んだことと自分の生活を照らし合わせることができ、より実践的な学びにつながったのではないかと感じる。この取組は地域教育コーディネーターが地域と学校を繋いだことでできた学習であった。

<坂井輪中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市西部，海岸から約2km，海拔0m地帯の砂丘の中腹に位置している。また人口約16万人の西区の中心に位置しており，人口密集地域でもある。 ・学区内に西川が流れており，過去に集中豪雨により周辺道路の冠水や家屋の浸水があった。 ・学区内に急傾斜地が数カ所あり，土砂災害の危険性がある。 ・中学校区まちづくり協議会（まち協）や青少年育成協議会（育成協）等を中心に地域住民の自主的・自治的な活動が盛んで，地域防災に関しての意識も高い。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の構成員として，日常及び災害時に中学生として何ができるか，何をすべきかを学ばせ，実践できる生徒を育成していきたい。 ・地域の行事に積極的に参加し，自分たちの生活する地域の活性化に貢献してほしい。 ・洪水災害の危険性が高いため，洪水災害時の対応を避難訓練や防災教育に取り入れてほしい。 |
| <p>防災教育において，目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命を尊重し，地域との交流を通して，自助・共助の力と心を身につけた生徒 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「防災教育プログラム」に基づく防災（地震）授業 ・避難訓練（6月）・・・地震を想定した避難訓練 ・坂井輪ジュニアレスキュー育成講座（希望者）・・・「まち協」主催 ・中学生と考える防災教室（希望者）・・・「育成協」主催 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地震，洪水，雪害，避難所運営を中心に，県防災教育プログラムの必須学習項目を3年間の在学中に学べるよう防災教育年間指導計画に取り入れる。 ・新潟NPO協会や区役所等の外部機関と連携をとりながら講演会やワークショップ等を行う。 ・学区内の小学校と連携し，小中合同の防災教育に関する活動を行う。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自治会，まち協，育成協等との連絡会議を設け，地域との連携を密にする。 ・学校防災計画に防災教育プログラムを明確に位置づける。 ・教育活動に無理がないよう既存の事業（各教科，学活，総合等）に防災教育を取り入れていく。 |

2. 坂井輪中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----|----|----------------|----------------------------|-----------------------------|------------------|-------------------------|-------------------|-----|------------------------|----|----|
| 第1学年 | | | 避難訓練（地震） 防災士派遣 | 防災教育プログラムを活用した授業（地震・洪水災害編） | 防災講演会（避難所生活 中学生が体験しよう） 講師派遣 | 学区内 小・中合同避難所体験学習 | | | | 防災教育プログラムを活用した授業（雪災害編） | | |
| 第2学年 | | | | | | | 防災教育プログラムを活用した授業（土砂災害編） | 避難訓練（火災） 防災士・講師派遣 | | | | |
| 第3学年 | | | | | | | | | | | | |

3.坂井輪中学校 防災教育指導例

| | |
|----------------------|--|
| <p>中学3年生 2時間</p> | <p>(学習のねらい) ・避難所の生活の様子を知るとともに、避難所における中学生としての役割や行動について考え、避難所運営計画を立てることができる。</p> |
|----------------------|--|

| | 学習内容（展開例） | 資料や学習のポイント等 |
|-------------|---|--|
| 【導入】 5分 | <p>1 避難所について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所について知っていることをワークシートに記入し、発表する。 ・避難所の役割や避難所での様子を資料や教師の説明で確認する。 ・本時のねらいである、避難所の役割や坂井輪中が避難所になった際に、自分たちは何ができるかを考えることを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○写真を提示し、避難生活の様子を伝える。 ○坂井輪中学校も避難場所に指定されていることを伝える。 ○避難所の様子を資料を提示し、具体的に考えさせる。 |
| 【展開】 40分 | <p>1 避難所に必要な機能や役割、施設の利用について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>避難所で配慮しなければならないことは何だと思えますか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・個人でワークシートに考えたことを記入し、グループで話し合う。 ・グループで優先順を決め、発表する。 <p>2 避難所に必要な機能や空間、適した場所や利用できる学校内の施設について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えたことをワークシートに記入し、発表する。 <p>3 チーム坂井輪の避難所運営計画を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートをもとに、グループで話し合いながら校舎図に必要事項を記入する。 ・グループで作成した避難所運営計画を発表する。 <p>4 避難所運営計画をもとに自分は何ができるか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>坂井輪中学校が避難所となり、大勢の人が避難されてきました。避難所計画をもとに、自分は何ができるのかを考えてみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分ができることを考え、ワークシートに記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○配慮事項を考えさせる際に以下のポイントをおさえさせる。 ◇避難所は乳幼児から高齢者、外国人も利用すること ◇大勢の人が利用し混雑すること ◇避難生活が長期化し、宿泊や食事や水、毛布等の用意が必要なこと ○いろいろな配慮事項や利用の仕方があることを発表させ、確認し合う。 ○避難所の様子、支援物資、仕分けの様子等の写真資料を提示しながら、坂井輪中の校舎図に具体的に書き込ませる。 ○それぞれの発表を聞き、自分は何ができるかを具体的に考えさせる。 |
| 【まとめ】 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を振り返り、感想を記入する。 ・本時の活動を踏まえて、防災講演会の内容を連絡し、次時につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○「坂井輪中も災害時には避難所となること」を確認する。 ○「中学生として避難所でできることがあること」を確認する。 |
| 【評価】 | <ul style="list-style-type: none"> ・避難所での様子を知り、避難所運営計画を立て、坂井輪中学生として何ができるかを考えることができる。 | |

【授業実践の様子】

◇6月20日(月) 『第1回 避難訓練』

地域の防災士の方に避難訓練の様子を参観していただき、その後講話をいただきました。



◇7月22日(金) 『防災講話』(避難所生活について2時間目)

中越防災安全推進機構の方から「避難所生活における中学生の役割」をテーマに講演をいただきました。3年生は事前に避難所生活についての学習(P128の指導案)を受けた後の活動であり、より考えを深めることができました。



◇11月21日(月) 『第2回 避難訓練』

避難訓練後、坂井輪地区育成協、地域コーディネーター、新潟NPO協会の方から「8.4水害」の際の坂井輪地区の被害状況について生徒に語って頂き、災害時の対応について考えることができました。



<新通小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <p>この地域は、校区全体がほぼ海拔1m未満であり、大雨の際は冠水等による被害が予想される。実際、1998年8月には、集中豪雨により西川が氾濫し、学校脇の大堀幹線が1m近く冠水する等の被害を受けた。それゆえ、地域住民の水害に対する防災意識は高い。今後は、児童の防災意識をさらに高めていくために、地域住民の話を聞いたり、地域との合同訓練を行ったりする活動について、具体的な方策を考えていく必要がある。</p> |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <p>校内の避難訓練は、授業時間や休み時間を想定して行っている。しかし、災害は子どもたちが登下校している時や自分の家にいる時等、学校外で起こる可能性も十分考えられる。災害時、どこにいても自分の身を守れるように、その方法を学ばせていきたい。</p> |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住む地域の様子や災害及び被害について知り、自分の命は自分で守るという姿勢を身に付けている子ども。 ・災害時には自ら危険を察知し、安全を確保するための行動ができる子ども。 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地震や津波を想定した全校避難訓練に合わせて、新潟県防災教育プログラムを活用した学年での授業を行う。 ・避難訓練と合わせ、児童引き渡し訓練を行う（6月） ・年に数回ベル訓練を行い、日常的に緊急放送を聞き取らせたり、適切な行動について考えさせたりする活動を行う。 ・日本赤十字社職員を講師に招き、「親子防災教育」を行う（4年学年行事）。 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地震や津波を想定した避難訓練時に、新通地区の防災の実情について学ぶ場を設けて、児童の防災意識を高める。 ・発達段階に応じた、地震や津波への対応の方法や命の守り方の学習を年間計画に位置付けて推進する。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地震や津波を想定した避難訓練、引き渡し訓練を充実させ、保護者と連携して防災意識を高める学習への取組を強化する。 ・新潟県の防災教育プログラムを活用し、自学級での防災学習実施のための資料整備に努める。 |

2. 新通小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|--|-------------------|------------------|--------------------|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 第1学年 | ベル訓練・避難訓練（火災） | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | 生活 「学校 探検」 | 生活 「安全な 生活」 | 総合 「地域 探検」 | ベル訓練・避難訓練（地震・引き渡し） | | | | | | | | |
| 第3学年 | 県防災教育プログラム 地震津波災害 | | | | | | | | | | | |
| 第4学年 | 県防災教育プログラム 洪水災害 | | | | | | | | | | | |
| 第5学年 | 学活 「親子防災 教室」 | | | | | | | | | | | |
| 第6学年 | 理科 「流れる水の はたらき」 | | | | | | | | | | | |
| | 理科 「大地のつく り」と変化」 | | | | | | | | | | | |
| | ベル訓練・避難訓練（休憩時・火災） | | | | | | | | | | | |
| | 県防災教育プログラム | | | | | | | | | | | |
| | 登下校の危険 な場所 防災士・地域 の方 | | | | | | | | | | | |
| | 県防災教育プログラム 土砂災害 | | | | | | | | | | | |
| | 地域の危険 な場所 防災士・DIG 講師，地域の 方 | | | | | | | | | | | |
| | 県防災教育プログラム 雪災害 | | | | | | | | | | | |

3.新通小学校 防災教育指導例

| 全校児童・4年生 対象 (3時間) | | (学習のねらい) 災害時の避難・下校の仕方や身の守り方を確認したり、災害時に役立つ体験活動を通して、地域の人たちと助け合い、自分たちの安全は自分たちで守るという防災意識を高める。 | |
|-------------------------|--|---|---|
| | | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
| 【導入】 45分 | 1. 避難訓練・児童引き渡し訓練をする。 ・事前指導 ① 避難訓練(地震) ② 児童引き渡し訓練 ・第1回メール配信(地震発生 安全確認) ・第2回メール配信(引渡要請) ・参加保護者へ児童を引き渡す。 ・学年ごとにまとめて下校。 | | 【ポイント】 ○事前に引き渡し票を配付し、記入後のものを回収する。 各教室のファイルに保管。 ○保護者が迎えに来たら引き渡し票のチェック一覧に日付と時刻を記入の上、児童一覧表にもチェックし、児童を保護者に引き渡す。 ○職員は各方面に引率する。級外職員は先に見回りに出掛ける。 |
| 【展開】 45分 | 2. 防災学習をする。(地震災害・津波災害) ○1・2年 ・地震からの身の守り方(学校内)を学ぶ。 ・津波とは何かを知る。 ○3・4年 ・地震からの身の守り方(学校外)を学ぶ。 ・津波からの逃げ方を学ぶ。 ・津波から逃げるための注意点を学ぶ。 ○5・6年 ・揺れがおさまった後の身の守り方を学ぶ。 ・津波への理解を深め、被害の特徴を学ぶ。 ・津波からの逃げ方を考える。 ・新潟県の津波被害の歴史を学ぶ。 | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【資料】新潟県防災教育プログラム 地震災害編 必須一1 津波災害編 必須一1・2 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【資料】新潟県防災教育プログラム 地震災害編 必須一2 津波災害編 必須一3・4 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【資料】新潟県防災教育プログラム 地震災害編 必須一3 津波災害編 必須一5・6 </div> |
| 【まとめ】 45分 | 3. 自分の命・大切な人の命を守る ① 講演・・・日本赤十字社 ・災害が起こった際の仕事内容。 ・これまで体験した被災地の状況。 ② 災害に役立つものづくり ・新聞紙スリッパの作り方 (ガラスの破片等で足を切らないために) ・ストッキングを用いた怪我の手当の仕方 (出血や骨折の際に) | | 【ポイント】 ○地域や保護者の方にも参加を呼びかける。 ○パワーポイントを活用し、映像等を多用し分かりやすいものにする。 ○日ごろからできることを確認する。 ・3日間は自力で生き延びられるような準備をする。 ・何かあったとき、家族との集合場所を決めておく。 ○災害時、どのようなことが想定されるか考えさせる。 【事前準備】 新聞紙・古ストッキング・・・保護者等に呼びかけ、集めておく。 |

【授業実践の様子】



【子どもの感想】

いつ災害が起きるか分かりません。学校で勉強したことを生かして、家でも防災に関係した物を用意したいです。

防災グッズを作ってみて、「身の回りのこんな物が役立つんだな」と思いました。例えば、ストッキングで三角巾が作れたのはすごいなあと思いました。もし津波がきたら、新通小学校の体育館で生活するのなんて私は考えられませんでした。

【スライド資料】



新潟地震対策連絡会提供



【地 資料 286】 学校で地しんがおこったら

地しんがおこったとき、あふないところはどこだろう？



<坂井東小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の立地する海拔高度は0.4mに位置しており，地域では低い土地が多い。また，学区には西川が流れていて，大雨や洪水等による浸水や津波被害が予想される。 ・全校児童420名。登下校でスクールガードリーダーによる見守りがあるためか，自分で安全を確認する意識が低い児童がいる。福島県からの避難児童が10名おり，災害による避難を経験している。 ・地域の方々には学校の教育活動に非常に協力的で，日々の学習をはじめ，一昨年度から始まった防災キャンプ等様々な活動で地域と学校が連携して教育に取り組んでいる。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <p>災害があった際はもちろん，日常的に安全に配慮し，適切な行動ができるよう高い防災意識をもってほしいと考えている。避難訓練や防災キャンプ等を通して，地域と連携しながら身に付けさせていきたい。</p> |
| <p>防災教育において，目指す児童生徒像</p> | <p>自分たちの住む地域で災害があった時，安全に避難できるよう，「自分の身は自分で守る」意識が高い児童。</p> |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <p>【避難訓練（火災・地震・不審者・津波・雪）】年5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県防災教育プログラムを活用した事前授業（地震・津波・雪） <p>【子どもの体験型安全教室】7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本子どもの安全教育総合研究所の教育プログラムを利用し，危機や違和感を察知し，離脱行動をとるための4つのアイテム（風船・ブザー・口のブザー・ノーランドセル）を体験して学ぶ <p>【学校にとまろう！～わくわく防災キャンプ～】8月</p> |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を内容毎に1時間使って実施し，訓練後にクロスロードゲームや不審者に関する映像を見る等して，防災意識を高めた。また，地域の防災士の方をお招きし，災害の体験談や避難する上で大切なことをお話していただいた。 ・「学校にとまろう！～わくわく防災キャンプ～」では，学校の体育館に泊まって避難所ストレッチ体操，水消火器体験，防災工作等，避難所での過ごし方や防災の心得等を体験的に学んだ。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度，新潟県防災教育プログラムを活用して行った事前授業を継続して行い，避難訓練を行う意義，意味を理解させる。 ・「学校にとまろう！～わくわく防災キャンプ～」は地域教育コーディネーターを中心に企画されている。教職員と地域が連携して進めていく。 |

2. 坂井東小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|---|---|---|---|--|--|-----|-----|-----|---|---|----|
| 第1学年 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 第一回避難訓練（火災） </div> | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第4学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第5学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第6学年 | | | | | | | | | | | | |
| | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 第二回避難訓練（地震）に関する事前授業 </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 第二回避難訓練（地震） </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 子どもの体験型安全教室 </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 学校にとまろう！ ～わくわく防災キャンプ～ </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 第三回避難訓練（不審者） </div> | | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 第四回避難訓練（津波）に関する事前授業 </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 第四回避難訓練（津波） </div> | |
| | | | | | | | | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 第五回避難訓練（雪）に関する事前授業 </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 第五回避難訓練（雪） </div> | |

3.坂井東小学校 防災教育指導例

| | |
|-----------------------------------|---|
| 小学校高学年 ※津一必須一6対応 | 学習のねらい ～津波への理解を深め、逃げ方を考える～ ○東日本大震災の経験から津波被害への理解を深める。 ○過去の津波の事例から、津波の高さを実感し、津波からの逃げ方を考える。 |
|-----------------------------------|---|

| | 学習内容（展開例） | 資料や学習のポイント等 |
|-------------|---|---|
| 【導入】 | 1. 津波について学習することを伝える ①津波について知っていることを問いかけ、発表させる。 ②津波はどのような場所、どのような時に起こりやすいかを問いかけ、発表させる。 ③津波について学習することを伝える。 | ■問いかけの例 ・津波について知っていることは何ですか。 ■問いかけの例 ・津波に襲われて大きな被害を受けるのはどのような地域ですか。 ■想定される答え ・海の近く ・自分たちの住んでいる〇〇町 |
| 【展開】 | 2. 津波に対する理解を深める ①津波の発生のメカニズムを動画で知る。 ②最近発生した大きな津波災害を紹介するワークシートを配り、津波の高さを確認する。 ③津波から逃げるには、津波の高さよりも高い場所に逃げる必要があることを理解させる。 ④東日本大震災の津波の映像を見せて、津波と通常の波との違いについて問いかける。 3. 津波表示板について教える ①津波表示板を見せて、次のような点について考えさせ、発表させる。 1) 津波表示板を見たことがあるか。 2) 津波表示板が伝えようとしていることは何か。 3) 津波が発生した時、津波表示板がどのように役立つか。 4) 坂井東小学校の海拔高度を知っているか。 4. 津波からの逃げ方を考えさせる ※海から遠い学校の場合 ①旅行やレジャーで海の近くにいる時、津波が発生しそうな状況になった場合、どのような場所を目指して逃げるかをワークシートに記入させ、発表させる。できるだけ具体的な場所を想定させる。 (例) ・海からできるだけ離れる ・高い建物の屋上に避難する 等 | ■問いかけの例 ・東日本大震災では津波で大きな被害が発生しましたが、津波の高さは最大でどのくらいだったと思いますか。 ◆ワークシート 07 ※東日本大震災や日本海中部地震、スマトラ沖地震等、大きな津波の高さを記載。  ◆資 100：東日本大震災津波の脅威（映像）  ◆資 315：津波表示板の画像  <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> 村上市 </div> <div style="text-align: center;"> 上越市 </div> </div> <指導ポイント> ○津波表示板（津波浸水表示板，海拔表示板ともいう）を、逃げる時の参考にすること。 ○自校の海拔高度を提示し、低い所であることから、逃げる必要性を感じさせる。 ○新潟県でも、日本海側の地域に設置されており、海の近くに行った時に見かけたら注意すること。 ○津波表示板がある地域は、津波が発生する可能性が高い地域であること、見かけたら注意をすること。 |

| | | |
|------|---|---|
| 【めい】 | <p>5. 津波についてわかったことを確認する</p> <p>①津波から命を守るには「高い場所に逃げる」ことが重要であることを確認する。</p> <p>②本時のふり返りをする。</p> | <p><指導ポイント></p> <p>○周りに津波を経験した人がいたら、その時の話を聞いてみることに。</p> |
| 【こく】 | <p>・東日本大震災の経験から津波被害への理解を深めることができる。</p> <p>・過去の津波の事例から、津波の高さを実感し、津波からの逃げ方を考えることができる。</p> | |

【授業実践の様子】



【板書計画】

<津波について知っていること>

- ・地震があると起きる
- ・水で建物が壊れる
- ・道路、家が水びたし
- ・破壊力
- ・高い所に逃げないと
- ・海の下に震源地

<起きる所>

・海の近く ・川の近く

水がある所

津波からはどのように逃げればよいのだろう

<海の近くにいる場合>

- ・とにかく高い所 ・近くの町の人についていく

↓

- ・なるべく近くで高い所 避難場所がわかる
- 津波は速い
- ・警報をよく聞く

<学校、家、近所にいた場合>

※付近の中学校、図書館、病院等、様々な施設があがった

津波から逃げる時は、周りの状況をよく見ながら、近くて高く、安全な所を目指す。

11) 内野中学校区（西区）

対象校：内野中学校・内野小学校・西内野小学校・内野小・中学校希望が丘分校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

| | 実施日・会場 | 検討内容 |
|-----|--|---|
| 第1回 | 平成28年7月5日 16:00～17:00 会場：内野中学校 | 1. 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2. 区総務課の今年度可能なサポート・関連事業等の説明及び各校の今後の防災教育について（情報共有・意見交換） 3. 今後の中学校区ミーティングのあり方について（意見交換） 4. その他（次回の日程調整等） |
| 第2回 | 平成28年11月17日 16:00～17:00 会場：内野中学校 | 1. 第1回ミーティングの振り返り・確認 2. 各校の防災教育の進捗及び予算活用状況について（情報共有） 3. 新潟市女性消防団（ひまわり隊）の活動について（情報提供） 4. その他（次回の日程調整等） |
| 第3回 | 平成29年2月2日 16:00～17:00 会場：内野中学校 | 1. 第2回ミーティングの振り返り・確認 2. 次年度以降、取組を継続していくために（課題抽出・検討） |

② 各学校へのサポート事例

| 対象校 | 実施日 | サポート種別 | サポート内容 |
|------------------|----------------|-------------------|--|
| 西区総務課 | 平成28年 6月23日 | ヒアリング | ・区総務課として今年度可能な学校へのサポート内容についてヒアリングを行った。 |
| 内野小学校 | 平成28年 7月5日 | 打ち合わせ | ・今年度の防災教育計画の活動内容について助言や提案、事例紹介を行った。 |
| 内野小中学校 希望が丘分校 | 平成28年 7月10日 | 資料提供 | ・長岡市内の防災教育に役立つ関連施設情報について資料提供を行った。 |
| 内野小学校 | 平成28年 7月25日 | 打ち合わせ | 以下の内容について助言や提案、資料提供を行った。 ○第5学年総合の単元構成 ○学校で備えておいた方がよい防災グッズ ○防災教育イベント こども防災未来会議2016 |
| 西内野小学校 | 平成28年 7月28日 | 打ち合わせ | ・9/14に実施する第6学年対象の防災講座内容（語り部を活用した授業）について助言と提案を行った。 |
| 内野中学校 | 平成28年 8月3日 | 打ち合わせ・ コーディネート | ・9月に実施する第3学年対象の体験型防災講座の内容（地域や外部講師と連携した体験学習）について助言と提案、コーディネートを行った。 |
| 西内野小学校 | 平成28年 9月14日 | 授業実施の サポート | ・第6学年対象の地震災害に関する授業にて、中越地震の語り部を活用した授業実践のサポートを行った。 |
| 内野中学校 | 平成28年 9月20日 | 打ち合わせ | ・9/29に実施する第3学年対象の体験型防災講座の事前打ち合わせを行った。 |
| 内野中学校 | 平成28年 9月23日 | 打ち合わせ | ・9/29に実施する第3学年対象の体験型防災講座の外部講師と事前打ち合わせを行った。 |
| 内野中学校 | 平成28年 9月29日 | 講座実施 | ・第3学年対象 第1回目の講座実践及びサポート 以下の防災講座の実施及びサポートを行った。 |

| | | | |
|--------|----------------------|-----------------------|--|
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ○水消火器での初期消火体験 ○心肺蘇生法の体験 ○非常食（アルファ化米）づくりの指導，試食体験 |
| 内野小学校 | 平成 28 年 10 月 3 日 | 講座実施・ 打ち合わせ | <ul style="list-style-type: none"> ・「地震から自分の身を守る『3つのない場所（落ちない・倒れない・動かない）』を知る」「学校を探検し，危険箇所と安全な場所を調べる」をねらいに，全校児童（縦割り班）を対象とした講座を実施した。 ○学校探検をして調べたことを平面図にまとめる ○体育館，通学路での危険箇所と安全な場所を考える ・10/12 に実施する発災対応型避難訓練について打ち合わせと役割分担の確認を行った。 |
| 内野中学校 | 平成 28 年 10 月 4 日 | 講座実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・第 3 学年対象 第 2 回目の講座実践及びサポート以下の防災講座の実施及びサポートを行った。 ○水消火器での初期消火体験 ○心肺蘇生法の体験 ○非常食（アルファ化米）づくりの指導，試食体験 |
| 内野小学校 | 平成 28 年 10 月 12 日 | 講座実践の サポート | <ul style="list-style-type: none"> ・全校児童を対象とした，発災対応型避難訓練（地震・火災想定）と非常食の試食体験の実施をサポートした。 ○煙発生器の使用 ○地震で通行不可（危険箇所）にする場所の設定 ○保護者等による非常食（アルファ化米）づくり 等 |
| 西内野小学校 | 平成 28 年 10 月 18 日 | 打ち合わせ・ コーディネー ト | <ul style="list-style-type: none"> ・第 1～5 学年での防災学習内容について助言と提案を行った。 ・外部講師をコーディネートした。 |
| 西内野小学校 | 平成 28 年 11 月 17 日 | 打ち合わせ | <ul style="list-style-type: none"> ・12/19 に実施する第 5 学年対象の防災講座について外部講師と打ち合わせを行った。 |
| 西内野小学校 | 平成 28 年 12 月 19 日 | 講座実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・「地震災害から自分の命を守る対処行動を考える」「日頃から家族と災害時のことを話し合っておく必要性に気付かせる」をねらいに，第 5 学年対象の防災講座を外部講師と実施した。 ○地震の揺れの強さと被害について知り，緊急地震速報からゆれが収まった後までの行動を考える ○日頃から家族と話し合っておく内容を考える |

【9/29 内野中学校 第 3 学年体験型防災講座】



【9/29 内野中学校 第 3 学年体験型防災講座】



【10/3 内野小学校 全校防災講座】



【10/12 内野小学校 発災対応型避難訓練】



【11/17 第2回防災教育ミーティング】



【12/19 西内野小学校 第5学年防災講座】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

内野中学校区では、学校・地域・家庭が連携した活動に関する情報共有、外部講師の紹介及び講師を活用した学習の進め方について検討した。また、今年度は、防災教育を次年度以降も継続した取組にしていくための試験的実践期間であることを明確にし、地域の防災士、消防団、自治会、区総務課、外部団体と連携した活動の実践と情報共有を進めた。その過程で、「様々な人とかかわる体験学習は、子どもたちなりに多くの気づきを得ることができた。」「知識学習後に学んだことを生かす体験活動ができ、子どもたちの意識を高める機会につながった。縦割り班の活動でリーダー力も高まったと感じた。」「初めての活動だったが、保護者の協力が得られ、全校実施ができた。やってよかった」等の声が聞かれた。

また、「ミーティングで新たな情報や気づきを得ることができてよい。学びの多い機会になっている。」という声や、「各小学校で学んだことが中学校でも生かせるとさらによい。」といった小・中連携につながる意見も聞くことができた。

継続した連携のあり方とその課題についても検討しており、今後もより一層の発展が見込めると感じた。

<内野中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <p>今年、創立70年を迎えた伝統ある中学校である。生徒たちは、明るく元気でも人懐っこい。新潟市の西区に位置し、すぐ近くに日本海が面している。また、新川、西川、広通川の三川に囲まれた学校でもある。そのため、浸水や津波に対する警戒が必要な地域であり、校内の各箇所、各階には海拔が表示されている。昔からの地域住民は、新川の河川工事を始め河川での漁や砂丘での栽培等、川や海と共に生きてきた。</p> |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <p>東日本大震災の現状や内野地区で想定される被害状況の理解を通じて、自分の身は自分で守れる生徒を育てたい。具体的には、まず状況を把握し、自分の身を守ることを最優先できる判断力と行動力を身につけさせたい。そして、全員が助かるための避難や安否確認の方法を訓練したい。さらには、有事の際、中学生として防災・安全活動に参加できる意志や態度を育みたい。</p> |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <p>①自然災害時における生徒の適切な意思決定や行動選択ができるようにする。 ②自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。 ③自他の生命を尊重し、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。</p> |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 6/17 第1回避難訓練（地震、津波想定） ・ 7/5 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業第1回内野中学校区ミーティング ・ 8/3 3年生防災活動の計画検討会（ふるさと未来創造堂と） ・ 9/21 3年生防災活動打合せ（参加講師、防災士の皆さんと） ・ 9/29, 10/4 3年生防災活動（防火活動、非常食、救命救急） ・ 11/11 第2回避難訓練（火災想定） ・ 11/17 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業第2回内野中学校区ミーティング ・ 2/2 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業第3回内野中学校区ミーティング |
| <p>自校プランの内容</p> | <p>① 防災学習（特に地理条件の把握と津波、地震、火災対応について） ② 上記学習に基づく年2回の避難訓練 ③ 3年生防災活動（消火活動、救命救急）</p> |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <p>① 総合的な学習の時間に位置付け、確実に年間活動予定に組み込む。 ② 地域教育コーディネーターと連携して計画を策定し、担当職員へ引き継ぐ。 ③ 西消防署、地元消防団、ひまわり隊への協力を依頼する。</p> |

2. 内野中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----------------------|--|---|---------------------------------------|----|----|-----|-----|------------------|---------------|---|-----------------|
| 第1学年 | 防災学習 年間活動 計画提案 | この地域の地理条件やそれに伴う災害の歴史について学ぶ。 内野三川リバーサイドウォークで、その地理条件を歩いて体感する。 | 地震・津波についての防災学習 地震・津波を想定した避難訓練 ふり返りと評価 | 火災についての防災学習 火災を想定した避難訓練 ふり返りと評価 | | | | | | | | 来年度の防災学習年間計画の作成 |
| 第2学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | | | | | | | | | 3年生 防災活動計画の提案 | 防災活動の打ち合わせと準備 | 3年生防災活動 ・DVD（実際に被災地で活動する中学生の姿等） ・消火活動 ・救命救急 ・非常食や備品のふり返りと評価 | |

3.内野中学校 防災教育指導例

| 中学校 ※津一選択-3 地一選択-2 洪一必須-9 対応 | | (学習のねらい) 自他の生命を尊重し、学校、家庭及び地域社会の安全活動に 進んで参加・協力し、貢献できるようにする。 (災害発生時、自分の身を守ることができたら、次は中学3年生として他人のために役立つ行動 も取ることができるようにする。) |
|---------------------------------------|---|---|
| 学習内容(展開例) | | 資料や学習のポイント等 |
| 【導入】 | <p>1. オリエンテーション</p> <p>「いつ何どきに襲ってくるかわからない災害。もし、災害が発生したら、まずは、自分の身を守ります。続いて、みんなで避難します。そして、安全が確保されたら、次にどうしますか? 中学3年生として何ができるでしょうか? できたら、他人の役に立ってほしい。役に立つ行動が取れる人になってほしい。そこで、今回の防災学習は、自分の身を守った後にできる防災・救命活動について学習します。」</p> <p>2. 講話「防災で中学生に期待すること」</p> <p>過去にこの地域ではこんな災害があったとか、この地域ではこういう災害が起きやすいとか、もし、災害・避難生活を余儀なくされるとしたら、どこが避難所で、どんな生活が想定されるか等具体的なお話をもとに、この後の活動に結び付けてもらう。</p> | <p>タイトな時間の中で、3つの活動をローテーションしていくため、移動・整列・行動を素早く行い、真剣に参加するよう話をします。</p> <p>内野地区消防団の分団長より、地元の中学生への期待も込めて話をさせていただく。</p> |
| 【展開】 | <p>3. 活動の展開</p> <p>A: 防火活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期消火として、消火器の説明、使い方(体育館出口側) ・水消火器での実演(体育館渡り通路にて) <p>B: 非常食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファ化米についての説明 ・調理(50食分) 代表生徒2~3名 ・時間が余ったら、家で用意できる非常食等の紹介 非常時のヒント等について学習 <p>*昼食時、クラスで食べてもらう。余ったら、ランチルームへ運ぶ。 持ち帰りはさせない。</p> <p>C: 救命救急</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AEDや心肺蘇生についての説明(剣道場側) ・心肺蘇生の実演(柔道場にて) <p>*8班に分かれて、8分間心肺蘇生を続ける。各クラスの1班が一緒(8~9名)になって、一体の人形相手にリレー方式で行う。 1人50秒~1分くらいの体験。</p> | <p>学校では、どこに消火器があるのか知る。 シャッター出口から中庭に向かって放つ。</p> <p>内野地区ではどこに保管され、どのようにして入手できるのか知っておく。 災害発生、孤立無援時、何時間どんな食物があれば生き延びられるか。</p> <p>学校にはどこにAEDが設置されているか確認する。</p> |
| 【おとぎ】 | <p>4. ふり返り</p> <p>ワークシートで自己評価をさせ、「授業の感想」を書かせる。</p> | <p>評価①~④の項目について、自己評価する。</p> |

【評価】

- ①講師の方々の話や説明をきちんと聞くことができたか。
- ②防火活動（水消火器）に、真剣に参加できたか。
- ③非常食（アルファ化米）について、知識を深めることができたか。
- ④救命救急（心肺蘇生）を、積極的に体験することができた。

【授業実践の様子】



【授業後の生徒の感想】

- ・消火器が重くて難しかった。惑わされて燃えている火の所に消してはいけないというのは確かにと
思った。火元にかけるというのは、意外と盲点だった。
- ・今回の防災活動で、日ごろの備え、訓練は大切だと思った。いざ非常食を作ったり、救命救急をし
ようとしても、作り方・方法を知らなければ、行動ができない。いつ災害が起きてもいいように、
非常食等を家に備蓄しようと思った。
- ・今回の防災活動で一番心に残っていることは心肺蘇生です。胸と胸の間を5cmもの深さで1分間に
100回も押し続けることはとても大変だけど、脳に血液を届け、少しでも命をとりとめる可能性を
上げる事ができると聞いてすごいなと思いました。近くに倒れていて、呼吸していない人がいたら、
今日学んだ心肺蘇生を行いたいです。
- ・もしも本当に火災や人が倒れてたり等ということがあれば、あせらず冷静になって避難や救助を行
い、自分の命だけでなく他の人の命も助けようと思った。
- ・防災への取組で自分の生が決まると思い、真剣に聞き正しい行動を学ぶことができた。
- ・どれもとても大切な事だと改めて感じました。知らなかったこともあったし、また、知識を深める
ことができた部分もありました。今回学んだことが、いつか、誰かのためになればいいなと思いま
す。
- ・アルファ化米や消火器等を扱うことは初めてだったので、とても新鮮だった。加え、救命救急を体
験したことによって、身近なものを感じることができた。この活動を通して、いつ起こるか分から
ない現実を知ることができた。
- ・災害が起こった時は大人が助けてくれると思っていたけど、中学生も助ける立場であるから
しっかり意識しないと…と感じた。物の使い方は簡単だけど、人の扱い方はとても難しい。
でも、本当に起こった時は、誰かにたよらず、自分で助けられるようになっていきたい。
- ・中学生ができる防災活動はあまりないと思っていたけど、中学生でも活動しようという気持ちがあ
れば、災害を少しでも防げるということが分かりました。

<内野小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域には、新川・西川・広通川の3つの川が流れている。海も近く海拔10m以上ある地域から3m未満と標高差もある地域である。 ・当校は高い場所に設置されている。しかし海に近いということ、校区には、川が3本流れていることから適切な避難経路を通り、適切に避難場所へ避難する必要がある。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・海や川が近い地域である内野の地域で、「自分の身は自分で守る」また発達段階に応じて「周りに声をかけて避難する」という防災意識をもって日々を生活してほしいと願っている。 ・また災害について考え、災害について備える意識をもってほしいという要望もある。 |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・防災意識を高め、自分でできることを考え、発信していく児童 ・地域とのコミュニケーションの一つになり、地域のことをより身近に感じる児童 ・災害が起こった際に自分の家族は何が必要なのかを考え、家族や地域で防災のことを考える児童 ・地域と子どもたちをつなげる役目も担い、地域をより知り、地域を好きになる児童 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・5年生の保健体育の「けがの防止」と関連させ、地震時の身の守り方と防災グッズについて理解を深める。 ・保護者と共に「避難時の待ち合わせ箇所」や「連絡のやりとり」について具体的に相談しながら防災教育を受ける。 ・発災型避難訓練を実施し、スモークマシーンや障害物を用いて避難訓練を行う。 ・アルファ化米がもとに戻る様子を観察し、地域ボランティアの方の助けを借りて全校で試食する。 ・縦割り班で校舎の安全な場所・危険な場所を探検し、避難訓練に備える。 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方と連携し、避難訓練や防災訓練を行う。 ・4年生のリトルファイヤースクールと連携して防災の教育を関連して行う。 ・県防災教育プログラムの必須事項を在学中にすべて学習できるように年間計画に位置付ける。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターと協力し地域の方と連携して防災教育を進める。 ・地域の防災士や消防団の方と連絡し合い、総合的な学習の時間や教科の授業を促す。 |

3.内野小学校 防災教育指導例

| | |
|-----------------------------------|--|
| 小学校高学年 ※地－必須－1,2,3, 選択－2 対応 | (学習のねらい)「自分の身は自分で守るために、私たちが日頃から備えておくことを知る」 ・私たちが行う防災対策について知る。・内野の特性を知り、安全に避難できることについて考える。・校内の危険個所を探索することを通して身近な安全について考える。 |
|-----------------------------------|--|

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|------|---|--|
| 【導入】 | 1. 災害が起こった際にどのような行動をとることが適切かを考える。 ①災害の映像を見ながら考える。 ②災害は、いつ・どこで起きるのか分からない。自分で考えて、落ち着いて行動できるようにするにはどうすればいいのか投げかける。 ③地震とそれに伴う被害について関心をもつ 2. 近年起こった熊本地震や九州地方での水害について取り上げ、被害状況や避難した際に物資が足りなくなる現状を知る。 ・自助・公助について考える。 ・内野の地域の特性を知り、災害が起こりうる地域だということに気づく。 | 【問いかけの例】 ・地震とはどのような災害なのか実際の映像を見てみましょう。 ・地震が起こると建物や道路はどのようになるか映像を見てみよう。 【ポイント】 ・普段は動かないものが崩れてきたり、動いてきたりすることを確認する。 ・いざというときに、ちゃんと行動できるようにするために、日頃から準備しておくことを伝える。 |
| 【展開】 | 3. 自分の身の守り方について学ぶ。 ①縦割り班になり、学校の中の危険な箇所について考える。 ②3つのコースに分かれて学校を探検する。その際に、危険な箇所・安全な箇所の視点を設け、ワークシートにメモをしながら探検する。 ③探検から戻ってきて、班の中でどのようなところが危険で、どのようなところが安全かを相談してまとめる。 ④別なコースに行った班と情報を共有して、相違点を発表する。 4. 家族と話し合うことの大切さ・地域とつながることの大切さを考える。 ・平時の備えについて正しい知識を身につける。 ・家族とともに考えることの大切さを理解する。 ○ 防災メモを用いて、次の点をおさえる 1) 「具体的な待ち合わせ場所」 2) 「連絡の取り方」 3) 「緊急時の自分の行動について」 | 【ワークシート】① ・校内を廻り、安全な場所・危険な場所をメモする。 【ワークシート】② ・安全な場所と危険な場所が視覚的に分かるようにシールを貼ってまとめる。 【問いかけの例】 ・地震が起こったとき、自分の身は自分で守ることと自ら考え行動することを確認し、「今ここで地震が起こったらどこを守りますか？」と問う。 【ポイント】 ・学習のねらい「自分の身は自分で守るために、私たちが日頃から備えておくべきことを知る」について意識させる。 ・地域の特性を知って、新川はすぐに津波がくることを押さえる。すぐに家に帰りたからと言って、新川のある方向へそのまま向かってはいけないことをおさえる。 |

| | | |
|-------|--|---|
| 【おとせ】 | <p>5. 学習してわかったことを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに、「授業の感想」等を書かせて、家族と防災について考える時間をもつ。 | <p>【ワークシート】家族との待ち合わせ場所</p> <ul style="list-style-type: none"> 連絡が通じないときに実際に自分はどこへ避難するか、家族と相談して決める。 ○「日頃から訓練等を通じて、避難方法を確認しておく」ことをおさえる。 |
| 【食評】 | <ul style="list-style-type: none"> 災害が起こった時に、自分の身の守り方について理解できたか。 身の回りに危険な場所があることに気づき、より安全な場所を考えることができたか。 災害が起こったときに、家族との待ち合わせ場所を決め、防災について家族会議をして考えたか。 | |

【親子防災教室】

【アルファ米試食】

【避難訓練の様子】



【ワークシート】

【学校探検のワークシート】

<西内野小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--|---|
| <p>学校・児童 生徒・地域 等の実態 ※地域の 優先ハザ ード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学校は海から約1kmの場所にあり、地盤の標高は8.6m程度で、海岸近くに砂丘地帯がある。『新潟市津波ハザードマップ』では、学校自体は浸水想定域からはずれ、隣接する西コミュニティセンターとともに避難所に指定されている。校区には、比較的標高の高い砂丘地、海拔0m近い平地、砂丘の中の窪地等様々な地形が存在している。 ・校区の地形や標高が多様であることに加え、比較的居住年数の長い住民とごく最近住み始めた住民が混在しており、防災意識は様々であると考えられる。 ・地域には「西内野地区防火防災連合会」があり、住民の中に防災士もいる。地域連携の基盤がある程度できていると考えられる。 |
| <p>保護者・地 域・教職員 等の願い</p> | <p>学校はもちろん学校以外での避難の仕方や災害への備えについて、学校、保護者、地域が連携し、児童に知識と実践体験をもたせることが大切である。</p> |
| <p>防災教育 において、 目指す児 童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> 【1, 2年】自分の命を大切にし、災害時に安全な行動がとれる子 【3, 4年】災害時の様々な危険を知り、自ら安全な行動ができる子 【5, 6年】状況に応じて主体的に判断し、自他の命を守ることができる子 |
| <p>補助交付 期間に実 施した主 な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・集団下校訓練実施 ・年間5回の避難訓練（火災・地震津波・引き渡し・不審者・火災）実施 ・新潟県防災教育プログラムを活用した授業の実施と、実施状況チェックシート作成 ・6年生防災教室（地震・津波）を、地域住民も加えた学習参観で実施（講師2名） ・4, 5年生防災教室を、消防士・防災士・ふるさと未来創造堂の協力を得て実施 ・『防災グッズチェックリスト』（長岡震災アーカイブセンター きおくみらい編集）と、親の携帯番号や避難所等を記入する携帯用『もしもカード』を全児童に配付 ・非常食（アルファ化米）の紹介と試食 |
| <p>自校プラ ンの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・生活科や社会科、総合的な学習等で、地域の様子やよさを知る。 ・自分の命を守るために必要な知識や心構え、行動の仕方を身につけるとともに、学年に応じて、他の人々の安全に寄与できるようにする。 |
| <p>自校プラ ンを継続 するため の方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育部の年間計画をより実践的で具体的なものにし、年間を見通したものにする。 ・新潟県防災教育プログラムの「必須項目」を各学年の年間指導計画に位置付け、確実に実施する。（全学年分の『実施状況チェックシート』を、平成31年度分まで作成済み。） ・28年度にご協力いただいた地域の防災関係者との連携を深める。そのために、協力者リスト（氏名・連絡先・指導可能な内容等を記したもの）を作成する。 ・町内子ども会で「地域・通学路の安全と危険」について取り上げていく。 |

3.西内野小学校 防災教育指導例

6年生

※地震-必須-3対応

(学習のねらい)「**大地震について理解を深め、被災時にどう行動すべきかを考える**」
・家族や近所の人たちのために、何ができるかを考える。

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|-------|---|---|
| 【導入】 | <p>1. 地震災害や身の守り方を復習し、学習のねらいを伝える。</p> <p>①地震時の身の守り方について復習する。</p> <p>②学習課題「大地震について理解を深め、被災時にどう行動すべきかを考えよう」をおさえる。</p> <p>③これまでの学習をもとにして、自宅で大地震に襲われたときの身の守り方を確認する。</p> | <p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> もし、家にいるときに立ってられないほどの大地震が発生したら、身を守るためにどうしますか？ <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 机の下にもぐって頭を守る。 ダンスや窓ガラスから離れる。 できたら外に逃げる。等 |
| 【展開】 | <p>2. 災害にあったときに、自分たちができることを考える。</p> <p>①ゲストティーチャーの体験談を聴き、大地震の様子と地域住民同士の助け合いの様子を知る。 (ゲストティーチャー 2名) ☆中越地震の語り部(やまこし復興交流館おらたる職員: 児童と同じ小学校6年時に被災。) ☆防災士(新潟NPO協会インタビュアーとして参加。)</p> <p>②揺れが収まった後に、家族のために自分ができていることを考える。(「津波警報が出た」という想定を伝える。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 各自が、ワークシートに書き込む。 グループで話し合う。 発表し合い、考えを共有する。 <p>③安全な場所へ移動するとき、近所の人のためにできることを考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> グループで話し合いながら、ワークシートに書き込む。 発表し合い、考えを共有する。 | <p>【ゲストティーチャーの話の要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震の揺れの大きさ、そのときの川上さんの行動 揺れが収まった後の、家の中や周囲の様子 揺れが収まった後の行動や家族の様子 山古志の被害について 地震後、近所の人たちと助け合ったこと 避難所での仕事や助け合ったこと 等 <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分かったことや考えたことをワークシートにメモしながらお話を聴かせる。 <p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族で避難する時に、皆さんはどんなことができますか？ <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家族状況は各自違うので、まず個人作業をさせる。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> できるだけ荷物を持つ。 お年寄りの手をとって、一緒に歩く。 小さいきょうだいと手をつないで歩く 等。 <p>【問いかけの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全に避難するために、近所の人たちにどんな言葉をかけたらよいでしょうか。 <p>【想定される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 津波警報が出たのはご存じですか？ おけがはありませんか？ 一緒に行きましょう。 等 |
| 【まとめ】 | <p>3. 分かったことや考えたことをまとめる</p> <ol style="list-style-type: none"> 自宅で地震に襲われたときに大切なことをまとめる。 日ごろから心掛けることをまとめる。 分かったことや考えたことを書き、発表する。 | <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「まず自分の命を守ること」と「家族や近所の人と助け合い、自分ができていることをする」ことを確認する。 ○「日頃から、挨拶等近所の人たちとのつながりを大切にする」ことを確認する。 |

【画】

- ・ 自宅で大地震に遭ったときに、危険を予測して身を守る方法を考えることができたか。
- ・ 地震被災時に、家族や近所の人たちのためにできることを考えることができたか。
- ・ 日ごろから、挨拶等で近所の人たちとつながる大切さを理解できたか。

【授業実践の様子】

ゲストティーチャーの話を聴く



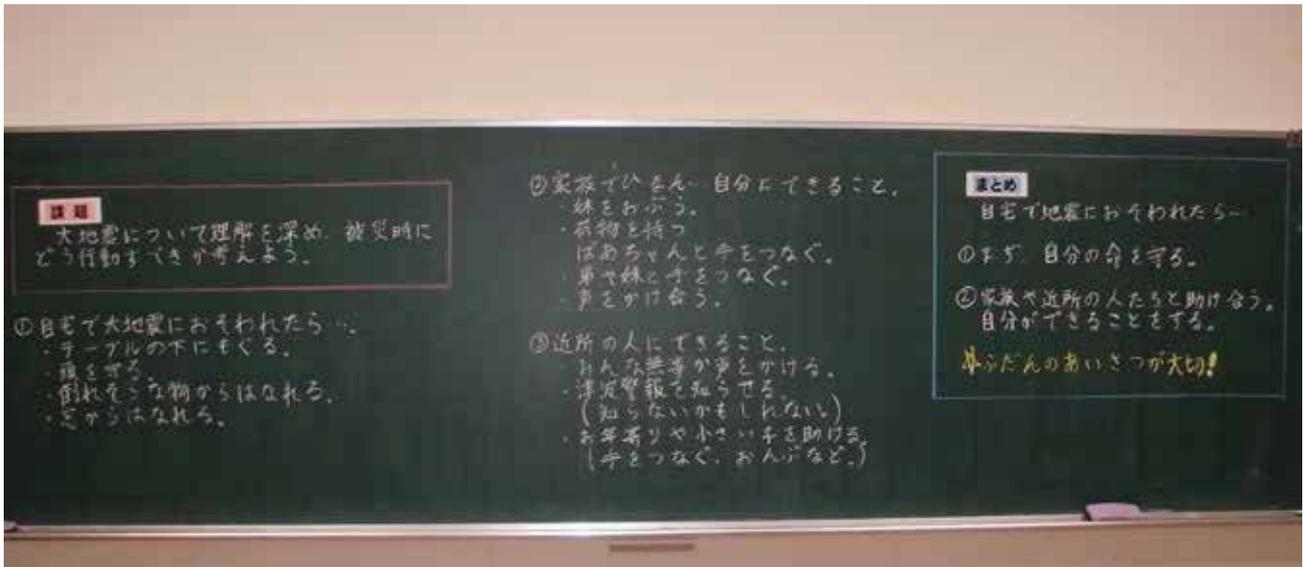
グループで話し合う



発表する



【板書の様子】



<内野小・中学校希望が丘分校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・周囲は砂丘が分布しており、液状化の可能性は低いですが、揺れによるがけ崩れの危険がある。比較的海に近い、海拔 28m の土地に立地している。津波の被害は少ないと想定される。 ・毎月、災害内容、時間帯を変更して避難訓練を実施している。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や防災教育を通じて、災害や避難に関する正しい知識や対応方法を身につけること、また集団行動時の適切な態度を養い、自分たちの命を守ることができることを目指している。 |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・災害及び被害の特徴や防災について基本的なことを理解し、行動できる。 ・子どもたちの「災害から生き抜く力」を育む。 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・消防署と連携し、総合防災訓練を実施。（消火活動の訓練、けが人の救助訓練） ・ながおか市民防災センターを訪問し、施設見学や防災体験を実施。 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・月に1度、避難訓練を実施して避難方法や災害に対する意識の向上を図る。 ・防災学習を実施し、地震や津波、火災への対応の方法や命の守り方の学習を推進する。 ・非常食を試食する。（訓練時） |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県防災教育プログラムを活用して防災教育計画を策定し、避難訓練と連動させて実施する。 ・今年度は、体験を通して防災意識を高める活動を取り入れた。次年度は、災害時に避難所で「子どもたちにできること」という視点を取り入れた防災教育計画を策定する。（ジュニアレスキュー講習、AED講習等） |

2. 内野小・中学校希望が丘分校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|---|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 第1学年 | <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 60%;"> <p>◎避難訓練を計画的に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎月1回実施 ○各種災害に対応 (火災, 地震, 津波・洪水, 不審者等) ○時間帯を変え (朝, 授業中, 昼休み, 放課後等) ○県防災教育プログラムの活用 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 35%; text-align: center;"> <p>総合防災訓練 (年一回 十月)</p> <p>消防士による指導 水消火器体験</p> <p>煙体験 救助者搬送体験 放水体験</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>防災訓練 ・施設見学 ・体験活動 ・救命講習 (AED 講習) ・不審者対応 等</p> </div> | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | | | | | | | | | | | | |

3.内野小・中学校希望が丘分校 防災教育指導例

| | |
|-------|--|
| 小・中学校 | (学習のねらい) ・災害から命を守る工夫について知り、安全な避難行動ができるようにする。 ・施設での活動・体験を通して、防災について学び、防災に対する意識を高める。 |
|-------|--|

| | 学習内容（展開例） | 資料や学習のポイント等 |
|-------|---|---|
| 【導入】 | 1. ながおか市民防災センターを見学する目的やねらいを伝える ① 実際に起きた火災、津波、地震等による被害の特徴や様子を知り、安全な行動の仕方を理解する。 ② 防災センターの見学や体験を通して、防災に対する意識を高める。 | 【といかけの例】 ・シビックコア地区ながおか市民防災センターってどのような施設だと思う。 ・震度5、6、7は実際にはどれくらい揺れるのかな。 【想定される答え】 ・避難所 ・大きな地震は経験したことがない。 【ポイント】 ○ 避難訓練からだけでなく、体験を通して防災について学習しよう。 |
| 【展開】 | 2. 施設見学や体験を通して実際の災害を知る ①防災士から、施設の特徴や東日本大震災、中越大震災の様子や避難所での生活の様子を聞く。 ・防災性の向上と快適な都市生活を支える広域防災拠点についての説明 ・地震、高さ体験、雪・水害、火災ゾーンでそれぞれの災害のメカニズムや対処法等の説明 ②消防士から、消防本部庁舎内の高機能消防指令センターの説明を聞く。 3. 地震体験車で実際の揺れを体験する ①体験を通して、地震災害についての理解を深め、日頃からどんな準備をしておくべきかを考える。 4. 避難所での生活の様子を聞く。避難所で実際に役立つ用品づくりの体験 ①「避難所での生活の様子」の講義 ②新聞紙を使って、スリッパづくり体験 | 【ポイント】 ○今まであまり意識していなかった防災について学んだり、考えたりする。 ・災害時、避難所としてニーズに応じて多様な利用が可能である。(ヘリポートにも活用可能) ・公園内には、100トンの飲料水兼用大型貯水槽が埋設してある。(11,000人が3日間生活可能) ・公園内に非常用トイレが設備してある。(トイレの重要性) ・地震での津波の高さ、火災を見つけたらどうしたらよいか等各災害についての学習 ・119番位置情報通知システム、消防車両の位置情報、画像伝送装置の解説 ・実際の避難所生活の様子や避難時に知っておくべきこと等についての説明 ・避難生活に役立つ新聞紙の利用法を知る。 |
| 【まとめ】 | 5. 学習してわかったことを確認する ① ワークシートに、「見学や体験の感想」等を書かせて、発表させる | 【ポイント】 ○ ワークシートを記入し、活動の振り返りをする。 |

- ・災害から命を守る工夫について知り、安全に避難行動をとることができるか。
- ・施設での活動・体験を通して、各種防災（火災、津波、雪・水害、地震等）について学ぶことができたか。
- ・施設見学や体験活動を通して、防災に対する意識が高まり、「命を守ろう」という主体的な気持ちを持つことができたか。

【授業実践の様子】



すごい揺れてびっくりしました。震度5弱以上の地震は体験したことがなかったので、とてもいい体験になりました。地震は本当に怖いと実感しました。



今回の見学で、津波の高さや雪の降った量の高さを知ることができました。津波で一番高いのは40mということや、雪の高さは家の1階がうまるくらいと聞いてびっくりしました。こんな災害が本当に起きてほしくないと思いました。



今回の防災体験を通して、これから色々と生かしていけることがたくさんありました。地震等災害の時に使える道具も教えてもらったので、自分の身は自分で守っていけるようにしていきたいです。今回の体験は、とても自分のためになりました。

今日の体験で、ぼくの心に残ったことは2つあります。1つ目は、地震体験車です。地震にあった人は、どれだけ苦労したのかと考えると、自分も地震にあった人に負けないくらいの精神力が必要だと思いました。2つ目は、新聞紙でできるスリッパです。一枚の新聞紙でもいろんなことに使えるんだと思い、新聞紙も有効に活用できるんだなということがわかりました。

12) 岩室中学校区（西蒲区）

対象校：岩室中学校・岩室小学校・和納小学校

① 中学校区ミーティングの実施日及び主な検討内容

| | 実施日・会場 | 検討内容 |
|-----|---------------------------------------|--|
| 第1回 | 平成28年5月27日 16:00～17:00 会場：岩室中学校 | 1. 新潟市「防災教育」学校・地域連携事業研修会の振り返り 2. 各校の防災教育，区総務課の関連事業について (情報共有・意見交換) 3. 今後の中学校区ミーティングのあり方について（意見交換） 4. その他（次回の日程調整等） |
| 第2回 | 平成28年6月14日 16:00～17:00 会場：岩室中学校 | 1. 第1回ミーティングの振り返り・確認 2. 岩室地区公民館の関連事業について（情報提供） 3. 各校における防災教育について（意見交換・検討） 4. その他（次回の日程調整等） |
| 第3回 | 平成28年12月6日 16:00～16:45 会場：岩室中学校 | 1. 第2回ミーティングの振り返り・確認 2. 各校及び各団体の取組と予算活用方法について (情報共有・意見交換) 3. 次年度以降，取組を継続していくために（課題抽出・検討） |

② 各学校等へのサポート事例

| 対象校 | 実施日 | サポート種別 | サポート内容 |
|----------------|-----------------|-----------------|---|
| 岩室中学校 | 平成28年 5月30日 | 打ち合わせ | ・6/17に実施する全校生徒対象の防災講座内容について打ち合わせを行った。 ・中越地震の被災体験を持つ外部講師（語り部）を紹介し，コーディネートを行った。 |
| 岩室小学校 和納小学校 | 平成28年 5月30日 | ヒアリング・ 打ち合わせ | ・両小学校第4学年以上を対象にした岩室地区公民館での防災キャンプに関するヒアリングと活動内容についてアドバイスをを行った。 |
| 岩室中学校 | 平成28年 6月17日 | 講座実施 | ・「自地域の災害リスクを知り，自分の命を守る行動を考える」「災害時，他者のためにできることを考える」をねらいに，外部講師を交えた全校生徒対象の防災講座を実施した。 |
| 岩室小学校 | 平成28年 7月26日 | 打ち合わせ | ・第5学年対象の講座，外部講師や防災士を活用した体験学習について助言と提案を行った。 ・外部講師及び防災士とのコーディネートを行った。 |
| 和納小学校 | 平成28年 8月4日 | 打ち合わせ | ・全校児童対象の講座，外部講師や防災士を活用した体験学習について助言と提案を行った。 ・外部講師及び防災士とのコーディネートを行った。 |
| 岩室中学校 | 平成28年 10月14日 | 打ち合わせ | ・外部講師及び防災士の活用に関する助言とコーディネートを行った。 |
| 岩室小学校 | 平成28年 10月17日 | 講座実施 | ・第5学年社会科の単元「自然災害とともに生きる」にて，外部講師（語り部）を活用した講座を実施した。 ○中越地震の語り部による体験談を聞く ○公助の限界を知り，家庭でできる自助対策を考える |

| | | | |
|-------|----------------------|-------|--|
| 和納小学校 | 平成 28 年 10 月 26 日 | 打ち合わせ | ・ 11/17 に実施する高学年を対象とした体験型防災講座に関する打ち合わせを防災士を交えて行った。 |
| 岩室小学校 | 平成 28 年 11 月 10 日 | 講座実施 | ・ 避難訓練（火災想定）の終了後、「熊本地震の避難所の様子を知る」「災害時に正しい情報を得る・伝える難しさを知る」をねらいに全校児童対象の防災講座を実施した。 ○災害伝言ゲーム ○熊本地震によるまちの被害と避難所の小学生の様子 |
| 和納小学校 | 平成 28 年 11 月 17 日 | 講座実施 | ・ 「地震発生時直後の適切な対応の仕方を理解する」をねらいに、全校児童対象（縦割り班）の防災講座を実施した。 ○中越地震の語り部による体験談を聞く ○校内の写真を使用して地震発生時の危険箇所を考える ・ 「身近なものを工夫する大切さを学ぶ」をねらいに、中学年対象の体験型防災講座を防災士と行った。 ○毛布たんかづくりと搬送体験 ○新聞紙スリッパづくり |

【10/4 岩室中学校 第2・3学年防災講座】



【11/18 岩室中学校 全校防災講座】



【11/10 岩室小学校 火災想定避難訓練】



【11/10 岩室小学校 全校防災講座】



【11/17 和納小学校 全校防災講座】



【11/17 和納小学校 第3・4学年防災講座】



【11/17 和納小学校 第3・4学年防災講座】



③ 新潟市防災教育コンソーシアム担当コーディネーターより

岩室中学校区では細く長く継続できるように、無理をせず既存の活動や行事等と組み合わせた取組について検討を進めた。地域の防災士、消防署、区総務課、外部講師と連携した活動として、避難訓練実施後の防災学習、地域防災について学ぶ活動、身近なもので作れる防災グッズづくりの指導補助等を実施した。その結果、「学校と地域の連携が深まった。」「協力を仰げる外部人材とのつながりができた。」といった声を聞くことができた。連携を大切だと感じたのは各指定校だけではない。消防署と連携した際に、「連携に感謝する。子どもに伝えたいが、これまで伝える機会を作れずにいた。」との声もあった。

様々な団体が個別に取り組むのではなく、共通の目的を持つ取組を緩やかに繋げることで、双方にWin×Winの取組になることから、連携の重要性を実感していた。地域と連携した取組を継続していくポイントとして、共通理解を図ることができた。

<岩室中学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・岩室・和納・間瀬の3地区からなり、それぞれ温泉地区・田園地区・海浜地区と地域の色がとても強い。津波や河川の氾濫、山間部での土砂被害等、災害が発生すると、被害は甚大となる危険性がある。様々な社会教育活動がなされていて、地域は学校に協力的である。温厚で素直な生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っている。自発的な行動や積極性・根気強さには欠ける面もあるが、総合的な学習の時間や委員会活動等で地域の方や地域の施設と関わることが多く、地域との連携がとりやすい状況である。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域、教職員の最も大きな願いは「自分の命は自分で守り切る」である。そのために必要な、災害時のとっさの判断力や、臨機応変に対応する思考力や、厳しい環境を乗り越える体力を身に付けてほしいと願っている。 ・中学生には、地域の構成員としての自覚をもち、災害時に中学生が地域に貢献できることについて真剣に考えてほしいと願っている。 |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・日常の防災に対する備えをし、被災時の的確な判断の下、自主的に考えて行動することができる生徒。 ・状況改善のために何ができるのかを考え、周囲と協力して行動することができる生徒。 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <p>【地震災害学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震でボランティアスタッフとして活動した方の講話を聞き、その後は「災害時にできること」をグループで話し合った。（全学年） ・長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」を訪問し、震災の教訓や知見を語り部さんのお話や様々な資料を通して学んだ。（1学年） <p>【洪水災害学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩室地区の洪水災害の危険性についての講話を聞き、避難所の確認をしたり、災害時の適切な状況判断について考えたりした。（2・3学年） <p>【火災災害学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防署、防災士、消防団の方々の協力の下、煙体験活動や消火訓練活動等を行い、火災の危険性について体験した。（全学年） |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・全校で防災学習を実施し、地震・水害・火災等の災害時における、対応の方法や命の守り方の学習を、年間計画に位置付けて推進する。 ・地域の人材を積極的に取り入れて、専門的な内容を学べる場を設定する。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初にその年度の防災教育活動を検討し、計画的に時間を確保していく。 ・地域教育コーディネーターと連携を図りながら、岩室地区にある施設や消防団、消防署の方等による中学校の防災教育への協力体制をつくる。 |

2. 岩室中学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 第1学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | | | | | | | | | | | | |

【地震災害】
長岡「きおくみらい」訪問

【地震災害】熊本地震でボランティアスタッフとして活動した方の講話を聞く。グループ学習を通して考える。その後、地震を想定した避難訓練を行う。

【火災災害】消防署、防災士、消防団の方々の協力の下、煙体験活動や消火訓練活動等を行う。火災の危険性について体験する。

【洪水災害】岩室地区の洪水災害の危険性についての講話を聞く。避難所の確認をし、災害時の適切な行動を考える。

3.岩室中学校 防災教育指導例

中学校全学年
(第3回 60分)

(学習のねらい)

「岩室地区の洪水災害の危険性を知り、自分のすべき行動について考えをもつ」

| | 学習内容（展開例） | 資料や学習のポイント等 |
|------|--|--|
| 【導入】 | <p>1. 洪水災害の危険性を確認し、学習のねらいをおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育目標「できることを考えて協力して動く（自主協同の精神）」を確認する。 ・学習のねらい「岩室地区の洪水災害の危険性を知り、自分のすべき行動について考えをもつ」をおさえる。 | <p>○前回の防災授業で学んだ地震について大事な2点を、学校防災教育目標を確認しながらおさえる。</p> <p>①命を守ることを最優先にして行動すること。</p> <p>②被災時には、できることを考えて協力して活動すること。</p> |
| 【展開】 | <p>2. 「岩室地区の洪水の危険性」についての講話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島土砂災害や鬼怒川の堤防決壊等、日本各地で起きた大きな水害を全員で共有する。 ・新潟県で起きた水害についての説明を聞く。 ・刈谷田川の破堤による水害体験者の資料を読む。 ・岩室地区で過去に起こった水害被害について写真を見ながら説明を聞く。 <p>3. グループになり、洪水ハザードマップを用いて、次の点をおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅の最寄りの避難所をグループ内で確認する。 ・浸水の深さ等を踏まえ、災害時を想定した避難経路について話し合わせる。 <p>4. クロスロードゲームを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>市役所から避難勧告は出ていないが近くの川が増水し始め、避難する近所の人も出始めた。あなたは自主的に避難所に行く？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所に行く・・・YESカードを出す ・避難所に行かない・・・NOカードを出す <p>◎一斉にカードを出し、意見とその理由をグループ内で共有させる。</p> <p>◎グループの代表者が、班の意見を全体に発表させる。</p> | <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水害や土砂災害と、地震との違いは予測できるということである。 ・どの段階で避難しなければならないのか、判断する基準が難しい。 ・地域のことを一番知っているのは地域の方である。お互いにもっている情報を共有できることが大切である。 <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くの避難場所と、どのようなルートで避難をしたらよいか確認させる。 <p>【学習のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災における様々なジレンマに対して、様々な考え方を発表し合い、共有させることで、様々な視点の対応に気づかせる。 ・命を優先するには、どのような行動をとるべきかを真剣に、多面的に考えさせる。 <p>○発表した班が正解ではなく、意見の紹介であることを伝える。</p> |

| | | |
|-------|--|--|
| 【まとめ】 | <p>5. 学習してわかったことを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに、「授業の感想」等を書かせる。 | <p>○命を守ることを第一に考え、できることを考えて行動しようとする考えが書かれているかを確認する。</p> |
| 【評価】 | <ul style="list-style-type: none"> 岩室地区の洪水災害の危険性を知ることができたか。 水害時には安全の確保を第一に、最善の避難方法を自分で考えることができたか。 災害時は、助け合って避難し、地域の一員として自分にできることは何かを考えることができたか。 | |

【授業実践の様子】



講話「岩室地区の洪水の危険性」



クロスロードゲーム

【スライド資料】（一部抜粋）

岩室中学校区避難所マップ

様々な考えや意見を共有するクロスロード

クロスロードとは？
 自分に対して様々なシナリオに対して、様々な考え方を発表し合い、共有することで、様々な視点の対話を考えていくものです。

クロスロードの進め方

- ① 目標を簡単に提示します。
- ② 自分以外の意見、他班や他の家庭を前に避難所に行きたい、家族団結の願いを「もも」一緒に連れて行く？
- ③ 投票に対しての「Yes/No」を一人ひとりが考えます。
- ④ 投票して「クロスロード」全員同時ではします。
- ⑤ 一人一票をマークアップ。
- ⑥ 各グループ毎に一人ひとりがYES/NOの理由を発表していきます。
- ⑦ 各グループの代表者から、YES/NOの割合や出された意見を発表してもらいます。
 ※全員がYES、全員がNO、早別に分かれる、など様々です。

クロスロードの注意点

- ① クロスロードは投票設定が重要です。
- ② 面白いなものは自分一人ひとりの地域や場面にあてはめてください。
- ③ 違った視点の考えにふれることができます。

クロスロードゲーム 場面その1

市役所から避難勧告は出ていないが近くの川が増水しはじめ、避難する近所の人も出はじめた。あなたは自主的に避難所に行く？

YES

避難所に行く

NO

避難所に行かない

<岩室小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・22の自治会からなる校区で、集落間には水田が広がる。校区が広いため、西部の間瀬地区児童はスクールバスで登下校している。 ・住民は、地域の子どもたちをみんなで見守っていこうという意識が高い。 ・地区の東部は、大きい地震の際には液状化の可能性がある。一方、西部の山地では、揺れに伴う土砂災害等の危険がある。 ・津波による浸水は、地区西部の海岸部で想定されている。 ・大河津分水路の洪水では、地区東部の全域で浸水の可能性がある。地区西部の山地には、大雨時、がけ崩れや土石流、地滑りの危険がある。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域からは、地震・洪水等の災害時の子どもの安全管理についての要望は特に出していないが、教職員のほとんどは、洪水を想定した避難訓練や防災教育の経験がないため、専門家を招いて防災学習をしたいと考えている。 ・子どもたちには、学んだ知識をもとに防災について自己の問題としてとらえ、実際に行動に移そうとする態度を身に付けさせたい。 |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に自分で判断し、自分の命を自分で守るための最善の行動を考え、実行に移せる子ども ・防災についての基礎的基本的事項を理解し、身に付けている子ども |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・6月16日に、地震想定(津波を含む)の避難訓練を行った。 ・10月17日に、やまこし復興交流館おらたる(NPO法人中越防災フロンティア)から講師を招き、5年生を対象に「防災出前授業」を行った。 ・11月10日に、休憩時の火災想定避難訓練を行い、防災士2名から避難の仕方等について助言をいただいた。また、その後、全校を対象とした「防災出前授業」を行った。 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地震、津波、火災、不審者対応の4つについて、避難訓練を行う。 ・防災教育プログラムを用いた防災授業を全学年、全学級で年間2回以上行う。 ・高学年児童には、防災にかかわる宿泊体験を内容とした、公民館事業の「めだかの学校」に積極的な参加を促し、避難所生活や防災グッズ作り等の活動を体験させることで地域との連携を図る。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・年度末までに次年度の避難訓練計画及び防災教育計画を作成し、年間計画に位置付ける。 ・避難訓練実施後は、振り返りを行い、次年度の実践につなげる。 ・防災教育プログラムを用いた防災授業を実施した後、学習した内容を記録し、次年度の実践につなげる。 |

3.岩室小学校 防災教育指導例

第5学年児童
(45分)

(学習のねらい)

「自然災害から自分と家族の命を守るために出来ることを考える」

- ・日本の自然災害発生件数と行政による防災対策(公助),公助の限界について知る
- ・語り部から,新潟県中越地震の体験談を聞き,自助・共助の大切さを学ぶ
- ・自分と家族のできる地震対策を考え,家族ぐるみで防災意識を高める

| | 学習内容(展開例) | 資料や学習のポイント等 |
|--------------|---|---|
| 【導入】 10分 | <p>1. 日本の自然災害発生件数と行政による防災対策(公助),公助の限界について知る</p> <p>① 日本の年間地震発生件数に関する資料を提示し,自然災害に備え,国や県,新潟市の取り組んでいる防災対策(公助)について伝える。</p> <p>② 東日本大震災によるインフラ設備の被害写真を提示し,「公助のみでは全ての人の命を守るのは難しいこと」を伝える。防災対策は,公助にのみ頼るのではなく,「自分の命は自分で守る(自助),家族や大人と協力して助け合う(共助)」も大切なこととおさえる。</p> <p>③ 本時のねらい「自然災害から自分と家族の命を守るために出来ることを考える」をおさえる。</p> | <p>【資料】日本の年間地震発生件数に関する資料</p> <p>【資料】国や県,新潟市の防災対策に関する写真</p> <p>【資料】東日本大震災によるインフラ設備の被害写真</p> |
| 【展開①】 15分 | <p>2. 新潟県中越地震の体験談を聞き,自助・共助の大切さを学ぶ</p> <p>① 中越地震を経験した語り部から,当時の山古志の被害写真を見せながら,震災が起きた日から2日後ヘリコプターで避難するまでの間の出来事を中心に,体験談をお話していただく。</p> <p>② お話を聞いての感想や質問等を発表させる。</p> <p>③ 「日頃から助け合える人間関係が災害発生時の共助につながることを確認し,助け合うためにも「自分や家族がそれぞれの命を自分で守れる自助が,他の人を助ける共助につながることをおさえる。</p> | <p>【資料】新潟県中越地震による山古志の被害写真</p> <p>○ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から地域内で良好な人間関係が築けていたからこそ,大災害時にもお互いに助け合い,支え合うことができたことにお話の焦点を絞る。 |

| | | |
|----------------------|---|--|
| <p>【展開②】 15分</p> | <p>3. 地震に備え、家庭でできる自助対策について考える</p> <p>① 地震から自分と家族の命を守るために、「家庭でできる自助対策」についてグループで話し合わせ、ミニホワイトボード等にかかせる。</p> <p>② グループで考えた内容を発表させる。</p> | <p>※グループ活動を想定</p> <p>【資料】新潟県中越地震による家屋内の被害写真</p> <p>○ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震による家屋内の被害写真を見せ、自分の家の中ではどのような被害が起こるのかを具体的にイメージさせる。 |
| <p>【まとめ】 5分</p> | <p>4. まとめ</p> <p>① どれか一つでも考えたことを実践することが大切なことを伝え、「今日、自宅に帰ったら家族と家庭内での地震対策や備えについて話し合うこと」を伝えて、学習のまとめとする。</p> | <p>【資料】ワークシート</p> <p>○ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校で考えただけでなく、学んだことを家庭で話し合うことで、家族ぐるみで防災意識を高めさせる。 |
| <p>【評価】</p> | <ul style="list-style-type: none"> 日本の国土は自然災害の発生件数が多いこと、世界有数の地震大国であることを理解することができたか。 自然災害からくらしを守るために、国や県、市の取り組む防災対策とその限界について理解することができたか。 新潟県中越地震の体験談を聞き、災害時には助け合うためには、日頃からの良好な人間関係の構築と家庭の備えの大切さを感じ取ることができたか。 グループで話し合った家庭の自助対策について家族と話し合い、家族ぐるみで防災意識を高めようとしたか。 | |

【授業実践の様子】



【スライド資料】



<和納小学校>

1. ふるさと新潟防災教育 自校化プラン

| | |
|--------------------------------------|---|
| <p>学校・児童生徒・地域等の実態 ※地域の優先ハザード</p> | <ul style="list-style-type: none"> 学区の大部分は柔らかい地盤状に分布しているため、大きい地震の時には、強い揺れに襲われたり、液状化したりする可能性がある。特に、かつて水田として利用されていた当地域は、液状化の危険性が高い。 信濃川下流の洪水、大河津分水路の洪水及び新川・大通川流域の洪水によって浸水の可能性がある。特に、大河津分水路、新川・大通川の洪水では、地区東部を中心に、広い範囲で浸水の可能性がある。 |
| <p>保護者・地域・教職員等の願い</p> | <ul style="list-style-type: none"> 学校では、毎年地震を想定した避難訓練を実施している。授業中だけでなく休み時間にも訓練を行うことで、児童が自分で自分の命を守ろうとする意識を高めてほしいと考えている。 学習参観日に地震、津波の避難訓練を実施している。保護者への引渡訓練を兼ねることで、保護者の防災意識を高めることも目的としている。 |
| <p>防災教育において、目指す児童生徒像</p> | <ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある物の危険性を理解し、災害発生時にはどのように行動したらよいかを自分で判断できる子ども。 自分達が住む地域の危険箇所を把握し、災害時にはどこに避難したらよいかを自分で判断できる子ども。 |
| <p>補助交付期間に実施した主な取組</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 地震に関する防災教室（全校児童対象） <ul style="list-style-type: none"> 地震発生直後に、どのような現象が発生するかを考え、どのように行動したらよいかを知る。 ○ 体験型防災教室（第3・4学年児童対象） <ul style="list-style-type: none"> 地震発生後数日間の避難所生活で、不足する物資を身の回りの物で補うことができることを知り、実際に作る。 |
| <p>自校プランの内容</p> | <ul style="list-style-type: none"> 地震発生時の危険性について、校内の様々な場所において具体的に想定させる活動を行う。 防災教室や避難訓練後に、児童から保護者に感想を伝えることや、保護者が児童に思いを伝える学習を行う。 |
| <p>自校プランを継続するための方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> 学校だよりやホームページ等を通して、学校で実施した防災教室の様子を保護者に発信することで、各家庭の防災に関する意識を高める。 学区内や西蒲区内の防災士に防災訓練の指導を依頼することを通して、学校と地域が同じ意識をもって児童の指導を行う体制を整える。 地域の公民館が実施する防災キャンプへの参加を、学校が奨励することを通して、児童の防災に対する意識を高める。 |

2. 和納小学校 「ふるさと新潟防災学習」年間活動計画

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------|--|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 第1学年 | 避難訓練① 火災発生時における避難の仕方 | | | | | | | | | | | |
| 第2学年 | 避難訓練② 地震発生時における避難の仕方（授業中） 引渡訓練（学習参観後） | | | | | | | | | | | |
| 第3学年 | 避難訓練③ 地震発生時における避難の仕方（休み時間中） | | | | | | | | | | | |
| 第4学年 | 体験型防犯教室（不審者対応） | | | | | | | | | | | |
| 第5学年 | 体験型防犯教室（不審者対応） | | | | | | | | | | | |
| 第6学年 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 防災教室① 地震に関する防災教室 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 防災教室② 体験型防災教室 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 防犯教室 (不審者対応) </div> | | | | | | | | | | | |

3.和納小学校 防災教育指導例

全校児童対象

(学習のねらい)

- ・地震発生時に発生する危険を予測し、適切な行動をとることができるようにする。

| | 学習内容（展開例） | 資料や学習のポイント等 |
|------------|---|---|
| 導入 3分 | <p>1. 本時の学習の内容を確認する。</p> <p>① 本時の講師を紹介する。</p> <p>② 本時の学習活動の内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に行った避難訓練時の行動を想起させる。 ・地震発生時の適切な行動を考える学習であることを伝える。 | <p>【資料】 特別教室（音楽室・図書室）の写真入りワークシート</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全校児童を対象とする。縦割り班の班長は、事前に配付したワークシートを持参する。 |
| 展開① 20分 | <p>2. 地震発生時における校内の危険を予測する。</p> <p>① 東日本大震災発生時の動画を見て、身の回りにあるどのような物が動くのかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画を再生する。 ・何が動いていたかを発表させる。 ・地震発生時には、様々な物が「落ちる」「倒れる」「動く」ことを確認する。 <p>② 校内では、どんな物が「落ちる」「倒れる」「動く」のかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの写真にある物で、「落ちる物」「倒れる物」「動くもの」に印を付ける。 ・印を付けたものを発表させる。 | <p>【資料】 地震発生時の実際の動画</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 危険な物の共通点を考えさせる。 ○ 物が「落ちてこない」「倒れない」「動かない」場所に移動することが大切であることに気付かせる。 ○ ワイヤレスマイクを使って児童の発言を全体で共有する。 ○ 様々な学年の児童が発言できるように配慮する。 |
| 展開② 20分 | <p>3. 実際に地震を体験した講師の話聞く。</p> <p>① 中越地震を経験した講師に、当時体験したことについて話していただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を交えて話していただく。 <p>② 質問したり感想を発表したりする。</p> | <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 写真だけでは伝わらないこと（電気、食料、寒さ、避難所、救助方法、連絡方法等）を詳しく語っていただくように依頼する。 ○ 質問、感想は2名程度とする。 |
| まとめ 2分 | <p>4. 学習して分かったことを確認する。</p> <p>① 防災教室終了後、各教室で配付されるワークシートの書き方について説明する。</p> | <p>【資料】 振り返りワークシート（教室で配付）</p> <p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時で学習したことを家族に話すように促す。 ○ 回収後、担任を通じて担当が回収する。 |
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りワークシートを基に評価する。 ・学習したことを家族に話すことができたか。 ・防災教室で学んだこと、感じたことを記述することができたか。 | |

【授業実践の様子】

＜ 地震に関する防災教室の様子（全校児童対象） ＞



① 地震発生時に物が動くことを知る。



③ 自分達が予測したことを発表する。



④ 中越地震の体験者の講演を聞く。

＜ 体験型防災教室の様子（3・4学年児童対象） ＞



新聞紙スリッパ作り

「防災教育」学校・地域連携事業 実施事例集

(平成 28 年度指定校)

平成 29 年 2 月

新潟市教育委員会

制作：新潟市防災教育コンソーシアム

- ・公益社団法人 中越防災安全推進機構
- ・特定非営利活動法人 ふるさと未来創造堂
- ・特定非営利活動法人 新潟NPO協会